

土木工事施工管理基準

平成 29 年 11 月

静岡県交通基盤部監修

総目次

土木工事施工管理基準	施工管理基準1～
出来形管理基準及び規格値	出来形管理基準 1～
品質管理基準及び規格値	品質管理基準1～
写真管理基準	写真管理管理基準1～
その他の取扱基準等	その他の取扱基準等1～
施工管理基準に基づく様式一覧表	様式1～

土木工事施工管理基準

この土木工事施工管理基準（以下、「管理基準」とする。）は、土木工事共通仕様書、第1編1-1-23「施工管理」に規定する土木工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。

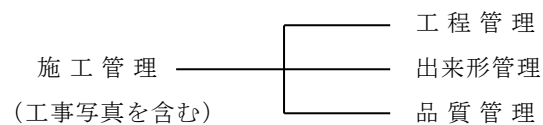
1. 目的

この管理基準は、土木工事の施工について、**契約図書**に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

2. 適用

この管理基準は、静岡県交通基盤部が発注する土木工事について適用する。ただし、**設計図書**に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この管理基準によりがたい場合、または、基準、規格値が定められていない工種については、監督員と**協議**の上、施工管理を行うものとする。

3. 構成



4. 管理の実施

- (1) 受注者は、工事施工前に、**施工管理計画**及び**施工管理担当者**を定めなければならない。
- (2) **施工管理担当者**は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- (3) 受注者は、測定（試験）等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 受注者は、測定（試験）等の結果をその都度管理表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに**提示**するとともに、工事完成時に**提出**しなければならない。

5. 管理項目及び方法

(1) 工程管理

受注者は、工事内容に応じて適切な工程管理（ネットワーク、バーチャート方式など）を行うものとする。ただし、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。

(2) 出来形管理

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理表及び出来形管理図表を作成し管理するものと

する。ただし、主要な管理項目の測定数が5点未満の場合は管理表のみとし、管理図表の作成は不要とする。

なお、測定基準において測定箇所数「〇〇につき1箇所」となっている項目については、小数点以下を切り上げた箇所数測定するものとする。

(3) 品質管理

① 受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理するものとする。ただし、主要な管理項目の測定数が5点未満の場合は管理表のみとし、管理図表の作成は不要とする。

この品質管理基準の適用は、下記に掲げる工種（イ）、（ロ）の条件に該当する工事を除き、試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。

また、試験区分で「その他」となっている試験項目は、特記仕様書で指定するものを実施するものとする。

（イ）路盤

維持工事等の小規模なもの（施工面積が300㎡以下のもの）

（ロ）アスファルト舗装

維持工事等の小規模なもの（施工面積が300㎡以下のもの）

② 受注者は、セメントコンクリートの適用に当たり、無筋コンクリート構造物のうち重力式橋台、橋脚及び重力式擁壁（高さ2.5mを超えるもの）については、鉄筋コンクリートに準ずるものとする。

6. 規格値

受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。

7. その他

（1）工事写真

受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

8. 適用除外

工事内容等により、本規格を適用することが、不適當な場合は、特記仕様書に示し適用除外とする。

出来形管理基準及び規格値

【第1編 共通編】

章、節	条・工種	種 別	準用する出来形管理基準	頁	
第2章 土工					
第3節 河川土工・海岸土工・砂防土工	2-3-2 掘削工			49	
	2-3-3 盛土工			〃	
	2-3-4 盛土補強工	補強土（テールアルメ）壁工法			〃
		多数アンカー式補強土工法			〃
		ジオテキスタイルを用いた補強土工法			〃
	2-3-5 法面整形工			50	
2-3-6 堤防天端工			〃		
第4節 道路土工	2-4-2 掘削工			〃	
	2-4-3 路体盛土工			〃	
	2-4-4 路床盛土工			〃	
	2-4-5 法面整形工	盛土部		51	
第3章 無筋、鉄筋コンクリート					
第7節 鉄筋工	3-7-4 組立て			〃	
第17節 既設RC構造物への削孔	3-17			〃	

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条・工種	種 別	準用する出来形管理基準	頁
第2章 一般施工				
第3節 共通の工種	2-3-4 矢板工（指定仮設・任意仮設は除く）	鋼矢板		52
		軽量鋼矢板		〃
		コンクリート矢板		〃
		幅広鋼矢板		〃
		可とう矢板		〃
	2-3-5 縁石工	縁石・アスカープ		〃
	2-3-6 小型標識工			〃
	2-3-7 防止柵工	立入防止柵		〃
		転落（横断）防止柵		〃
		車止めポスト		〃
	2-3-8 路側防護柵工	ガードレール		53
		ガードケーブル		〃
	2-3-9 区画線工			〃
	2-3-10 道路付属物工	視線誘導標		54
		距離標		〃
	2-3-11 コンクリート面塗装工			〃
	2-3-12 プレテンション桁製作工（購入工）	けた橋		〃
		スラブ桁		55
	2-3-13 ボンステーション桁製作工			〃
	2-3-14 プレキャストセグメント主桁組立工（購入工）			56
	2-3-15 PCホースラフ製作工			〃
	2-3-16 PC箱桁製作工			57
		PC押し箱桁製作		〃
	2-3-17 根固めブロック工			〃
	2-3-18 沈床工			58
	2-3-19 捨石工			〃
	2-3-22 階段工			〃
	2-3-24 伸縮装置工	ゴムジョイント		〃
		鋼製フィンガージョイント		59
	2-3-26 多自然型護岸工	巨石張り、巨石積み		〃
		かごマット		〃
2-3-27 羽口工	じゃかご		60	
	ふとんかご、かご枠		〃	
2-3-28 プレキャストカルバート工	プレキャストボックスカルバート		〃	
	プレキャストパイプ		〃	
2-3-29 側溝工	プレキャストU型側溝		61	
	L型側溝工		〃	
	自由勾配側溝		〃	
	管渠		〃	
	場所打水路工		〃	
	暗渠工		〃	
2-3-30 集水柵工			62	
2-3-31 現場塗装工			〃	
第4節 基礎工	2-4-1 一般事項	切込砂利		63
		砕石基礎工		〃
		割ぐり石基礎工		〃
		均しコンクリート		〃
	2-4-3 基礎工（護岸）	現場打		〃
	プレキャスト		〃	

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条・工種	種 別	準用する出来形管理基準	頁
第4節 基礎工	2-4-4 既製杭工	既製コンクリート杭		63
		鋼管杭		〃
		H鋼杭		〃
		鋼管ソイルセメント杭		64
	2-4-5 場所打杭工			〃
	2-4-6 深礎工			〃
	2-4-7 オープンケーソン基礎工			〃
2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工			65	
2-4-9 鋼管矢板基礎工			〃	
第5節 石・ブロック積(張)工	2-5-3 コンクリートブロック工	コンクリートブロック積		〃
		コンクリートブロック張り		〃
		連節ブロック張り		66
		天端保護ブロック		〃
	2-5-4 緑化ブロック工			〃
2-5-5 石積(張)工			67	
第6節 一般舗装工	2-6-7 アスファルト舗装工	下層路盤工		68
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		〃
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		〃
		加熱アスファルト安定処理工		〃
		基層工		〃
		表層工		69
	2-6-8 半たわみ性舗装工	下層路盤工		〃
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		〃
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		70
		加熱アスファルト安定処理工		〃
		基層工		〃
		表層工		〃
	2-6-9 排水性舗装工	下層路盤工		71
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		〃
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		〃
		加熱アスファルト安定処理工		72
		基層工		〃
		表層工		〃
	2-6-10 透水性舗装工	路盤工		73
表層工			〃	
2-6-11 グースアスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工		74	
	基層工		〃	
	表層工		〃	

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条・工種	種 別	準用する出来形管理基準	頁
第6節 一般舗装工	2-6-12 コンクリート舗装工	下層路盤工		75
		粒度調整路盤工		〃
		セメント（石灰・瀝青）安定処理工		〃
		アスファルト中間層		〃
		コンクリート舗装版工		76
		転圧コンクリート版工（下層路盤工）		〃
		転圧コンクリート版工（粒度調整路盤工）		〃
		転圧コンクリート版工（セメント（石灰・瀝青）安定処理工）		77
		転圧コンクリート版工（アスファルト中間層）		〃
		転圧コンクリート版工		〃
	2-6-13 薄層カラー舗装工	下層路盤工		78
		上層路盤工（粒度調整路盤工）		〃
		上層路盤工（セメント（石灰）安定処理工）		〃
		加熱アスファルト安定処理工		〃
		基層工		〃
	2-6-14 ブロック舗装工	下層路盤工		79
		上層路盤工（粒度調整路盤工）		〃
		上層路盤工（セメント（石灰）安定処理工）		〃
		加熱アスファルト安定処理工		〃
		基層工		〃
2-6-15 路面切削工			80	
2-6-16 舗装打換え工			〃	
2-6-17 オーバーレイ工			〃	
第7節 地盤改良工	2-7-2 路床安定処理工			81
	2-7-3 置換工			〃
	2-7-4 表層安定処理工	サンドマット海上		82
	2-7-5 パイルネット工			〃
	2-7-6 サンドマット工			〃
	2-7-7 パーチカルドレーン工	サンドドレーン工		83
		ペーパードレーン工		〃
		袋詰式サンドドレーン工		〃
	2-7-8 締固め改良工	サンドコンパクションパイル工		〃
	2-7-9 固結工	粉末噴射攪拌		〃
高圧噴射攪拌			〃	
スラリー攪拌			〃	
生石灰パイル			〃	

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条・工種	種 別	準用する出来形管理基準	頁	
第10節 仮設工	2-10-5 土留・仮締切工	H鋼杭		84	
		鋼矢板		〃	
		アンカー工		〃	
		連節ブロック張り工		〃	
		締切盛土		〃	
		中詰盛土		〃	
	2-10-9 地中連続壁工(壁式)			85	
	2-10-10 地中連続壁工(柱列式)			〃	
	2-10-22 法面吹付工		第3編2-14-3吹付工	98	
第11節 軽量盛土工	2-11-2 軽量盛土工		第1編2-4-3路体盛土工	50	
第12節 工場製作工(共通)	2-12-1 一般事項	鋳造費(金属支承工)		86	
		鋳造費(金属支承工)		87	
		鋳造費(大型ゴム支承工)		〃	
		仮設材製作工		88	
		刃口金物製作工		〃	
	2-12-3 桁製作工	仮組検査を実施する場合 (シミュレーション仮組検査を実施する場合)			89
		仮組検査を実施しない場合			90
		鋼製えん堤製作工(仮組立時)			91
	2-12-4 検査路製作工				〃
	2-12-5 鋼製伸縮継手製作工				〃
	2-12-6 落橋防止装置製作工				93
	2-12-7 橋梁用防護柵製作工				〃
	2-12-8 アンカーフレーム製作工				〃
	2-12-9 プレベーム用桁製作工				94
2-12-10 鋼製排水管製作工				〃	
2-12-11 工場塗装工				95	
第13節 橋梁架設工	2-13-3 架設工(鋼橋)	クレーン架設		96	
	2-13-4 架設工(鋼橋)	ケーブルクレーン架設		〃	
	2-13-5 架設工(鋼橋)	ケーブルエレクション架設		〃	
	2-13-6 架設工(鋼橋)	架設桁架設		〃	
	2-13-7 架設工(鋼橋)	送出し架設		〃	
	2-13-8 架設工(鋼橋)	トラバラークレーン架設		〃	
	2-13-3 架設工(コンクリート橋)	クレーン架設			97
		架設桁架設			〃
	2-13-3 架設工支保工	固定			〃
		移動			〃
	2-13-3 架設桁架設	片持架設			〃
押し出し架設				〃	
第14節 法面工(共通)	2-14-2 植生工	種子吹付工		〃	
		張芝工		〃	
		筋芝工		〃	
		市松芝工		〃	
		植生ネット工		〃	
		種子帯工		〃	
		人工張芝工		〃	
植生穴工			〃		

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条・工種	種 別	準用する出来形管理基準	頁
第14節 法面工（共通）	2-14-2 植生工	植生基材吹付工		97
		客土吹付工		〃
	2-14-3 吹付工	コンクリート		98
		モルタル		〃
	2-14-4 法枠工	現場打法枠工		〃
		現場吹付法枠工		〃
プレキャスト法枠工			〃	
2-14-6 アンカー工			99	
第15節 擁壁工（共通）	2-15-1 一般事項	場所打擁壁工		〃
	2-15-2 プレキャスト擁壁工			〃
	2-15-3 補強土壁工	補強土（テールアルメ） 壁工法		100
		多数アンカー式補強土工 法		〃
		ジオテキスタイルを用い た補強土工法		〃
2-15-4 井桁ブロック工			〃	
第16節 浚渫工（共通）	2-16-3 浚渫船運転工	ポンプ浚渫船		101
		グラブ浚渫船		〃
		バックホウ浚渫船		〃
第18節 床版工	2-18-2 床版工			〃

【第6編 河川編】

章、節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁	
第1章 築堤・護岸					
第1節 適用				102	
第3節 軽量盛土工	1-3-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	50	
第4節 地盤改良工	1-4-2 表層安定処理工		第3編2-7-4 表層安定処理工	82	
	1-4-3 パイルネット工		第3編2-7-5 パイルネット工	〃	
	1-4-4 パーチカルドレーン		第3編2-7-7 パーチカルドレーン工	83	
	1-4-5 締固め改良工		第3編2-7-8 締固め改良工	〃	
	1-4-6 固結工		第3編2-7-9 固結工	〃	
第5節 護岸基礎工	1-5-3 基礎工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	63	
	1-5-4 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	
第6節 矢板護岸工	1-6-3 笠コンクリート工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	63	
	1-6-4 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	
第7節 法覆護岸工	1-7-3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65	
	1-7-4 護岸付属物工			102	
	1-7-5 緑化ブロック工		第3編2-5-4 緑化ブロック工	66	
	1-7-6 環境護岸ブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65	
	1-7-7 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	67	
	1-7-8 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	98	
	1-7-9 多自然型護岸工	巨石張り		第3編2-3-26 多自然型護岸工	59
		巨石積み		第3編2-3-26 多自然型護岸工	〃
		かごマット		第3編2-3-26 多自然型護岸工	〃
	1-7-10 吹付工		第3編2-14-3 吹付工	98	
	1-7-11 植生工		第3編2-14-2 植生工	97	
	1-7-12 覆土工		第1編2-3-5 法面整形工	50	
	1-7-13 羽口工	じゃかご		第3編2-3-27 羽口工	60
ふとんかご			第3編2-3-27 羽口工	〃	
かご枠			第3編2-3-27 羽口工	〃	
連節ブロック張り			第3編2-5-3 連節ブロック張り	66	
第8節 擁壁護岸工	1-8-3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	99	
	1-8-4 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	〃	
第9節 根固め工	1-9-3 根固めブロック工		第3編2-3-17 根固めブロック工	57	
	1-9-5 沈床工		第3編2-3-18 沈床工	58	
	1-9-6 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	〃	
	1-9-7 かご工	じゃかご		第3編2-3-27 羽口工	60
		ふとんかご		第3編2-3-27 羽口工	〃
第10節 水制工	1-10-3 沈床工		第3編2-3-18 沈床工	58	
	1-10-4 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	〃	
	1-10-5 かご工	じゃかご		第3編2-3-27 羽口工	60
		ふとんかご		第3編2-3-27 羽口工	〃
	1-10-8 杭出し水制工			103	

【第6編 河川編】

章、節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁	
第11節 付帯道路工	1-11-7 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	78	
	1-11-8 ブロック舗装工		第3編2-6-14 ブロック舗装工	79	
	1-11-9 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	61	
	1-11-10 集水柵工		第3編2-3-30 集水柵工	62	
	1-11-11 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	52	
	1-11-12 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	53	
第12節 付帯道路施設工	1-12-3 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	54	
	1-12-4 標識工		第3編2-3-6 小型標識工	52	
第13節 光ケーブル配管工	1-13-3 配管工			103	
	1-13-4 ハンドホール工			〃	
第2章 浚渫(河川)					
第3節 浚渫工(ポンプ浚渫船)	2-3-2 浚渫船運転工(民船・官船)		第3編2-16-3 浚渫船運転工	101	
第4節 浚渫工(グラブ船)	2-4-2 浚渫船運転工		第3編2-16-3 浚渫船運転工	〃	
第5節 浚渫工(バックホウ浚渫船)	2-5-2 浚渫船運転工		第3編2-16-3 浚渫船運転工	〃	
第3章 樋門・樋管					
第3節 軽量盛土工	3-3-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	50	
第4節 地盤改良工	3-4-2 固結工		第3編2-7-9 固結工	83	
第5節 樋門・樋管本体工	3-5-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63	
	3-5-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64	
	3-5-5 矢板工		本体工		104
			ヒューム管		〃
			PC管		〃
			コルゲートパイプ		〃
			ダクタイル鋳鉄管		〃
			PC函渠	第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	60
	3-5-7 翼壁工			105	
	3-5-8 水叩工			〃	
第6節 護床工	3-6-3 根固めブロック工		第3編2-3-17 根固めブロック工	57	
	3-6-5 沈床工		第3編2-3-18 沈床工	58	
	3-6-6 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	〃	
	3-6-7 かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	60	
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	〃	
第7節 水路工	3-7-3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	61	
	3-7-4 集水柵工		第3編2-3-30 集水柵工	62	
	3-7-5 暗渠工		第3編2-3-29 側溝工	61	
	3-7-6 樋門接続暗渠工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	60	
第8節 付属物設置工	3-8-3 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	52	
	3-8-7 階段工		第3編2-3-22 階段工	58	

【第6編 河川編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第4章 水門				
第3節 工場製作工	4-3-3	桁製作工	第3編2-12-3 桁製作工	89
	4-3-4	鋼製伸縮継手製作工	第3編2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	92
	4-3-5	落橋防止装置製作工	第3編2-12-6 落橋防止装置製作工	93
	4-3-6	鋼製排水管製作工	第3編2-12-10 鋼製排水管製作工	94
	4-3-7	橋梁用防護柵製作工	第3編2-12-7 橋梁用防護柵製作工	93
	4-3-9	仮設材製作工	第3編2-12-1 一般事項	88
	4-3-10	工場塗装工	第3編2-12-11 工場塗装工	95
第5節 軽量盛土工	4-5-2	軽量盛土工	第1編2-4-3 路体盛土工	50
第6節 水門本体工	4-6-4	既製杭工	第3編2-4-4 既製杭工	63
	4-6-5	場所打杭工	第3編2-4-5 場所打杭工	64
	4-6-6	矢板工 (遮水矢板)	第3編2-3-4 矢板工	52
	4-6-7	床版工		105
	4-6-8	堰柱工		〃
	4-6-9	門柱工		〃
	4-6-10	ゲート操作台工		〃
	4-6-11	胸壁工		〃
	4-6-12	翼壁工	第6編3-5-7 翼壁工	〃
	4-6-13	水叩工	第6編3-5-8 水叩工	〃
第7節 護床工	4-7-3	根固めブロック工	第3編2-3-17 根固めブロック工	57
	4-7-5	沈床工	第3編2-3-18 沈床工	58
	4-7-6	捨石工	第3編2-3-19 捨石工	〃
	4-7-7	かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工
ふとんかご			第3編2-3-27 羽口工	〃
第8節 付属物設置工	4-8-3	防止柵工	第3編2-3-7 防止柵工	52
	4-8-8	階段工	第3編2-3-22 階段工	58
第9節 鋼管理橋上部工	4-9-4	架設工 (クレーン架設)	第3編2-13-3 架設工 (クレーン架設)	96
	4-9-5	架設工 (ケーブルクレーン架設)	第3編2-13-4 架設工 (ケーブルクレーン架設)	〃
	4-9-6	架設工 (ケーブルエレクション架設)	第3編2-13-5 架設工 (ケーブルエレクション架設)	〃
	4-9-7	架設工 (架設桁架設)	第3編2-13-6 架設工 (架設桁架設)	〃
	4-9-8	架設工 (送出し架設)	第3編2-13-7 架設工 (送出し架設)	〃
	4-9-9	架設工 (トラベラークレーン架設)	第3編2-13-8 架設工 (トラベラークレーン架設)	〃
	4-9-10	支承工	第10編4-5-10 支承工	137
第10節 橋梁現場塗装工	4-10-2	現場塗装工	第3編2-3-31 現場塗装工	62
第11節 床版工	4-11-2	床版工	第3編2-18-2 床版工	101

【第6編 河川編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第12節 橋梁付属物工（鋼管理橋）	4-12-2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	58
	4-12-4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	139
	4-12-5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工	139
	4-12-6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	4-12-7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	〃
第14節 コンクリート管理橋上部工（PC橋）	4-14-2 プレテンション桁製作工（購入工）		第3編2-3-12 プレテンション桁製作工（購入工）	54
	4-14-3 ポストテンション桁製作工		第3編2-3-13 ポストテンション桁製作工	55
	4-14-4 プレキャストセグメント製作工（購入工）		第3編2-3-12 プレキャストセグメント桁製作工（購入工）	54
	4-14-5 プレキャストセグメント主桁組立工		第3編2-3-14 プレキャストセグメント主桁組立工	56
	4-14-6 支承工		第10編4-5-10 支承工	137
	4-14-7 架設工（クレーン架設）		第3編2-13-3 橋梁架設工（コンクリート橋）	97
	4-14-8 架設工（架設桁架設）		第3編2-13-3 橋梁架設工（コンクリート橋）	〃
	4-14-9 床版・横組工		第3編2-18-2 床版工	101
	4-14-10 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	138
	第15節 コンクリート管理橋上部工（PCホロースラブ橋）	4-15-3 支承工		第10編4-5-10 支承工
4-15-4 落橋防止装置工			第10編4-8-3 落橋防止装置工	138
4-15-5 PCホロースラブ製作工			第3編2-3-15 PCホロースラブ製作工	56
第16節 橋梁付属物工（コンクリート管理橋）	4-16-2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	58
	4-16-4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	139
	4-16-5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工	〃
	4-16-6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	4-16-7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	〃

【第6編 河川編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁	
第18節 舗装工	4-18-5	アスファルト舗装工	第3編2-6-7 アスファルト舗装工	68	
	4-18-6	半たわみ性舗装工	第3編2-6-8 半たわみ性舗装工	69	
	4-18-7	排水性舗装工	第3編2-6-9 排水性舗装工	71	
	4-18-8	透水性舗装工	第3編2-6-10 透水性舗装工	73	
	4-18-9	グースアスファルト舗装工	第3編2-6-11 グースアスファルト舗装工	74	
	4-18-10	コンクリート舗装工	第3編2-6-12 コンクリート舗装工	75	
	4-18-11	薄層カラー舗装工	第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	78	
	4-18-12	ブロック舗装工	第3編2-6-14 ブロック舗装工	79	
第5章 堰					
第3節 工場製作工	5-3-3	刃口金物製作工	第3編2-12-1 一般事項	88	
	5-3-4	桁製作工	第3編2-12-3 桁製作工	89	
	5-3-5	検査路製作工	第3編2-12-4 検査路製作工	92	
	5-3-6	鋼製伸縮継手製作工	第3編2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	〃	
	5-3-7	落橋防止装置製作工	第3編2-12-6 落橋防止装置製作工	93	
	5-3-8	鋼製排水管製作工	第3編2-12-10 鋼製排水管製作工	94	
	5-3-9	プレビーム用桁製作工	第3編2-12-9 プレビーム用桁製作工	〃	
	5-3-10	橋梁用防護柵製作工	第3編2-12-7 橋梁用防護柵製作工	93	
	5-3-12	アンカーフレーム製作工	第3編2-12-8 アンカーフレーム製作工	〃	
	5-3-13	仮設材製作工	第3編2-12-1 一般事項	88	
	5-3-14	工場塗装工	第3編2-12-11 工場塗装工	95	
	第5節 軽量盛土工	5-5-2	軽量盛土工	第1編2-4-3 路体盛土工	50
	第6節 可動堰本体工	5-6-3	既製杭工	第3編2-4-4 既製杭工	63
		5-6-4	場所打杭工	第3編2-4-5 場所打杭工	64
5-6-5		オープンケーソン基礎工	第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	〃	
5-6-6		ニューマチックケーソン基礎工	第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	65	
5-6-7		矢板工	第3編2-3-4 矢板工	52	
5-6-8		床版工	第6編4-6-7 床版工	105	
5-6-9		堰柱工	第6編4-6-8 堰柱工	〃	
5-6-10		門柱工	第6編4-6-9 門柱工	〃	
5-6-11		ゲート操作台工	第6編4-6-10 ゲート操作台工	〃	
5-6-12		水叩工	第6編3-5-8 水叩工	〃	
5-6-13		閘門工	第6編4-6-8 堰柱工	〃	
5-6-14		土砂吐工	第6編5-7-8 堰本体工	〃	
5-6-15		取付擁壁工	第3編2-15-1 一般事項	99	

【第6編 河川編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第7節 固定堰本体工	5-7-3	既製杭工	第3編2-4-4既製杭工	63
	5-7-4	場所打杭工	第3編2-4-5場所打杭工	64
	5-7-5	オープンケーソン基礎工	第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	〃
	5-7-6	ニューマチックケーソン基礎工	第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	65
	5-7-7	矢板工	第3編2-3-4矢板工	52
	5-7-8	堰本体工		105
	5-7-9	水叩工	第6編5-6-12水叩工	〃
	5-7-10	土砂吐工	第6編5-7-8堰本体工	〃
	5-7-11	取付擁壁工	第3編2-15-1一般事項	99
第8節 魚道工	5-8-3	魚道本体工		106
第9節 管理橋下部工	5-9-2	管理橋橋台工		〃
第10節 鋼管理橋上部工	5-10-4	架設工(クレーン架設)	第3編2-13-3 架設工(クレーン架設)	96
	5-10-5	架設工(ケーブルクレーン架設)	第3編2-13-4 架設工(ケーブルクレーン架設)	〃
	5-10-6	架設工(ケーブルエレクション架設)	第3編2-13-5 架設工(ケーブルエレクション架設)	〃
	5-10-7	架設工(架設桁架設)	第3編2-13-6 架設工(架設桁架設)	〃
	5-10-8	架設工(送出し架設)	第3編2-13-7 架設工(送出し架設)	〃
	5-10-9	架設工(トラベラークレーン架設)	第3編2-13-8 架設工(トラベラークレーン架設)	〃
	5-10-10	支承工	第10編4-5-10支承工	137
第11節 橋梁現場塗装工	5-11-2	現場塗装工	第3編2-3-31現場塗装工	62
第12節 床版工	5-12-2	床版工	第3編2-18-2床版工	101
第13節 橋梁付属物工(鋼管理橋)	5-13-2	伸縮装置工	第3編2-3-24伸縮装置工	59
	5-13-4	地覆工	第10編4-8-5地覆工	139
	5-13-5	橋梁用防護柵工	第10編4-8-6 橋梁用防護柵工	〃
	5-13-6	橋梁用高欄工	第10編4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	5-13-7	検査路工	第10編4-8-8検査路工	〃

【第6編 河川編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第 15 節 コンクリート管理 橋上部工 (PC 橋)	5-15-2	プレテンション 桁製作工 (購入 工)	第3編2-3-12 プレテンション桁製作工 (購 入工)	54
	5-15-3	ポストテンショ ン桁製作工	第3編2-3-13 ポストテンション桁製作工	55
	5-15-4	プレキャストセ グメント製作工 (購入工)	第3編2-3-12 プレテンション桁製作工 (購 入工)	54
	5-15-5	プレキャストセ グメント主桁組 立工	第3編2-3-14 プレキャストセグメント主桁 組立工	56
	5-15-6	支承工	第10編4-5-10 支承工	137
	5-15-7	架設工 (クレーン 架設)	第3編2-13-3 架設工 (コンクリート橋)	97
	5-1-8	架設工 (架設桁架 設)	第3編2-13-3 架設工 (コンクリート橋)	〃
	5-15-9	床版・横組工	第3編2-18-2 床版工	101
	5-15-10	落橋防止装置工	第10編4-8-3 落橋防止装置工	138
	第 16 節 コンクリート管理 橋上部工 (PC 橋ホ ロースラブ橋)	5-16-3	支承工	第10編4-5-10 支承工
5-16-4		落橋防止装置工	第10編4-8-3 落橋防止装置工	138
5-16-5		PC ホロースラ ブ製作工	第3編2-3-15 PC ホロースラブ製作工	56
第 17 節 コンクリート管理 橋上部工 (PC 箱桁 橋)	5-17-3	支承工	第10編4-5-10 支承工	137
	5-17-4	PC 箱桁製作工	第3編2-3-16 PC 箱桁製作工	57
	5-17-5	落橋防止装置工	第10編4-8-3 落橋防止装置工	138
第 18 節 橋梁付属物工 (コ ンクリート管理橋)	5-18-2	伸縮装置工	第3編2-3-24 伸縮装置工	58
	5-18-4	地覆工	第10編4-8-5 地覆工	139
	5-18-5	橋梁用防護柵工	第10編4-8-6 橋梁用防護柵工	〃
	5-18-6	橋梁用高欄工	第10編4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	5-18-7	検査路工	第10編4-8-8 検査路工	〃
第 20 節 付属物設置工	5-20-3	防止柵工	第3編2-3-7 防止柵工	52
	5-20-7	階段工	第3編2-3-22 階段工	58

【第6編 河川編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁	
第6章 排水機場					
第3節 軽量盛土工	6-3-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	50	
第4節 機場本体内	6-4-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63	
	6-4-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64	
	6-4-5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	
	6-4-6 本体内			107	
	6-4-7 燃料貯油槽工			〃	
第5節 沈砂池工	6-5-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63	
	6-5-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64	
	6-5-5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	
	6-5-6 場所打擁壁工		第3編2-15-1 一般事項	99	
	6-5-7 コンクリート床版工			107	
第6節 吐出水槽工	6-5-8 ブロック床版工		第3編2-3-17 根固めブロック	57	
	6-5-9 場所打水路工		第3編2-3-29 側溝工	61	
第6節 吐出水槽工	6-6-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63	
	6-6-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64	
	6-6-5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	
	6-6-6 本体内		第6編6-4-6 本体内	107	
第7章 床止め・床固め					
第3節 軽量盛土工	7-3-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	50	
第4節 床止め工	7-4-4 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63	
	7-4-5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	
	7-4-6 本体内	床固め本体内			108
		植石張り		第3編2-5-5 石積(張)工	67
		根固めブロック		第3編2-3-17 根固めブロック工	57
	7-4-7 取付擁壁工		第3編2-15-1 一般事項	99	
	7-4-8 水叩工	水叩工			108
		巨石張り		第3編2-3-26 多自然型護岸工	59
		根固めブロック		第3編2-3-17 根固めブロック	57
	第5節 床固め工	7-5-4 本堤工		第6編7-4-6 本体内	108
7-5-5 垂直壁工			第6編7-4-6 本体内	〃	
7-5-6 側壁工				〃	
7-5-7 水叩工			第6編7-4-8 水叩工	〃	
第6節 山留擁壁工	7-6-3 コンクリート擁壁工		第3編2-15-1 一般事項	99	
	7-6-4 ブロック積擁壁工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65	
	7-6-5 石積擁壁工		第3編2-5-5 石積(張)工	67	
	7-6-6 山留擁壁基礎工		第3編2-4-3 基礎工 (護岸)	63	

【第6編 河川編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第8章 河川維持				
第7節 路面補修工	8-7-3 不陸整正工		第1編2-3-6 堤防天端工	50
	8-7-4 コンクリート舗装補修工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	75
	8-7-5 アスファルト舗装補修工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	68
第8節 付属物復旧工	8-8-2 付属物復旧工		第3編2-3-8 路側防護柵工	53
第9節 付属物設置工	8-9-3 防護柵工		第3編2-3-7 防止柵工	52
	8-9-5 付属物設置工		第3編2-3-10 道路付属物工	54
第10節 光ケーブル配管工	8-10-3 配管工		第6編1-13-3 配管工	103
	8-10-4 ハンドホール工		第6編1-13-4 ハンドホール工	〃
第12節 植栽維持工	8-12-3 樹木・芝生管理工		第3編2-14-2 植生工	97
第9章 河川修繕				
第3節 軽量盛土工	9-3-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	50
第4節 腹付工	9-4-2 覆土工		第1編2-3-5 法面整形工	〃
	9-4-3 植生工		第3編2-14-2 植生工	97
第5節 側帯工	9-5-2 縁切工	じゃかご工	第3編2-3-27 羽口工	60
		連節ブロック張り	第3編2-5-3 コンクリートブロック工	66
		コンクリートブロック張り	第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65
		石張工	第3編2-5-5 石積(張)工	67
	9-5-3 植生工		第3編2-14-2 植生工	97
第6節 堤脚保護工	9-6-3 石積工		第3編2-5-5 石積(張)工	67
	9-6-4 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65
第7節 管理用通路工	9-7-2 防護柵工		第3編2-3-7 防止柵工	52
	9-7-4 路面切削工		第3編2-6-15 路面切削工	80
	9-7-5 舗装打換え工		第3編2-6-16 舗装打換え工	〃
	9-7-6 オーバーレイ工		第3編2-6-17 オーバーレイ工	〃
	9-7-7 排水構造物工	プレキャストU型側溝・管(函)渠	第3編2-3-29 側溝工	61
		集水樹工	第3編2-3-30 集水樹工	62
9-7-8 道路付属物工	歩車道境界ブロック	第3編2-3-5 縁石工	52	
第8節 現場塗装工	9-8-3 付属物塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	62
	9-8-4 コンクリート面塗装工		第3編2-3-11 コンクリート面塗装工	54

【第7編 海岸編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁	
第1章 堤防・護岸					
第3節 軽量盛土工	1-3-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	50	
第4節 地盤改良工	1-4-2 表層安定処理工		第3編2-7-4 表層安定処理工	82	
	1-4-3 パイルネット工		第3編2-7-5 パイルネット工	〃	
	1-4-4 バーチカルドレーン工		第3編2-7-7 バーチカルドレーン工	83	
	1-4-5 締固め改良工		第3編2-7-8 締固め改良工	〃	
	1-4-6 固結工		第3編2-7-9 固結工	〃	
第5節 護岸基礎工	1-5-4 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	58	
	1-5-5 場所打コンクリート工			109	
	1-5-6 海岸コンクリートブロック工			〃	
	1-5-7 笠コンクリート工		第3編2-4-3 基礎工 (護岸)	63	
	1-5-8 基礎工		第3編2-4-3 基礎工 (護岸)	〃	
	1-5-9 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	
第6節 護岸工	1-6-3 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	67	
	1-6-4 海岸コンクリートブロック工		第7編1-5-6 海岸コンクリートブロック工	109	
	1-6-5 コンクリート被覆工			110	
第7節 擁壁工	1-7-3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 一般事項	99	
第8節 天端被覆工	1-8-2 コンクリート被覆工			110	
第9節 波返工	1-9-3 波返工			〃	
第10節 裏法被覆工	1-10-2 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	67	
	1-10-3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65	
	1-10-4 コンクリート被覆工		第7編1-6-5 コンクリート被覆工	110	
	1-10-5 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	98	
第11節 カルバート工	1-11-3 プレキャストカルバート工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	60	
第12節 排水構造物工	1-12-3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	61	
	1-12-4 集水柵工		第3編2-3-30 集水柵工	62	
	1-12-5 管渠工	プレキャストパイプ		第3編2-3-29 側溝工	61
		プレキャストボックス		第3編2-3-29 側溝工	〃
		コルゲートパイプ		第3編2-3-29 側溝工	〃
		タグタイル・鑄鉄管		第3編2-3-29 側溝工	〃
1-12-6 場所打水路工		第3編2-3-29 側溝工	〃		
第13節 付属物設置工	1-13-3 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	52	
	1-13-6 階段工		第3編2-3-22 階段工	58	
第14節 付帯道路工	1-14-3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	53	
	1-14-5 アスファルト舗装工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	68	
	1-14-6 コンクリート舗装工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	75	

【第7編 海岸編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁	
第14節 付帯道路工	1-14-7 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	78	
	1-14-8 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	61	
	1-14-9 集水柵工		第3編2-3-30 集水柵工	62	
	1-14-10 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	52	
	1-14-11 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	53	
第15節 付帯道路施設工	1-15-3 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	54	
	1-15-4 小型標識工		第3編2-3-6 小型標識工	52	
第2章 突堤・人工岬					
第3節 軽量盛土工	2-3-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	50	
第4節 突堤基礎工	2-4-4 捨石工			111	
	2-4-5 吸出し防止工			〃	
第5節 突堤本体工	2-5-2 捨石工			〃	
	2-5-5 海岸コンクリートブロック工			112	
	2-5-6 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63	
	2-5-7 詰杭工		第3編2-4-4 既製杭工	〃	
	2-5-8 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	
	2-5-9 石枠工			112	
	2-5-10 場所打コンクリート工			〃	
	2-5-11 ケーソン工	ケーソン工製作			113
		ケーソン工据付			〃
		突堤上部工（場所打コンクリート）（海岸コンクリートブロック）			〃
	2-5-12 セルラー工	セルラー工製作			114
セルラー工据付				〃	
突堤上部工（場所打コンクリート）（海岸コンクリートブロック）				〃	
第6節 根固め工	2-6-2 捨石工			〃	
	2-6-3 根固めブロック工			115	
第7節 消波工	2-7-2 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	58	
	2-7-3 消波ブロック工			115	
第3章 海域堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）					
第3節 海域堤基礎工	3-3-3 捨石工			115	
	3-3-4 吸出し防止工		第7編2-4-5 吸出し防止工	111	
第4節 海域堤本体工	3-4-2 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	58	
	3-4-3 海岸コンクリートブロック工		第7編2-5-5 海岸コンクリートブロック工	112	
	3-4-4 ケーソン工		第7編2-5-11 ケーソン工	113	
	3-4-5 セルラー工		第7編2-5-12 セルラー工	114	
	3-4-6 場所打コンクリート工		第7編2-5-10 場所打ちコンクリート工	112	
第4章 浚渫（海岸）					
第3節 浚渫工（ポンプ浚渫船）	4-3-2 浚渫船運転工		第3編2-16-3 浚渫船運転工	101	
第4節 浚渫工（グラブ船）	4-4-2 浚渫船運転工		第3編2-16-3 浚渫船運転工	〃	
第5章 養浜					
第3節 軽量盛土工	5-3-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	50	
第4節 砂止工	5-4-2 根固めブロック工		第7編2-6-3 根固めブロック工	115	

【第8編 砂防編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第1章 砂防えん堤				
第3節 工場製作工	1-3-3 鋼製えん堤製作工		第3編2-12-3 桁製作工（鋼製えん堤製作工 （仮組立時））	92
	1-3-4 鋼製えん堤仮設 材製作工			116
	1-3-5 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	95
第5節 軽量盛土工	1-5-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	50
第6節 法面工	1-6-2 植生工		第3編2-14-2 植生工	97
	1-6-3 法面吹付工		第3編2-14-3 吹付工	98
	1-6-4 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	〃
	1-6-6 アンカー工		第3編2-14-6 アンカー工	99
	1-6-7 かが工	じゃかご ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工 第3編2-3-27 羽口工	60 〃
第8節 コンクリートえん 堤工	1-8-4 コンクリートえん 堤本体工			116
	1-8-5 コンクリート副 えん堤工		第8編1-8-4 コンクリートえん堤本体工	〃
	1-8-6 コンクリート側 壁工			〃
	1-8-8 水叩工			117
第9節 鋼製えん堤工	1-9-5 鋼製えん堤本体 工	不透過型 透過型		〃 〃
	1-9-6 鋼製側壁工			118
	1-9-7 コンクリート側 壁工		第8編1-8-6 コンクリート側壁工	116
	1-9-9 水叩工		第8編1-8-8 水叩工	117
	1-9-10 現場塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	62
第10節 護床工・根固め工	1-10-4 根固めブロック 工		第3編2-3-17 根固めブロック工	57
	1-10-6 沈床工		第3編2-3-18 沈床工	58
	1-10-7 かが工	じゃかご ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工 第3編2-3-27 羽口工	60 〃
第11節 砂防えん堤付属物 設置工	1-11-3 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	52
第12節 付帯道路工	1-12-3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	53
	1-12-5 アスファルト舗 装工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	68
	1-12-6 コンクリート舗 装工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	75
	1-12-7 薄層カラー舗装 工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	78
	1-12-8 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	61
	1-12-9 集水柵工		第3編2-3-30 集水柵工	62
	1-12-10 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	52
	1-12-11 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	53
第13節 付帯道路施設工	1-13-3 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	54
	1-13-4 小型標識工		第3編2-3-6 小型標識工	52

【第8編 砂防編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第2章 流路				
第3節 軽量盛土工	2-3-2 軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	50
第4節 流路護岸工	2-4-4 基礎工		第3編 2-4-3 基礎工 (護岸)	63
	2-4-5 コンクリート擁壁工		第3編 2-15-1 一般事項	99
	2-4-6 ブロック積擁壁工		第3編 2-5-3 コンクリートブロック工	65
	2-4-7 石積擁壁工		第3編 2-5-5 石積(張)工	67
	2-4-8 護岸付属物工		第6編 1-7-4 護岸付属物工	102
	2-4-9 植生工		第3編 2-14-2 植生工	97
第5節 床固め工	2-5-4 床固め本体工		第8編 1-8-4 コンクリートえん堤本体工	116
	2-5-5 垂直壁工		第8編 1-8-4 コンクリートえん堤本体工	〃
	2-5-6 側壁工		第8編 1-8-6 コンクリート側壁工	〃
	2-5-7 水叩工		第8編 1-8-8 水叩工	117
	2-5-8 魚道工			118
第6節 根固め・水制工	2-6-4 根固めブロック工		第3編 2-3-17 根固めブロック工	57
	2-6-6 捨石工		第3編 2-3-19 捨石工	58
	2-6-7 かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	60
		ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	〃
	かごマット	第3編 2-3-26 多自然型護岸工	59	
第7節 流路付属物設置工	2-7-2 階段工		第3編 2-3-22 階段工	58
	2-7-3 防止柵工		第3編 2-3-7 防止柵工	52
第3章 斜面对策				
第3節 軽量盛土工	3-3-2 軽量盛土工		第1編 2-4-3 路体盛土工	50
第4節 法面工	3-4-2 植生工		第3編 2-14-2 植生工	97
	3-4-3 吹付工		第3編 2-14-3 吹付工	98
	3-4-4 法枠工		第3編 2-14-4 法枠工	〃
	3-4-5 かご工	じゃかご	第3編 2-3-27 羽口工	60
		ふとんかご	第3編 2-3-27 羽口工	〃
	3-4-6 グランドアンダー工		第3編 2-14-6 アンカー工	99
	3-4-7 鉄筋挿入工	ロックボルト工		118
第5節 擁壁工	3-5-3 既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	63
	3-5-4 場所打擁壁工		第3編 2-15-1 一般事項	99
	3-5-5 プレキャスト擁壁工		第3編 2-15-2 プレキャスト擁壁工	〃
	3-5-6 補強土壁工		第3編 2-15-3 補強土壁工	100
	3-5-7 井桁ブロック工		第3編 2-15-4 井桁ブロック工	〃
	3-5-8 落石防護工		第10編 1-11-5 落石防護柵工	127
	3-6-3 山腹集水路・排水路工		第3編 2-3-29 側溝工	61
	3-6-4 山腹明暗渠工			119
	3-6-5 山腹暗渠工		第3編 2-3-29 側溝工	61
	3-6-6 現場打水路工		第3編 2-3-29 側溝工	〃
	3-6-7 集水柵工		第3編 2-3-30 集水柵工	62
	3-7-4 集排水ボーリング工			120
	3-7-5 集水井工			〃
	3-8-3 場所打擁壁工		第3編 2-15-1 一般事項	99
	3-8-4 固結工		第3編 2-7-9 固結工	83
	3-8-5 矢板工		第3編 2-3-4 矢板工	52
	3-9-3 既製杭工		第3編 2-4-4 既製杭工	63
	3-9-4 場所打杭工		第3編 2-4-5 場所打杭工	64
	3-9-5 シャフト工(深礎工)		第3編 2-4-6 深礎工	〃
3-9-6 合成杭工			120	

【第8編 砂 防 編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第6節 山腹水路工	3-6-3 山腹集水路・排水 路工		第3編2-3-29 側溝工	61
	3-6-4 山腹明暗渠工			119
	3-6-5 山腹暗渠工		第3編2-3-29 側溝工	61
	3-6-6 現場打水路工		第3編2-3-29 側溝工	〃
	3-6-7 集水柵工		第3編2-3-30 集水柵工	62
第7節 地下水排除工	3-7-4 集排水ボーリン グ工			120
	3-7-5 集水井工			〃
第8節 地下水遮断工	3-8-3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 一般事項	99
	3-8-4 固結工		第3編2-7-9 固結工	83
	3-8-5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52
第9節 抑止杭工	3-9-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63
	3-9-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64
	3-9-5 シャフト工 (深礎 工)		第3編2-4-6 深礎工	〃
	3-9-6 合成杭工			120

【第9編 ダム編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第1章	コンクリートダム			
第4節	ダムコンクリート工	1-4 コンクリートダム工 (本体)		121
		1-4 コンクリートダム工 (水叩)		〃
		1-4 コンクリートダム工 (副ダム)		122
		1-4 コンクリートダム工 (導流壁)		123
第2章	フィルダム			
第4節	盛立工	2-4-5 コアの盛立		124
		2-4-6 フィルターの盛立		〃
		2-4-7 ロックの盛立		〃
		2 フィルダム (洪水吐)		125
第3章	基礎グラウチング			
第3節	ボーリング工	3-3 ボーリング工		125

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第1章 道路改良				
第1節 適用		道路工		126
第3節 工場製作工	1-3-2 遮音壁支柱製作工	遮音壁支柱製作工 工場塗装工	第3編2-12-11 工場塗装工	// 95
第5節 法面工	1-5-2 植生工		第3編2-14-2 植生工	97
	1-5-3 法面吹付工		第3編2-14-3 吹付工	98
	1-5-4 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	//
	1-5-6 アンカー工		第3編2-14-6 アンカー工	99
	1-5-7 かご工	じゃかご ふとんかご	第3編2-3-27 じゃかご 第3編2-3-27 ふとんかご、かご枠	60 //
第7節 擁壁工	1-7-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63
	1-7-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64
	1-7-5 場所打擁壁工		第3編2-15-1 一般事項	99
	1-7-6 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	99
	1-7-7 補強土壁工	補強土（テールアルメ）壁工法	第1編2-3-4 盛土補強工	49
		多数アンカー式補強土工法	第1編2-3-4 盛土補強工	//
		ジオテキスタイルを用いた補強土工法	第1編2-3-4 盛土補強工	//
1-7-8 井桁ブロック工		第3編2-15-4 井桁ブロック工	100	
第8節 石・ブロック積（張）工	1-8-3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65
	1-8-4 石積（張）工		第3編2-5-5 石積（張）工	67
第9節 カルバート工	1-9-4 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63
	1-9-5 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64
	1-9-6 場所打函渠工			126
	1-9-7 プレキャストカルバート工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	60
第10節 排水構造物工（小型水路工）	1-10-3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	61
	1-10-4 管渠工		第3編2-3-29 側溝工	//
	1-10-5 集水柵・マンホール工		第3編2-3-30 集水柵工	62
	1-10-6 地下排水工		第3編2-3-29 側溝工	61
	1-10-7 場所打水路工		第3編2-3-29 側溝工	//
	1-10-8 排水工（小段排水・縦排水）		第3編2-3-29 側溝工	//
第11節 落石雪害防止工	1-11-4 落石防止網工			126
	1-11-5 落石防護柵工			127
	1-11-6 防雪柵工			//
	1-11-7 雪崩予防柵工			//
第12節 遮音壁工	1-12-4 遮音壁基礎工			128
	1-12-5 遮音壁本体工			//

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第2章 舗装				
第4節 舗装工	2-4-5 アスファルト舗装工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	68
	2-4-6 半たわみ性舗装工		第3編2-6-8 半たわみ性舗装工	69
	2-4-7 排水性舗装工		第3編2-6-9 排水性舗装工	71
	2-4-8 透水性舗装工		第3編2-6-10 透水性舗装工	73
	2-4-9 グースアスファルト舗装工		第3編2-6-11 グースアスファルト舗装工	74
	2-4-10 コンクリート舗装工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	75
	2-4-11 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	78
	2-4-12 ブロック舗装工		第3編2-6-14 ブロック舗装工	79
	2-4 歩道路盤工			129
	2-4 取合舗装路盤工			〃
	2-4 路肩舗装路盤工			〃
	2-4 歩道舗装工			〃
	2-4 取合舗装工			〃
	2-4 路肩舗装工			〃
	2-4 表層工			〃
第5節 排水構造物工（路面排水工）	2-5-3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	61
	2-5-4 管渠工		第3編2-3-29 側溝工	〃
	2-5-5 集水柵（街渠柵）・マンホール工		第3編2-3-30 集水柵工	62
	2-5-6 地下排水工		第3編2-3-29 側溝工	61
	2-5-7 場所打水路工		第3編2-3-29 側溝工	〃
	2-5-8 排水工（小段排水・縦排水）		第3編2-3-29 側溝工	〃
	2-5-9 排水性舗装用路肩排水工			130
第6節 縁石工	2-6-3 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	52
第7節 踏掛版工	2-7-4 踏掛版工	コンクリート工		130
		ラバーシュー		〃
		アンカーボルト		〃
第8節 防護柵工	2-8-3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	53
	2-8-4 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	52
	2-8-5 ボックスビーム工		第3編2-3-8 路側防護柵工	53
	2-8-6 車止めポスト工		第3編2-3-7 防止柵工	52
第9節 標識工	2-9-5 標識基礎工		第3編2-3-6 小型標識工	〃
	2-9-6 標識柱工			130
第10節 区画線工	2-10-2 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	53
第12節 道路付属施設工	2-12-4 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	54
	2-12-5 ケーブル配管工			131
	2-12-6 照明工	ハンドホール 照明柱基礎工		〃
第13節 橋梁付属物工	2-13-2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	58

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁	
第3章 橋梁下部					
第3節 工場製作工	3-3-2 刃口金物製作工		第3編2-12-1 一般事項	88	
	3-3-3 鋼製橋脚製作工			132	
	3-3-4 アンカーフレーム製作工		第3編2-12-8 アンカーフレーム製作工	93	
	3-3-5 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	95	
第6節 橋台工	3-6-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63	
	3-6-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64	
	3-6-5 深礎工		第3編2-4-6 深礎工	〃	
	3-6-6 オープンケーソン基礎工		第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	〃	
	3-6-7 ニューマチックケーソン基礎工		第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	65	
	3-6-8 橋台躯体工			133	
第7節 RC橋脚工	3-7-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63	
	3-7-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64	
	3-7-5 深礎工		第3編2-4-6 深礎工	〃	
	3-7-6 オープンケーソン基礎工		第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	〃	
	3-7-7 ニューマチックケーソン基礎工		第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	65	
	3-7-8 鋼管矢板基礎工		第3編2-4-9 鋼管矢板基礎工	〃	
	3-7-9 橋脚躯体工	張出式			134
		重力式			〃
		半重力式			〃
ラーメン式				135	
第8節 鋼製橋脚工	3-8-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	63	
	3-8-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	64	
	3-8-5 深礎工		第3編2-4-6 深礎工	〃	
	3-8-6 オープンケーソン基礎工		第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	〃	
	3-8-7 ニューマチックケーソン基礎工		第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	65	
	3-8-8 鋼管矢板基礎工		第3編2-4-9 鋼管矢板基礎工	〃	
	3-8-9 橋脚フーチング工	I型・T型			135
		門型			136
	3-8-10 橋脚架設工	I型・T型			〃
		門型			〃
	3-8-11 現場継手工				〃
	3-8-12 現場塗装工			第3編2-3-31 現場塗装工	62
第9節 護岸基礎工	3-9-3 基礎工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	63	
	3-9-4 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	
第10節 矢板護岸工	3-10-3 笠コンクリート工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	63	
	3-10-4 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	52	

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁	
第11節 法覆護岸工	3-11-2 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65	
	3-11-3 護岸付属物工		第6編1-7-4 護岸付属物工	102	
	3-11-4 緑化ブロック工		第3編2-5-4 緑化ブロック工	66	
	3-11-5 環境護岸ブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65	
	3-11-6 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	67	
	3-11-7 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	98	
	3-11-8 多自然型護岸工	巨石張り		第3編2-3-26 多自然型護岸工	59
		巨石積み		第3編2-3-26 多自然型護岸工	〃
		かごマット		第3編2-3-26 多自然型護岸工	〃
	3-11-9 吹付工		第3編2-14-3 吹付工	98	
	3-11-10 植生工		第3編2-14-2 植生工	97	
	3-11-11 覆土工		第1編2-4-5 法面整形工	51	
	3-11-12 羽口工	じゃかご		第3編2-3-27 羽口工	60
		ふとんかご		第3編2-3-27 羽口工	〃
かご枠			第3編2-3-27 羽口工	〃	
第12節 擁壁護岸工	3-12-3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 一般事項	99	
	3-12-4 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	〃	
第4章 鋼橋上部					
第3節 工場製作工	4-3-3 桁製作工		第3編2-12-3 桁製作工	89	
	4-3-4 検査路製作工		第3編2-12-4 検査路製作工	92	
	4-3-5 鋼製伸縮継手製作工		第3編2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	〃	
	4-3-6 落橋防止装置製作工		第3編2-12-6 落橋防止装置製作工	93	
	4-3-7 鋼製排水管製作工		第3編2-12-10 鋼製排水管製作工	94	
	4-3-8 橋梁用防護柵製作工		第3編2-12-7 橋梁用防護柵製作工	93	
	4-3-9 橋梁用高欄製作工			136	
	4-3-10 横断歩道橋製作工		第3編2-12-3 桁製作工	89	
	4-3-11 鋳造費		第3編2-12-1 鋳造費	86	
	4-3-12 アンカーフレーム製作工		第3編2-12-8 アンカーフレーム製作工	93	
	4-3-13 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	95	
	第4節 工場製品輸送工				

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第5節 鋼橋架設工	4-5-4架設工 (クレーン架設)		第3編2-13-3 架設工(クレーン架設)	96
	4-5-5架設工 (ケーブルクレーン架設)		第3編2-13-4 架設工(ケーブルクレーン架設)	〃
	4-5-6架設工 (ケーブルエレクション架設)		第3編2-13-5 架設工(ケーブルエレクション架設)	〃
	4-5-7架設工 (架設桁架設)		第3編2-13-6 架設工(架設桁架設)	〃
	4-5-8架設工 (送出し架設)		第3編2-13-7 架設工(送出し架設)	〃
	4-5-9架設工 (トラベラークレーン架設)		第3編2-13-8 架設工(トラベラークレーン架設)	〃
	4-5-10 支承工	鋼製支承 ゴム支承		137 〃
第6節 橋梁現場塗装工	4-6-3現場塗装工		第3編2-12-11 現場塗装工	95
第7節 床版工	4-7-2床版工		第3編2-18-2床版工	101
第8節 橋梁付属物工	4-8-2伸縮装置工		第3編2-3-24伸縮装置工	58
	4-8-3落橋防止装置工			138
	4-8-5地覆工			139
	4-8-6橋梁用防護柵工			〃
	4-8-7橋梁用高欄工			〃
	4-8-8検査路工			〃
第9節 歩道橋(側道橋)本 体工	4-9-3既製杭工		第3編2-4-4既製杭工	63
	4-9-4場所打杭工		第3編2-4-5場所打杭工	64
	4-9-5橋脚フーチング工	I型	第10編3-8-9 橋脚フーチング工	135
		T型	第10編3-8-9 橋脚フーチング工	〃
	4-9-6歩道橋(側道橋)架設工		第3編2-13-3 架設工(鋼橋)	96
4-9-7現場塗装工		第3編2-12-11 現場塗装工	95	
第5章 コンクリート橋上部				
第3節 工場製作工	5-3-2プレビーム用桁製作工		第3編2-12-9 プレビーム用桁製作工	94
	5-3-3橋梁用防護柵製作工		第3編2-12-7 橋梁用防護柵製作工	93
	5-3-4鋼製伸縮継手製作工		第3編2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	92
	5-3-5検査路製作工		第3編2-12-4 検査路製作工	〃
	5-3-6工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	95
	5-3-7 casting 費		第3編3-12-1 casting 費	86
第4節 工場製品輸送工				

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第5節 PC橋工	5-5-2プレテンション桁製作工（購入工）	けた橋	第3編2-3-12 プレテンション桁製作工（購入工）	54
		スラブ桁	第3編2-3-12 プレテンション桁製作工（購入工）	55
	5-5-3ポストテンション桁製作工		第3編2-3-13 ポストテンション桁製作工	〃
	5-5-4プレキャストセグメント製作工（購入工）		第3編2-3-12 プレテンション桁製作工（購入工）	〃
	5-5-5プレキャストセグメント主桁組立工		第3編2-3-14 プレキャストセグメント主桁組立工	56
	5-5-6支承工		第10編4-5-10 支承工	137
	5-5-7架設工 （クレーン架設）		第3編2-13 橋梁架設工（コンクリート橋）	97
	5-5-8架設工 （架設桁架設）		第3編2-13 橋梁架設工（コンクリート橋）	〃
	5-5-9床版・横組工		第3編2-18-2床版工	101
	5-5-10落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	138
第6節 プレベーム桁橋工	5-6-2プレベーム桁製作工（現場）			139
	5-6-3支承工		第10編4-5-10 支承工	137
	5-6-4架設工 （クレーン架設）		第3編2-13 橋梁架設工（コンクリート橋）	97
	5-6-5架設工 （架設桁架設）		第3編2-13 橋梁架設工（コンクリート橋）	〃
	5-6-6床版・横組工		第3編2-18-2床版工	101
	5-6-9落橋防止装置工		第3編4-8-3 落橋防止装置工	138
第7節 PCホロースラブ橋工	5-7-2架設支保工（固定）		第3編2-13 橋梁架設工（コンクリート橋）	97
	5-7-3支承工		第10編4-5-10 支承工	137
	5-7-4PCホロースラブ製作工		第3編2-3-15 PCホロースラブ製作工	56
	5-7-5落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	138
第8節 RCホロースラブ橋工	5-8-2架設支保工（固定）		第3編2-13 橋梁架設工（コンクリート橋）	97
	5-8-3支承工		第10編4-5-10 支承工	137
	5-8-4RC場所打ホロースラブ製作工		第3編2-3-15 PCホロースラブ製作工	56
	5-8-5落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	138
第9節 PC版桁橋工	5-9-2PC版桁製作工		第3編2-3-15 PCホロースラブ製作工	56
第10節 PC箱桁橋工	5-10-2架設支保工（固定）		第3編2-13 橋梁架設工（コンクリート橋）	97
	5-10-3支承工		第10編4-5-10 支承工	137
	5-10-4PC箱桁製作工		第3編2-3-16 PC箱桁製作工	57
	5-10-5落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	138

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第11節 PC片持箱桁橋工	5-10-2 PC片持箱桁製作工		第3編2-3-16 PC箱桁製作工	57
	5-10-3 支承工		第10編4-5-10 支承工	137
	5-10-4 架設工 (片持架設)		第3編2-13 橋梁架設工 (コンクリート橋)	97
第12節 PC押し箱桁橋工	5-11-2 PC押し箱桁製作工		第3編2-3-16 PC箱桁製作工	57
	5-11-3 架設工 (押し架設)		第3編2-13 橋梁架設工 (コンクリート橋)	97
第13節 橋梁付属物工	5-12-2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	58
	5-12-4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	139
	5-12-5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工	〃
	5-12-6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	5-12-7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	〃
第14節 コンクリート橋足場等設置工				
第6章 トンネル (NATM)				
第4節 支保工	6-4-3 吹付工			140
	6-4-4 ロックボルト工			〃
第5節 覆工	6-5-3 覆工コンクリート工			141
	6-5-4 側壁コンクリート工		第10編6-5-3 覆工コンクリート工	〃
	6-5-5 床版コンクリート工			141
第6節 インバート工	6-6-4 インバート本体工			142
第7節 坑内付帯工	6-7-5 地下排水工		第3編2-3-29 側溝工	61
第8節 坑門工	6-8-4 坑門本体工			142
	6-8-5 明り巻工			143
第11章 共同溝				
第6節 現場打構築工	11-6-2 現場打躯体工			144
	11-6-4 カラー継手工			〃
	11-6-5 防水工	防水		〃
		防水保護工		〃
防水壁		145		
第7節 プレキャスト構築工	11-7-2 プレキャスト躯体工			〃

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第12章 電線共同溝				
第5節 電線共同溝工	12-5-2 管路工 (管路部)			145
	12-5-3 プレキャストボックス工 (特殊部)			146
	12-5-4 現場打ちボックス工 (特殊部)		第10編11-6-2 現場打躯体工	144
第6節 付帯設備工	12-6-2 ハンドホール工			146
第13章 情報ボックス工				
第3節 情報ボックス工	13-3-4 管路工 (管路部)		第10編12-5-2 管路工 (管路部)	145
第4節 付帯設備工	13-4-2 ハンドホール工		第10編12-6-2 ハンドホール工	146
第14章 道路維持				
第4節 舗装工	14-4-3 路面切削工		第3編2-6-15 路面切削工	80
	14-4-4 舗装打換え工		第3編2-6-16 舗装打換え工	〃
	14-4-5 切削オーバーレイ工			146
	14-4-6 オーバーレイ工		第3編2-6-17 オーバーレイ工	80
	14-4-7 路上再生工			147
	14-4-8 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	78
第5節 排水構造物工	14-5-3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	61
	14-5-4 管渠工		第3編2-3-29 側溝工	〃
	14-5-5 集水柵・マンホール工		第3編2-3-30 集水柵工	62
	14-5-6 地下排水工		第3編2-3-29 側溝工	61
	14-5-7 場所打水路工		第3編2-3-29 側溝工	〃
	14-5-8 排水工		第3編2-3-29 側溝工	〃
第6節 防護柵工	14-6-3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	53
	14-6-4 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	52
	14-6-5 ボックスビーム工		第3編2-3-8 路側防護柵工	53
	14-6-6 車止めポスト工		第3編2-3-7 防止柵工	52
第7節 標識工	14-7-3 小型標識工		第3編2-6-3 小型標識工	〃
	14-7-4 大型標識工		第10編2-9-4 大型標識工	130
第8節 道路付属施設工	14-8-4 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	54
	14-8-5 ケーブル配管工		第10編2-12-5 ケーブル配管工	131
	14-8-6 照明工		第10編2-12-6 照明工	〃
第10節 擁壁工	14-9-3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 一般事項	99
	14-9-4 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	〃
第11節 石・ブロック積(張)工	14-10-3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65
	14-10-4 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	67

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第12節 カルバート工	14-12-4 場所打函渠工		第10編1-9-6 場所打函渠工	126
	14-12-5 プレキャストカルバート工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	60
第13節 法面工	14-13-2 植生工		第3編2-14-2 植生工	97
	14-13-3 法面吹付工		第3編2-14-3 吹付工	98
	14-13-4 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	〃
	14-13-6 アンカー工		第3編2-14-6 アンカー工	99
	14-13-7 かご工	じゃかご ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工 第3編2-3-27 羽口工	60 〃
第15節 橋梁付属物工	14-15-2 伸縮継手工		第3編2-3-24 伸縮装置工	58
	14-15-4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	139
	14-15-5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工	〃
	14-15-6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	14-15-7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	〃
第17節 現場塗装工	14-17-6 コンクリート面 塗装工		第3編2-3-11 コンクリート面塗装工	54
第16章 道路修繕				
第3節 工場製作工	16-3-4 桁補強材製作工			147
	16-3-5 落橋防止装置製作工		第3編2-12-6 落橋防止装置製作工	93
第5節 舗装工	16-5-3 路面切削工		第3編2-6-15 路面切削工	80
	16-5-4 舗装打換え工		第3編2-6-16 舗装打換え工	〃
	16-5-5 切削オーバーレイ工		第10編14-4-5 切削オーバーレイ工	146
	16-5-6 オーバーレイ工		第3編2-6-17 オーバーレイ工	80
	16-5-7 路上再生工		第10編14-4-7 路上再生工	147
	16-5-8 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	78
第6節 排水構造物工	16-6-3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	61
	16-6-4 管渠工		第3編2-3-29 側溝工	〃
	16-6-5 集水枡・マンホール工		第3編2-3-30 集水枡工	62
	16-6-6 地下排水工		第3編2-3-29 側溝工	61
	16-6-7 場所打水路工		第3編2-3-29 側溝工	〃
16-6-8 排水工		第3編2-3-29 側溝工	61	
第7節 縁石工	16-7-3 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	52
第8節 防護柵工	16-8-3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	53
	16-8-4 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	52
	16-8-5 ボックスビーム工		第3編2-3-8 路側防護柵工	53
	16-8-6 車止めポスト工		第3編2-3-7 防止柵工	52
第9節 標識工	16-9-3 小型標識工		第3編2-3-6 小型標識工	〃
	16-9-4 大型標識工		第10編2-9-4 大型標識工	130
第10節 区画線工	16-10-2 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	53

【第10編 道路編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第12節 道路付属施設工	16-12-4 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	54
	16-12-5 ケーブル配管工		第10編2-12-5 ケーブル配管工	131
	16-12-6 照明工		第10編2-12-6 照明工	〃
第14節 擁壁工	16-14-3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 一般事項	99
	16-14-4 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	〃
第15節 石・ブロック積(張)工	16-15-3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	65
	16-15-4 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	67
第16節 カルバート工	16-16-4 場所打函渠工		第10編1-9-6 場所打函渠工	126
	16-16-5 プレキャストカルバート工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	60
第17節 法面工	16-17-2 植生工		第3編2-14-2 植生工	97
	16-17-3 法面吹付工		第3編2-14-3 吹付工	98
	16-17-4 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	〃
	16-17-6 アンカー工		第3編2-14-6 アンカー工	99
	16-17-7 かが工	じゃかご ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工 第3編2-3-27 羽口工	60 〃
第18節 落石雪害防止工	16-18-4 落石防止網工		第10編1-11-4 落石防止網工	126
	16-18-5 落石防護柵工		第10編1-11-5 落石防護柵工	127
	16-18-6 防雪柵工		第10編1-11-6 防雪柵工	〃
	16-18-7 雪崩予防柵工		第10編1-11-7 雪崩予防柵工	〃
第20節 鋼桁工	16-20-3 鋼桁補強工		第10編16-3-4 桁補強材製作工	147
第21節 橋梁支承工	16-21-3 鋼橋支承工		第10編4-5-10 支承工	137
	16-21-4 PC橋支承工		第10編4-5-10 支承工	〃
第22節 橋梁付属物工	16-22-3 伸縮継手工		第3編2-3-24 伸縮継手工	58
	16-22-4 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	138
	16-22-6 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	139
	16-22-7 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工	〃
	16-22-8 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	16-22-9 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	〃
第25節 現場塗装工	16-25-3 橋梁塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	62
	16-25-6 コンクリート面塗装工		第3編2-3-11 コンクリート面塗装工	54

【第11編 公園編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第1章 基盤整備				
第3節 敷地造成工	1-3-2 表土保全工	表土掘削		148
	1-3-4 掘削工			〃
	1-3-5 盛土工			〃
	1-3-6 路体盛土工			〃
	1-3-7 路床盛土工			〃
	1-3-8 法面整形工			〃
	1-3-9 路床安定処理工			149
	1-3-10 置換工			〃
	1-3-11 サンドマット工			〃
1-3-12 パーチカルドレーン工			〃	
第5節 植栽基盤工	1-5-3 透水層工	1. 開渠排水		〃
		3. 暗渠排水		150
	1-5-4 土層改良工			〃
	1-5-5 土性改良工			〃
	1-5-6 表土盛土工			〃
	1-5-7 人工地盤工	2. 押さえコンクリート		〃
		4. 人工地盤排水層		151
5. フィルター			〃	
6. 防根シート			〃	
8. 立排水浸透樹		〃		
第6節 法面工	1-6-3 法面ネット工			〃
	1-6-4 植生工	1. 種子吹付		〃
		2. 客土吹付		〃
		3. 植生ネット		〃
		4. 種子帯		〃
		5. 張芝		〃
		6. 筋芝		〃
		7. 市松芝		〃
		8. 人工張芝		〃
		9. 植生穴		〃
		10. 厚層基材吹付		152
	1-6-5 法枠工	1. 現場打ち法枠		〃
		2. 現場吹付法枠		〃
		3. プレキャスト法枠		〃
		4. 金属製法枠		〃
	1-6-6 編柵工			153
	1-6-7 かご工	1. じゃかご		〃
2. ふとんかご			〃	
第7節 軽量盛土工	1-7-2 軽量盛土工	1. 軽量盛土		〃
		2. コンクリート床版		〃
		3. 基礎コンクリート		〃
		4. 壁体		〃
		5. 裏込碎石		〃

【第11編 公園編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁	
第8節 擁壁工	1-8-4	現場打擁壁工		154	
	1-8-5	プレキャスト 擁壁工		〃	
	1-8-6	補強土壁工	1. 補強土壁基礎		〃
			2. 帯鋼補強土壁・アンカー 補強土壁		〃
			3. ジオテキスタイル補強土 壁		〃
	1-8-7	コンクリート ブロック工	1. コンクリートブロック基 礎		155
			2. コンクリートブロック積		〃
			3. 間知ブロック張		〃
			4. 平ブロック張		〃
			5. 連節ブロック張		〃
			7. 緑化ブロック積		〃
			8. ブロック植栽		〃
			9. 天端コンクリート		〃
			10. 小口止コンクリート		〃
			1-8-8	石積工	1. 崩れ積
	2. 面積				156
	3. 玉石積				〃
	4. 野面小端積				〃
	5. 修景割石積				〃
	6. 修景割石積				〃
7. こぶだし石積		〃			
8. 修景切石積		〃			
9. 切小端積		〃			
10. 切石積		〃			
11. 割小端積		〃			
12. 間知石積		〃			
13. 雑割石積		〃			
14. 雑石積		〃			
15. 割石積		〃			
16. 雑割石張り		〃			
17. 雑石張り		〃			
1-8-9	土留め工	1. 土留め		〃	
第9節 公園カルバート工	1-9-4	場所打函渠工		〃	
	1-9-5	プレキャスト カルバート工		157	
第10節 公園施設等撤 去・移設工	1-10-3	移設工	1. 鋼製遊具移設		〃
			2. 木製遊具移設		〃
			3. 複合遊具移設		〃
			4. ベンチ移設		〃
			5. 小工作物移設		〃
第2章 植栽					
第3節 植栽工	2-3-10	樹木養生工	1. 防風ネット		157
	2-3-11	樹名板工	1. 埋込型樹名板		〃
	2-3-12	根囲い保護工	1. 根囲い保護		158
第3章 施設整備					
第3節 給水設備工	3-3-6	散水施設工	2. ミスト		158
			3. ドリップパイプ		〃
			6. 散水栓高さ調整		〃
	3-3-10	給水管路工	1. 給水管		〃
			2. 埋設シート		〃

【第11編 公園編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第4節 雨水排水設備工	3-4-6 側溝工	1. L型側溝		159
		3. 管(函)渠型側溝		〃
		4. プレキャストU型側溝		〃
		6. プレキャスト皿形側溝		〃
		7. コルゲーブリューム		〃
		8. 自由勾配側溝		〃
		9. 特殊円形側溝		〃
		2. 現場打L型側溝		〃
		5. 現場打側溝		〃
		10. 公園素堀側溝		160
		12. 側溝高さ調整		〃
		3-4-7 管渠工	1. 公園管渠	
	2. コルゲートパイプ			〃
	3-4-8 集水樹・マンホール工	1. 街渠樹		〃
		2. 集水樹		〃
		3. 浸透樹		〃
		4. プレキャスト街渠樹		〃
		5. プレキャスト集水樹		〃
		6. 塩化ビニル製樹		〃
		7. マンホール		〃
		8. プレキャストマンホール		〃
		9. 公園マンホール		〃
10. 浸透マンホール			〃	
3-4-9 地下排水工	1. 有孔ヒューム管		161	
	2. 有孔塩化ビニール管		〃	
	3. 透水コンクリート管		〃	
	4. 化学繊維管		〃	
	5. 地下排水		〃	
3-4-10 公園水路工	場所打水路		〃	
第6節 電気設備工	3-6-3 照明設備工	1. ハンドホール		〃
		2. 引込柱		〃
		3. 分電盤		〃
		4. 照明灯基礎		〃
	3-6-4 放送設備工	2. 引込柱		162
		3. 分電盤		〃
		5. スピーカー柱基礎		〃
	3-6-5 監視カメラ設置工	3. 監視カメラ柱基礎		〃
	3-6-8 電線管路工	1. 電線管		〃
		2. 電線		〃
		3. 埋設シート		〃

【第11編 公園編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第7節 園路広場整備工	3-7-5 アスファルト舗装工	1. 下層路盤工		163
		2. 上層路盤工		〃
		3. 基層工		〃
		4. 表層工		〃
	3-7-6 排水性舗装工	1. 下層路盤工		164
		2. 上層路盤工		〃
		3. 基層工		〃
		4. 表層工		〃
	3-7-7 透水性舗装工	2. 路盤		165
		3. 表層		〃
	3-7-8 アスファルト系舗装工			166
	3-7-9 コンクリート系舗装工			〃
	3-7-10 土系舗装工			〃
	3-7-11 レンガ・タイル系舗装工			〃
	3-7-12 木系舗装工			〃
	3-7-13 樹脂系舗装工			〃
	3-7-14 石材系舗装工	1. 砂利舗装		〃
		2. 碎石舗装		〃
		3. 平石張り舗装		〃
		4. ごろた石張舗装		〃
		5. 玉石張舗装		〃
		6. 野面平石張舗装		〃
		7. 修景割板石張舗装		〃
8. 修景切板石張舗装			〃	
9. 割板石張舗装			〃	
10. 小舗石張舗装			〃	
11. 切板石張舗装			〃	
12. 延段			〃	
3-7-16 園路縁石工			167	
3-7-17 区画線工			〃	
3-7-18 階段工	1. コンクリート階段		〃	
	2. コンクリートブロック階段		〃	
	3. 野面石階段		〃	
	4. 割石階段		〃	
	5. 切石階段		〃	
	6. 丸太階段		〃	
	7. 擬木階段		〃	
3-7-19 公園橋工	1. 公園橋橋台		168	
	2. 石橋橋台		〃	
	3. 木橋橋台		〃	
	4. 八ツ橋		〃	
	5. 浮き栈橋		〃	
3-7-20 デッキ工	1. デッキ基礎		〃	
	2. デッキ設置		〃	
3-7-23 植樹ブロック工			169	
第8節 修景施設整備工	3-8-5 袖垣・垣根工	1. 袖垣・垣根工		〃
		2. トレリス工		〃
	3-8-7 トレリス工	1. トレリス工		〃
	3-8-8 モニュメント工	1. モニュメント		〃
		2. 記念碑		〃
	3-8-9 小規模水景施設工	1. 流れ		170
		2. 滝		〃
		3. 池		〃
		4. 州浜		171
		5. 壁泉		〃
		6. カスケード		〃
		7. カナール		172

【第11編 公園編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第9節 遊戯施設整備工	3-9-3 遊具組立設置工	1. ブランコ		172
		2. ジャングルジム		〃
		3. 滑台		〃
		4. シーズー		173
		5. 鉄棒		〃
		6. ラダー		〃
		7. はん登棒		〃
		8. スプリング遊具		174
		9. 複合遊具		〃
		10. アスレチック遊具		〃
		11. 健康遊具施設		〃
	3-9-4 小規模現場打遊具工	1. 砂場		175
		2. 現場打遊具		〃
		3. 徒渉池		〃
第10節 サービス施設整備工	3-10-3 時計台工	1. 時計台		〃
	3-10-4 水飲み場工	1. 水飲み場		176
	3-10-6 ベンチ・テーブル工	1. ベンチ		〃
		2. 縁台		〃
		3. テーブル		〃
		4. スツール		〃
		5. 野外卓		〃
3-10-8 炊事場工	1. 炊事場		〃	
第11節 管理施設整備工	3-11-3 リサイクル施設工	1. リサイクル施設工(基礎)		177
		2. ごみ焼却炉施設工(基礎)		〃
	3-11-5 ごみ施設工	1. くず箱、吸殻入れ		〃
	3-11-6 井戸工	1. 手押しポンプ		〃
	3-11-7 門扉工	2. 門扉工		〃
	3-11-8 柵工			178
	3-11-9 車止め工			〃
	3-11-10 園名板工			〃
3-11-11 掲揚ポール工			〃	

【第11編 公園編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第12節 建築施設組立設置工	3-12-3 四阿工	1. 四阿基礎		178
		2. パーゴラ基礎		〃
		3. シェルター基礎		〃
		4. キャビン(ロッジ)基礎		〃
		5. 温室基礎		〃
		6. 観察施設基礎		〃
		7. 売店基礎		〃
		8. 荷物預かり所基礎		〃
		9. 更衣室基礎		〃
		10. 便所基礎		〃
		11. 倉庫基礎		〃
		12. 自転車置場基礎		〃
第4章 グラウンド・コート整備				
第3節 グラウンド・コート舗装工	4-3-4 グラウンド・コート用舗装工	1. 下層路盤工		179
		2. 上層路盤工		〃
		3. 中層		〃
		4. 基層工		〃
		5. クレー舗装		180
		6. アンツーカー舗装		〃
		7. 天然芝舗装		〃
		8. 人工芝舗装		181
		9. 全天候型舗装(樹脂系)		〃
		10. 全天候型舗装(アスファルト系)		〃
		11. グラウンド・コート砂舗装		〃
		12. グラウンド・コートダスト舗装		〃
	4-3-5 グラウンド・コート縁石工	1. コンクリート縁石		182
		2. 舗装止め		〃
		3. 見切材(仕切材)		〃
		4. 内圏縁石		〃
第4節 スタンド整備工	4-4-3 スタンド擁壁工		〃	
	4-4-4 ベンチ工		〃	
第5節 グラウンド・コート施設整備工	4-5-3 ダッグアウト工	1. ダッグアウト基礎		183
	4-5-4 スコアボード工	2. スコアボード基礎		〃
	4-5-5 バックネット工		〃	
	4-5-6 競技施設工	1. ファーストボール		〃
		2. ポスト		〃
		3. ゴールポスト		〃
		4. 支柱台		〃
5. スポーツサークル			〃	
6. 跳躍箱		〃		
7. 踏切台		〃		

【第11編 公園編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第5章 自然育成				
第3節 自然育成施設工	5-3-3 自然育成盛土工			184
	5-3-4 自然水路工	1. 遮水・止水シート		〃
		2. たたき粘土		〃
		3. ごろた石積		〃
		4. 崩れ積		〃
		5. 砂・礫敷		185
	5-3-5 水田工	1. 遮水・止水シート		〃
	5-3-10 しがらみ柵工			〃
	5-3-11 自然育成型護岸工	1. じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	60
		2. ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	〃
		3. 階段ブロック積み		186
		4. 魚巢ブロック積み		〃
		5. 巨石張り		187
		6. 巨石積み		〃
		7. 雑割石張り		188
		8. かごマット		189
		9. 種子吹付		〃
		10. 張芝		〃
		11. 筋芝		〃
		12. 市松芝		〃
	5-3-12 保護柵工			〃
	5-3-13 解説板工			〃
5-3-16 自然育成型護岸基礎工	1. 法留基礎		190	
	2. プレキャスト法留基礎		〃	
5-3-17 沈床工	1. 木工沈床		〃	
	2. 改良沈床		〃	
	3. 粗朶沈床		〃	
	4. 粗朶単床		〃	
5-3-18 捨石工	8. 捨石		191	
	9. 表面均し		〃	
5-3-19 かご工		第3編2-3-27 羽口工	60	
5-3-22 杭出し水制工	1. 杭出し水制		191	

【第12編 下水道編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第1章 下水道工事				
第3節 開削工		管布設		192
第5節 立坑・人孔築造工		立坑・人孔築造工 立坑・人孔築造基礎工		〃
第6節 推進工				193
第7節 シールド工	1-7-3 一次覆工			〃
	1-7-5 二次覆工			〃
		シールド製作		194
		セグメント製作（鋼製）		195
ポンプ処理場	池・槽の主要構造物			〃

【第13編 港湾・漁港編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第1章 一般施工				
第3節 共通の工種	1-3-6	圧密・排水工		196
	1-3-7	締固工		198
	1-3-8	固化工		199
	1-3-9	洗掘防止工		200
	1-3-10	中詰工		〃
	1-3-11	蓋コンクリート工		〃
	1-3-12	蓋ブロック工		〃
	1-3-13	鋼矢板工		201
	1-3-14	控 工		202
	1-3-15	鋼杭工		204
	1-3-16	コンクリート杭工		〃
	1-3-17	防食工		205
	1-3-19	コンクリート舗装工		206
	1-3-20	アスファルト舗装工		207
1-3-21	植生工		208	
第4節 土捨工				209
第5節 海上地盤改良工	1-5-2	床掘工		〃
	1-5-6	置換工		〃
	1-5-7	圧密・排水工		210
	1-5-8	締固工		〃
	1-5-9	固化工		〃
第6節 基礎工	1-6-2	基礎盛砂工		〃
	1-6-3	洗掘防止工		〃
	1-6-4	基礎捨石工		211
	1-6-6	基礎ブロック工		212
第7節 本体内 (ケーソン式)	1-7-2	ケーソン製作工		213
	1-7-3	ケーソン進水据付工		〃
	1-7-4	中詰工		214
	1-7-5	蓋コンクリート工		〃
	1-7-6	蓋ブロック工		〃
第8節 本体内 (ブロック式)	1-8-2	本体ブロック製作工		〃
	1-8-3	本体ブロック据付工		215
	1-8-4	中詰工		〃
	1-8-5	蓋コンクリート工		〃
	1-8-6	蓋ブロック工		〃
第9節 本体内 (場所打式)	1-9-2	場所打コンクリート工		216
	1-9-3	水中コンクリート工		〃
	1-9-4	プレバックドコンクリート工		〃
	1-9-5	水中不分離性コンクリート工		217
第10節 本体内 (捨石・捨ブロック式)	1-10-2	洗掘防止工		〃
	1-10-3	本体捨石工		〃
	1-10-4	捨ブロック工		〃
	1-10-5	場所打コンクリート工		218

【第13編 港湾・漁港編】

章、節	条	枝 番	準用する出来形管理基準	頁
第11節 本体工 (鋼矢板式)	1-11-2 鋼矢板工			218
	1-11-3 控 工			〃
第12節 本体工 (コンクリート矢板式)	1-12-2 コンクリート矢 板工			219
	1-12-3 控 工			〃
第13節 本体工(鋼杭式)	1-13-2 鋼杭工			〃
第14節 本体工 (コンクリート杭式)	1-14-2 コンクリート杭 工			〃
第15節 被覆・根固工	1-15-2 被覆石工			220
	1-15-4 被覆ブロック工			〃
	1-15-5 根固ブロック工			〃
第16節 上部工	1-16-2 上部コンクリー ト工			221
	1-16-3 上部ブロック工			222
第17節 付属工	1-17-2 係船柱工			223
	1-17-3 防舷材工			〃
	1-17-4 車止・縁金物工			〃
	1-17-5 防食工			224
	1-17-6 付属設備工			〃
第18節 消波工	1-18-2 洗掘防止工			〃
	1-18-3 消波ブロック工			〃
第19節 裏込・裏埋工	1-19-2 裏込工			225
	1-19-3 裏埋工			〃
	1-19-4 裏埋土工			〃
第20節 陸上地盤改良工	1-20-2 圧密・排水工			226
	1-20-3 締固工			〃
	1-20-4 固化工			〃
第21節 土 工	1-21-2 掘削工			〃
	1-21-3 盛土工			〃
	1-21-4 路床盛土工			〃
	1-21-7 法面工			227
第22節 舗装工	1-22-3 コンクリート舗 装工			〃
	1-22-4 アスファルト舗 装工			〃
第23節 維持補修工	1-23-2 維持塗装工			〃
	1-23-3 防食工			〃
第24節 構造物撤去工	1-24-2 取壊し工			228
	1-24-3 撤去工			〃
第25節 仮設工	1-25-2 仮設鋼矢板工			229
	1-25-3 仮設鋼管杭・鋼 管矢板工			〃
	1-25-4 仮設道路工			〃
第26節 雑 工	1-26-2 現場鋼材溶接工			〃
	1-26-3 現場鋼材切断工			230
	1-26-4 その他雑工			〃

【第13編 港湾・漁港編】

章、節	条	枝番	準用する出来形管理基準	頁
第2章 航路、泊地、船だまり				
第3節 浚渫工	2-3-2	ポンプ浚渫工		230
	2-3-3	グラブ浚渫工		〃
	2-3-4	硬土盤浚渫工		〃
	2-3-5	岩盤浚渫工		231
	2-3-6	バックホウ浚渫工		〃
第5節 埋立工	2-5-3	固化工		〃
	2-5-8	埋立土工		〃
第7章 臨港道路				
第4節 道路舗装工	7-4-3	コンクリート舗装工		232
	7-4-4	アスファルト舗装工		〃
	7-4-5	道路付属工		〃
第5節 緑地工	7-5-2	植生工		〃

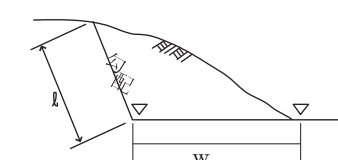
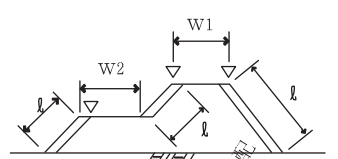
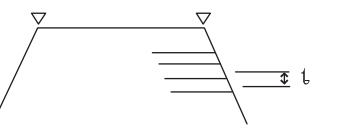
[参考]

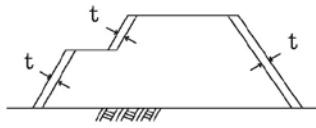
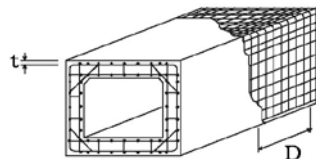
様式・出来形	1-1-2(1)	；敷砂出来形管理表	233
様式・出来形	1-1-2(2)	；敷砂出来形管理図	234
様式・出来形	1-2-2(1)	；サド [®] コンハ [®] クシヨソハ [®] 俵出来形管理表	235
様式・出来形	1-2-2(2)	；砂投入管理表	236
様式・出来形	1-2-2(3)	；締固工深浅図	237
様式・出来形	1-3-1(1)	；深層混合処理杭出来形管理表	238
様式・出来形	1-3-1(2)	；深層混合処理杭鉛直度管理表	239
様式・出来形	1-4-1(1)	；洗掘防止マット出来形管理表	240
様式・出来形	1-4-1(2)	；洗掘防止マット出来形管理図	241
様式・出来形	1-5-1	；砂・石材中詰出来形管理表	242
様式・出来形	1-6-1	；蓋コンクリート出来形管理表	243
様式・出来形	1-8-2	；鋼矢板出来形管理表	244
様式・出来形	1-9-5	；腹起出来形管理表	245
様式・出来形	1-9-6	；タイ材出来形管理表	246
様式・出来形	1-10-2(1)	；鋼杭打込記録	247
様式・出来形	1-10-2(2)	；鋼杭出来形管理表	248
様式・出来形	1-12-1(1)	；電気防食出来形管理表	249
様式・出来形	1-12-1(2)	；電気防食電位測定管理表	250
様式・出来形	1-13-1(1)	；路盤出来形管理表	251
様式・出来形	1-13-1(2)	；路盤出来形管理図	252
様式・出来形	1-14-3(1)	；舗装出来形管理表	253
様式・出来形	1-14-3(2)	；舗装出来形管理図	254
様式・出来形	3-2-1	；置換材出来形管理表	255
様式・出来形	4-3-2(1)	；基礎石均し出来形管理図(1)	256
様式・出来形	4-3-2(2)	；基礎石均し出来形管理図(2)	257
様式・出来形	5-1-1	；ケーソン製作出来形管理表	258
様式・出来形	5-2-1	；ケーソン据付出来形管理表	259
様式・出来形	6-1(1)	；ブロック(方塊) 製作出来形管理表	260
様式・出来形	6-1(2)	；L型ブロック製作出来形管理表	261
様式・出来形	6-1(3)	；セルラーブロック製作出来形管理表	262
様式・出来形	6-1(4)	；ブロック製作等外見チェックリスト	263

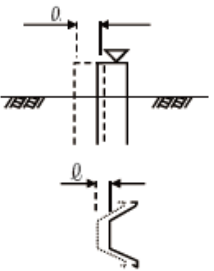
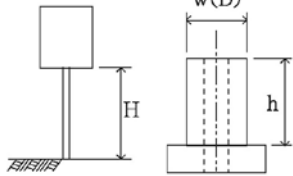
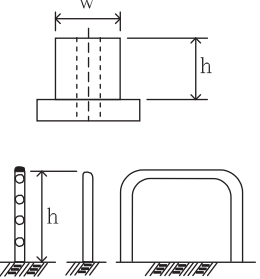
様式・出来形	13-1-1(1)	; 被覆石均し出来形管理図 (1) 264
様式・出来形	13-1-1(2)	; 被覆石均し出来形管理図 (2) 265
様式・出来形	13-3-1	; 根固ブロック製出来形管理表 266
様式・出来形	14-1(1)	; 上部コンクリート(防波堤)出来形管理表 267
様式・出来形	14-1(2)	; 上部コンクリート(岸壁)出来形管理表 268
様式・出来形	15-1-1	; 係船柱出来形管理表 269
様式・出来形	15-2-1	; 防舷材出来形管理表 270
様式・出来形	15-3-1	; 車止出来形管理表 271
様式・出来形	17-3-1	; 土砂掘削出来形管理表 272
様式・出来形	24-1-1(1)	; すみ肉溶接出来形管理表 273
様式・出来形	24-1-1(2)	; 突合せ溶接出来形管理表 274
様式・出来形	24-1-1(3)	; 鉄筋フレア溶接出来形管理表 275
様式・出来形	25-1(1)	; 浚渫出来形管理表 276
様式・出来形	25-1(2)	; 浚渫出来形管理図 277

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

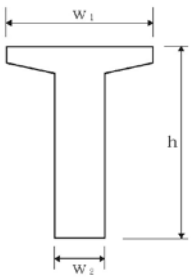
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	2 掘削工		掘削	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は掘削部の両端で測定。			
						法 長	$\ell < 5\text{ m}$				-200
							$\ell \geq 5\text{ m}$				法長の-4%
						幅	w				-100
						勾 配					-0.5分
						延 長 L					-100
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	3 盛土工		盛土	基 準 高 ∇	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は各法肩で測定。			
						法 長	$\ell < 5\text{ m}$				-100
							$\ell \geq 5\text{ m}$				法長の-2%
						幅 W_1 、 W_2					-100
						勾 配					-0.5分
						延 長 L					-100
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	4 盛土補強工		盛土補強 (補強土(テールアルメ)壁工法)(多数アンカー式補強土工法)(ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基 準 高 ∇	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						厚 さ	t				
						控 え 長 さ	設計値以上				

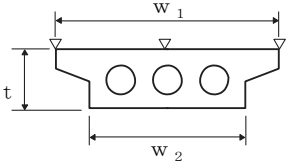
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
1 共通編	2 土工	4 道路土工	5 法面整形工		法面整形	厚 さ t	※-30	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。			
						法長 ℓ	ℓ < 5 m				-100
							ℓ ≥ 5 m				法長の-2%
勾 配	-0.5分										
1 共通編	3 無筋、鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4 組立て		組立て	平均 間 隔 d	± φ	D d = n-1 D: 本間の長さ n: 10本程度とする φ: 鉄筋径 工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で1箇所以上測定する。 最小かぶりは、コンクリート標準示方書（設計編・標準7編2章2.1）参照 ただし、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書（Ⅲコンクリート橋編6.6）による。 注1) 重要構造物かつ主鉄筋について適用する。 注2) 橋梁コンクリート床版桁（PC橋含む）の鉄筋については、第3編2-18-2床版工を適用する。 注3) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。			
						か ぶ り t	± φ かつ最小かぶり以上				
1 共通編	3 無筋、鉄筋コンクリート	1 7 既設RC構造物への削孔			既設RC構造物への削孔	削 孔 、 深 さ	-0・+20	設計数量の40%を計測する。			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	2	3	4		矢板〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう矢板)	基 準 高 ∇	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						根 入 長	設計値以上				
						変 位 (ず れ)	100				
						傾	1 %				
						延長	L < 10m				-20
L ≥ 10m L < 100m	-50										
L ≥ 100m	-100										
3	2	3	5		縁石 アスカーブ	延 長 L	-200	1 箇所 / 1 施工箇所			
3	2	3	6		小型標識	設 置 高 さ H	設計値以上	1 箇所 / 1 基			
						基礎	幅 w (D)	-30			基礎 1 基毎
							高 さ h	-30			
							根 入 れ 長	設計値以上			
3	2	3	7		防止柵 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。		
							高 さ h	-30			
						パイプ 取付 高 H	+30 -20	1 箇所 / 1 施工箇所			

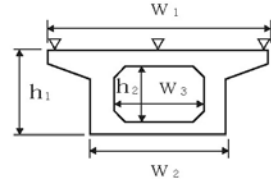
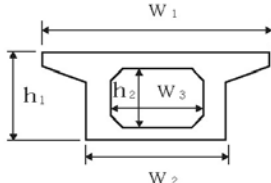
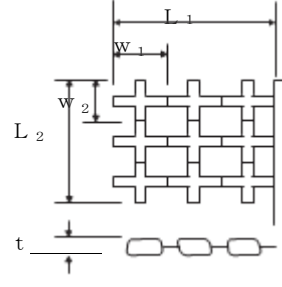
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8 路側防護柵工	1	路側防護柵 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	1箇所/施工延長40m		
							高さ h	-30	40m以下のものは、2箇所/1施工箇所。		
							ビーム取付高 H	+30 -20	1箇所/1施工箇所		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8 路側防護柵工	2	路側防護柵 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30	1箇所/1基礎毎		
							高さ h	-30			
							延長 L	-100			
							ケーブル取付高 H	+30 -20	1箇所/1施工箇所		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	9 区画線工		区画線	厚さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。			
						幅 w	設計値以上				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	3	10		道路付属物 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30	1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。		
3	2	3	11		コンクリート面塗装	塗 料 使 用 量	鋼道路橋防食 便覧Ⅱ-82 「表-Ⅱ.5.5 各塗料の標準 使用量と標準 膜厚」の標準 使用量以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量(充缶数)と、塗付作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。		
3	2	3	12	1	プレテンション桁製作 (購入工) (けた橋)	桁 長 L (m)	±L/1000	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。JIS製品以外はJIS製品に準じる。		
						断面の外形寸法	±5			
						橋桁のそり δ_1	±8			
						横方向の曲がり δ_2	±10			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	3	12	2	プレテンション桁製作 (購入工) (スラブ桁)	桁 長 L (m)	±10…… L ≤ 10m ±L/10… L > 10m	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに基 づく試験成績表に替えることができ る。JIS製品以外はJIS製品に準じ る。	断面図	
						断面の外形寸法	±5		側面図	
						橋桁のそり δ ₁	±8		平面図	
						横方向の曲がり δ ₂	±10			
3	2	3	13		ポストテンション桁製作 工	幅 (上) w ₁	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレスト レッシング後に測定。桁断面寸法測定 箇所は、両端部、中央部の3箇所と する。 なお、JISマーク表示品を使用する場 合は、製造工場の発行するJISに基 づく試験成績表に替えることができ る。 ℓ : 支間長 (m)		<p>注) 新設のコン クリート構造物 (橋梁上・下部 工および重要構 造物である内空 断面積25㎡以上 のボックスカル パート(工場製 作のプレキャスト 製品は全ての 工種において対 象外)の鉄筋 の配筋状況及び かぶりについて は、「非破壊試 験によるコンク リート構造物中 の配筋状態及び かぶり測定要 領」も併せて適 用する</p>
						幅 (下) w ₂	±5			
						高 さ h	+10 -5			
						桁 長 支 間 長ℓ	ℓ < 15…±10 ℓ ≥ 15… ±(ℓ - 5) かつ-30mm以内			
						横方向最大タワミ	0.8ℓ			

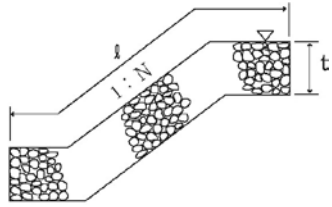
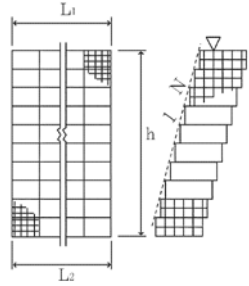
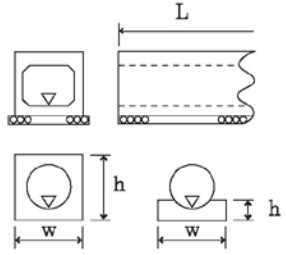
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	14 プレキャストセグメント主桁製作工	1	プレキャストセグメント主桁製作（購入工）	桁 長 ℓ		桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所にて測定。		
						断面の外形寸法(mm)				
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	14 プレキャストセグメント主桁製作工	2	プレキャストセグメント主桁組立	桁 長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ : 支間長 (m)		
						支 間 長 ℓ				
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	15 P Cホロースラブ製作工		P Cホロースラブ製作	基 準 高 ∇	± 20	全般について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所横方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3-2-18-2床版工に準ずる。 ℓ : 支間長 (m)		
						幅 w_1 、 w_2	$-5 \sim +30$			
						厚 さ t	$-10 \sim +20$			
						桁 長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内			
						支 間 長 ℓ				

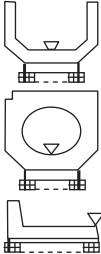
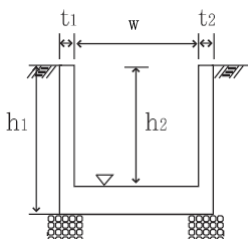
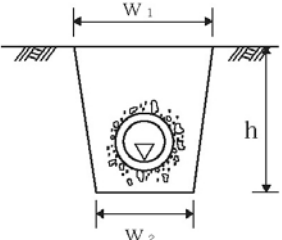
注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において除外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	2	3	16	1	PC箱桁製作	基準高 ∇	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所(支点付近)で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び高さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 横方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 ※鉄筋の由来形管理基準については、第3編3-2-18-2床版工に準ずる。 ℓ : 支間長 (m)		注) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外))の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する	
						幅 (上) w_1	$-5 \sim +30$				
						幅 (下) w_2	$-5 \sim +30$				
						内空幅 w_3	± 5				
						高さ h_1	$+10$ -5				
						内空高さ h_2	$+10$ -5				
桁支間長 ℓ	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内										
3	2	3	16	2	PC押し箱桁製作	幅 (上) w_1	$-5 \sim +30$	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3 箇所とする。 ℓ : 支間長 (m)		注) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外))の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する	
						幅 (下) w_2	$-5 \sim +30$				
						内空幅 w_3	± 5				
						高さ h_1	$+10$ -5				
						内空高さ h_2	$+10$ -5				
桁支間長 ℓ	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内										
3	2	3	17		根固めブロック	基準高 ∇	層積	± 100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 幅、厚さは40個につき1箇所測定。 1 施工箇所毎		
							乱積	$\pm t / 2$			
						厚さ t	層積	-20			
							乱積	$-t / 2$			
						延長 L_1	層積	-200			
							乱積	$-t / 2$			
						幅 w_1	層積	-20			
							乱積	$-t / 2$			
幅 w_2	層積	-20									
	乱積	$-t / 2$									

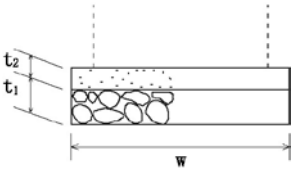
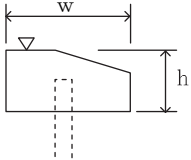
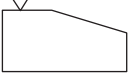
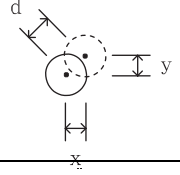
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	3	18		沈床	基準高 ∇	± 150	1組毎		
						幅 w	± 300			
						延長 L	-200			
3	2	3	19		捨石	基準高 ∇	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						幅 w	-100			
						延長 L	-200			
3	2	3	22		階段	幅 w	-30	1回/1施工箇所		
						高さ h	-30			
						長さ L	-30			
						段数	± 0 段			
3	2	3	24	1	伸縮装置 (ゴムジョイント)	据付け高さ	± 3	車道端部及び中央部付近の3点を測定。 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下		
						表面の凹凸	3			
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2			

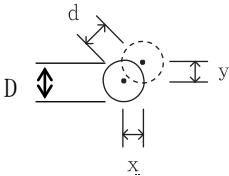
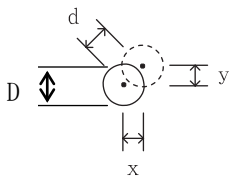
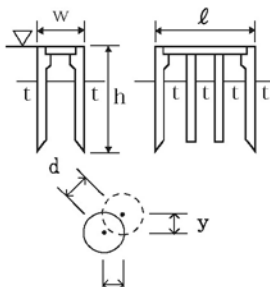
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	24 伸縮装置工	2	伸縮装置 (鋼製フィンガージョイント)	高さ	据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。縦方向及び横方向間隙は両端、中央部の3点。		
						車線方向各点誤差の相対差	3				
						表面の凹凸	3				
						歯型板面の歯咬み合い部の高低差	2				
						歯咬み合い部の縦方向間隔W1	±2				
						歯咬み合い部の横方向間隔W2	±5				
仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2										
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	24 伸縮装置工		伸縮装置工 (埋設型ジョイント)	表面の凹凸	3	車道端部及び中央部付近の3点を測定。 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下			
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0~+3				
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	26 多自然型護岸工	1	多自然型護岸 巨石張り（積み） 巨石据付 雑割石張り	基準高▽	±500	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						法長	-200				
						延長	L < 10m				-20
							L ≥ 10m L < 100m				-50
L ≥ 100m	-100										
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	26 多自然型護岸工	2	多自然型護岸 (かごマット)	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						法長	< 3m				-50
							≥ 3m				-100
						厚さ t	-0.2 t				
						勾配 N	-0.5分				
						延長	L < 10m				-20
L ≥ 10m L < 100m	-50										
L ≥ 100m	-100										

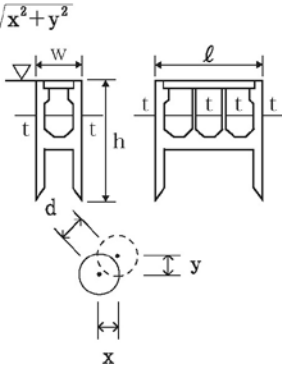
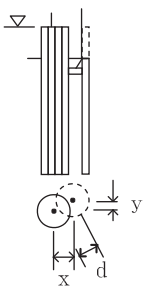
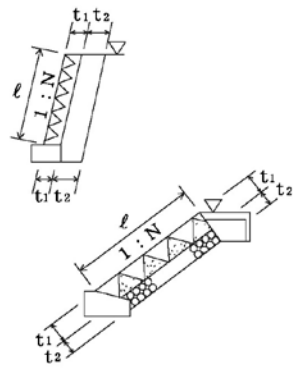
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
3	2	3	27	1	羽口 (じゃかご)	基準高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
						法長	$< 3\text{m}$				-50	
							$\geq 3\text{m}$				-100	
						厚さ t	-50					
						勾配 N	-0.5分					
						延長	$L < 10\text{m}$				-20	1施工箇所毎
$\geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50											
$L \geq 100\text{m}$	-100											
3	2	3	27	2	羽口 (ふとんかご、かご枠)	高さ h	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
						基準高 ∇	± 50					
						勾配 N	-0.5分					
						延長 L1、L2	$L < 10\text{m}$				-20	1施工箇所毎
							$\geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$				-50	
							$L \geq 100\text{m}$				-100	
3	2	3	28		プレキャストカルバート (プレキャストボックス カルバート) (プレキャストパイプ)	基準高 ∇	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打のある場合。				
						※ 幅 w	-50					
						※ 高さ h	-30					
						延長	$L < 10\text{m}$				-20	1施工箇所毎
							$\geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$				-50	
							$L \geq 100\text{m}$				-100	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	3	29	側溝 (プレキャストU型側溝) (L型側溝) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高 ∇	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、延長40m (又は50m) 以下のものには 1 施工箇所につき 2 箇所。			
						延長	$L < 10\text{m}$	-20			1 施工箇所毎
							$\geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50			
							$L \geq 100\text{m}$	-100			
3	土木工事共通編	2	3	29	場所打水路	基準高 ∇	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
						厚さ t_1, t_2	-20				
						幅 w	-30				
						高さ h_1, h_2	-30				
						延長	$L < 10\text{m}$	-20			1 施工箇所毎
							$\geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50			
							$L \geq 100\text{m}$	-100			
3	土木工事共通編	2	3	29	暗渠	基準高 ∇	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
						幅 w_1, w_2	-50				
						高さ h	-30				
						延長	$L < 10\text{m}$	-20			1 施工箇所毎
							$\geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50			
	$L \geq 100\text{m}$	-100									

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	3	30		集水桝	基準高 ∇	± 30	1箇所毎 ※は、現場打部分のある場合		
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 w_1, w_2	-30			
						※高さ h_1, h_2	-30			
3	2	3	31		現場塗装	塗 膜 厚	<p>a. ロットの塗膜厚の平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>	<p>塗装終了時に測定。</p> <p>1ロットの大きさは500㎡とする。</p> <p>1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。</p>		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	1 一般事項	一般事項 (切込砂利) (碎石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚さ t ₁ 、t ₂	設計値以上			
						延長 L	各構造物の規格値による。			
3	土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3 基礎工(護岸)	1 基礎工 (現場打)	基準高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						幅 w	-30			
						高さ h	-30			
						延長 長	-200			
3	土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3 基礎工(護岸)	2 基礎工 (護岸) (プレキャスト)	基準高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						延長 長	-200			
3	土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	4 既製杭工	既製杭 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根入 長	設計値以上			
						偏心量 d	D/4以内かつ100以内			
						傾 斜	1/100以内			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	4 既製杭工	2	既製杭 (鋼管ソイルセメント杭)	基 準 高	▽ ±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量	d 100以内			
						傾 斜	1/100以内			
						杭 径	D 設計値以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	5 場所打杭工		場所打杭	基 準 高	▽ ±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量	d D/4以内かつ 100以内			
						傾 斜	1/100以内			
						杭 径	D 設計径(公称径) -30以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	6 深礎工		深礎	基 準 高	▽ ±50	全数について杭中心で測定。 ※ライナープレートの場合はその内径、補強リングを必要とする場合は補強リングの内径とし、モルタルライニングの場合はモルタル等の土留め構造の内径にて測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量	d 150以内			
						傾 斜	1/50以内			
						基 礎 径	D 設計径(公称径)以上※			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	7 オープンケーソン基礎工		オープンケーソン基礎	基 準 高	▽ ±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						ケーソンの長さ	-50			
						ケーソンの幅 w	-50			
						ケーソンの高さ h	-100			
						ケーソンの壁厚 t	-20			
						偏 心 量	d 300以内			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
3	土木工事共通編	2	4	8	ニューマチックケーソン基礎	基準高 ∇	± 100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 			
						ケーソンの長さ	-50					
						ケーソンの幅 w	-50					
						ケーソンの高さ h	-100					
						ケーソンの壁厚 t	-20					
						偏 心 量 d	300以内					
3	土木工事共通編	2	4	9	鋼管矢板基礎	基準高 ∇	± 100	基準高は、全数を測定。偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 			
						根 入 長	設計値以上					
						偏 心 量 d	300以内					
3	土木工事共通編	2	5	3	1	(コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基準高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。			
							法 長	$l < 3m$				-50
								$l \geq 3m$				-100
							厚さ（ブロック積張） t_1	-50				
							厚さ（裏込） t_2	-50				
							勾 配 N	-0.5分				
							延 長	$L < 10m$				-20
								$\geq 10m$ L				-50
								$L \geq 100m$				-100

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3 コンクリートブロック工	2	コンクリートブロック (連節ブロック張り)	基準高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						法 長 l	-100				
						勾 配 N	-0.5分				
						延長 L_1 、 L_2	$L < 10\text{m}$				-20
$\geq 10\text{m}$ L	-50										
$L \geq 100\text{m}$	-100										
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3 コンクリートブロック工	3	コンクリートブロック (天端保護ブロック)	基準高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						幅 w	-100				
						延 長	$L < 10\text{m}$				-20
							$\geq 10\text{m}$ L				-50
							$L \geq 100\text{m}$				-100
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	4 緑化ブロック工		緑化ブロック	基準高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。			
						法 長	$l < 3\text{m}$				-50
							$l \geq 3\text{m}$				-100
						厚さ(ブロック) t_1	-50				
						厚さ(裏込) t_2	-50				
						勾 配 N	-0.5分				
						延 長	$L < 10\text{m}$				-20
$\geq 10\text{m}$ L	-50										
$L \geq 100\text{m}$	-100										

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要			
3	土木工事共通編	2	一般施工	5	石・ブロック積(張)工	5	石積(張)	基準高 ∇	± 50	<p>施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。</p>			
								法長	$l < 3\text{m}$				-50
									$l \geq 3\text{m}$				-100
								厚さ(石積・張) t_1					-50
								厚さ(裏込) t_2					-50
								勾配 N					-0.5分
								延長	$L < 10\text{m}$				-20
									$\geq 10\text{m}$ L				-50
$L \geq 100\text{m}$	-100												

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要	
							個々の測定値		測定値の 平均 \bar{x}_n				
							中規模 以上	小規模 以下					
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7 アス ファ ルト 舗装 工	1	アス ファ ルト 舗装 (下 層 路 盤 工)	基 準 高	±40	±50	-	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通)中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起こし及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。		
						厚 さ			$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$				-10
									$\bar{x}_7 \sim$				-15
				幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20					
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7 アス ファ ルト 舗装 工	2	アス ファ ルト 舗装 (上 層 路 盤 工) 粒 度 調 整 路 盤 工	厚 さ	-25	-30	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-6	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。		
									$\bar{x}_7 \sim$	-8			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7 アス ファ ルト 舗装 工	3	アス ファ ルト 舗装 (上 層 路 盤 工) セ メ ン ト (石 灰) 安 定 処 理 工	厚 さ	-25	-30	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-6	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個とし掘起こしもしくはコアーにより測定する。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通)中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起こし及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
									$\bar{x}_7 \sim$	-8			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7 アス ファ ルト 舗装 工	4	アス ファ ルト 舗装 (加 熱 ア ス ファ ルト 安 定 処 理 工)	厚 さ	-15	-20	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-4	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通)中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起こし及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。	コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
									$\bar{x}_7 \sim$	-5			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7 アス ファ ルト 舗装 工	5	アス ファ ルト 舗装 (基 層 工)	厚 さ	-9	-12	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-2	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。		
									$\bar{x}_7 \sim$	-3			
						幅		-25	$\bar{x}_3 \sim$	-10			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要			
							個々の測定値		測定値の							
							中規模以上	小規模以下	平均 \bar{x}_n							
3	2	6	8	3	半たわみ性舗装 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-6	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通)中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。				
									$\bar{x}_7 \sim$	-8						
		幅	-50		$\bar{x}_3 \sim$	-20										
3	2	6	8	4	半たわみ性舗装 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-4				幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
									$\bar{x}_7 \sim$	-5						
		幅	-50		$\bar{x}_3 \sim$	-20										
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装 (基層工)	厚 さ	-9	-12	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-2	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。					
									$\bar{x}_7 \sim$	-3						
		幅	-25		$\bar{x}_3 \sim$	-10										
3	2	6	8	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-2				幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。	平坦性について ・カーブの多い山間地、および測定線の全線→測線が100m未満の場合は省略することができる。 ・測定方法、測定箇所については、舗装試験法便覧による。	
									$\bar{x}_7 \sim$	-2						
		幅	-25		$\bar{x}_3 \sim$	-10										
		平坦性	直読式標準偏差 (σ) 1.75mm以内 3mプロフィールメータ標準偏差 (σ) 2.4mm以内													

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値の平均 \bar{x}_n				
							中規模以上	小規模以下					
3	2	6	9	1	排水性舗装 (下層路盤工)	基準高	±40	±50	$\bar{x}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40mごとに、1個所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。厚さは2,000㎡までは3個とし、2000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。	* 工事規模の考え方(舗装工関係共通)中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
						厚 さ		-45	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-10			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20			
3	2	6	9	2	排水性舗装 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-6	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることができる。	
									$\bar{x}_7 \sim$	-8			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20			
3	2	6	9	3	排水性舗装 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-6	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。		
									$\bar{x}_7 \sim$	-8			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20			

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値の				
							中規模以上	小規模以下	平均 \bar{x}_n				
3	2	6	9	4	排水性舗装 (加熱アスファルト安定 処理工)	厚さ	-15	-20	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-4	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
									$\bar{x}_7 \sim$	-5			
							幅	-50		$\bar{x}_3 \sim$			
3	2	6	9	5	排水性舗装 (基層工)	厚さ	-9	-12	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-2	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることができる。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。	
									$\bar{x}_7 \sim$	-3			
							幅	-25		$\bar{x}_3 \sim$			
3	2	6	9	6	排水性舗装 (表層工)	厚さ	-7	-9	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-2	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。	平坦性について ・カーブの多い山間地、および測定線の全線→測線が100m未満の場合は省略することができる。 ・測定方法、測定箇所については、舗装試験法便覧による。	
									$\bar{x}_7 \sim$	-2			
							幅	-25		$\bar{x}_3 \sim$			
			平坦性	—	3mプロフィール メーター (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下								

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要	
							個々の測定値					測定値の平均 \bar{x}_n
							中規模以上	小規模以下				
3	2	6	10	1	透水性舗装 (路盤工)	基準高	± 50	-		基準高、幅は延長40mごとに、1個所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水系による管理をすることができる。	
						厚さ	$t < 15\text{cm}$	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-10			
							$t \geq 15\text{cm}$	$\bar{x}_7 \sim$	-15			
幅	-50	$\bar{x}_3 \sim$	-25									
3	2	6	10	2	透水性舗装 (表層工)	厚さ	-9	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-2	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。		
							$\bar{x}_7 \sim$	-3				
						幅	-25	$\bar{x}_3 \sim$	-10			
3	2	6	10	3	透水性舗装 (歩道工) フィルター層	厚さ	-7	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-2	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。		
							\bar{x}_{10}	-2				
						幅	-25	$\bar{x}_3 \sim$	-10			
平坦性	直読式標準偏差 (σ) 1.75mm以内 3mプロヒールメータ標準偏差 (σ) 2.4mm以内											

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値の平均 \bar{x}_n				
							中規模以上	小規模以下					
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11 グースアスファルト舗装工	1	グースアスファルト舗装 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-4	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3箇所とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1箇所とし、コアーを採取して測定。	*工事規模の考え方（舗装工関係共通）中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
									$\bar{x}_7 \sim$	-5			
							幅	-50		$\bar{x}_3 \sim$			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11 グースアスファルト舗装工	2	グースアスファルト舗装 (基層工)	厚 さ	-9	-12	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-2	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3箇所とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1箇所とし、コアーを採取して測定。	コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。 平坦性について ・カーブの多い山間地、および測定線の全線→一測線が100m未満の場合は省略することができる。 ・測定方法、測定箇所については、舗装試験法便覧による。	
									$\bar{x}_7 \sim$	-3			
							幅	-25		$\bar{x}_3 \sim$			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11 グースアスファルト舗装工	3	グースアスファルト舗装 (表層工)	厚 さ	-7	-9	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}_6$	-2	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡までは3箇所とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1箇所とし、コアーを採取して測定。		
									$\bar{x}_{10} \sim$	-3			
							幅	-25		$\bar{x}_3 \sim$			
		平坦性	直読式標準偏差 (σ) 1.75mm以内 3mプロフィールメータ標準偏差 (σ) 2.4mm以内										

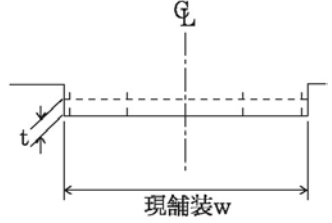
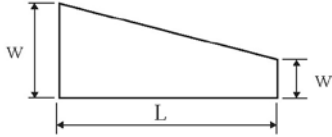
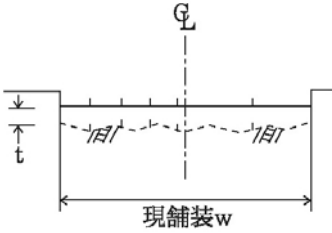
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値の 平均 \bar{x}_n				
							中規模 以上	小規模 以下					
3	2	6	12	1	コンクリート舗装 (下層路盤工)	基準高	± 40	± 50	\bar{x}_3	-6	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。	* 工事規模の考え方（舗装工関係共通）中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起こし及びコアー以外の方法 →水系による管理をすることができる。	
						厚 さ	-45		$\bar{x}_3 \sim \bar{x}$	-10			
									$\bar{x}_7 \sim$	-15			
						幅	-50		$\bar{x}_3 \sim$	-20			
3	2	6	12	2	コンクリート舗装 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	-30	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}$	-6	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。	コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
									$\bar{x}_7 \sim$	-8			
						幅	-50		$\bar{x}_3 \sim$	-20			
3	2	6	12	3	コンクリート舗装 セメント、(石灰・瀝青)安定処理工	厚 さ	-25	-30	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}$	-6	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個とし掘起こしもしくはコアーにより測定する。		
									$\bar{x}_7 \sim$	-8			
						幅	-50		$\bar{x}_3 \sim$	-20			
3	2	6	12	4	コンクリート舗装 (アスファルト中間層)	厚 さ	-9	-12	$\bar{x}_3 \sim \bar{x}$	-2	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。		
									$\bar{x}_7 \sim$	-3			
						幅	-25		$\bar{x}_3 \sim$	-10			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値の 平均 \bar{x}_n				
							中規模 以上	小規模 以下					
3	2	6	12	5	コンクリート舗装 (コンクリート舗装版工)	厚 さ		-10		-3.5	<p>厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線100m毎に水糸又はレベルにより1測点当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長40m毎に1箇所の割で測定、平坦性は、各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。</p> <p>なお、スリップフォーム工法の場合は、厚さ管理に関し、打設前に各車線の中心付近で各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3ヶ所以上路盤の基準高を測定し、測定打設後に各車線200m毎に両側の版端を測定する。</p>	<p>* 工事規模の考え方（舗装工関係共通）中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。</p> <p>なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。</p> <p>平坦性について</p> <ul style="list-style-type: none"> カーブの多い山間地、および測定線の全線→一測線が100m未満の場合は省略することができる。 測定方法、測定箇所については、舗装試験法便覧による。 	
						幅		-25	$\bar{x}_3 \sim$	-10			
						平坦性				<p>コンクリートの硬化後3mプロファイルメーターにより機械舗設の場合 (σ)2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ)3mm以下</p>			
					目地段差				± 2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。			
3	2	6	12	6	コンクリート舗装 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	基準高	± 40	± 50	$\bar{x}_3 \sim$	± 15	<p>基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。</p> <p>厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。</p>		
						厚 さ		-45		-15			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値の 平均 \bar{x}_n			
							中規模 以上	小規模 以下				
3	2	6	12	7	コンクリート舗装 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起こし及びコアー以外の方法→水系による管理をすることができる。	
						幅	-50		-20			
3	2	6	12	8	コンクリート舗装 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個とし掘起こしもしくはコアーにより測定する。	コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-50		$\bar{x}_3 \sim$ -20			
3	2	6	12	9	コンクリート舗装 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さ	-9	-12	-3	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。		
						幅	-25		$\bar{x}_3 \sim$ -10			
3	2	6	12	10	コンクリート舗装 (転圧コンクリート版工)	厚 さ		-15	-4.5	厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線100m毎に水系又はレベルにより1測点当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長40m毎に1箇所の割で測定、平坦性は、各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。		
						幅	-35		$\bar{x}_3 \sim$ -10			
						平坦性			転圧コンクリートの硬化後3mプロフィールメーターにより(σ) 2.4mm以下。			
						目地段差	±2		隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。			

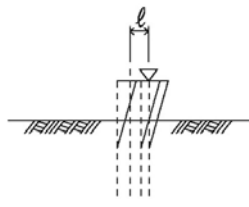
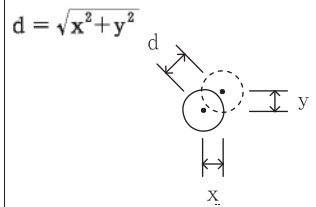
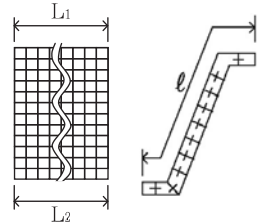
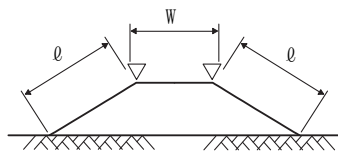
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値の 平均 \bar{x}_n			
							中規模 以上	小規模 以下				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	13 薄層 カラー 舗装 工	1	薄層カラー舗装 (下層路盤工)	基準高	±40	±50	-	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通)中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコア以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
						厚さ		-45	-15			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$ -20			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	13 薄層 カラー 舗装 工	2	薄層カラー舗装 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	-30	-8	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。		
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$ -20			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	13 薄層 カラー 舗装 工	3	薄層カラー舗装 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚さ	-25	-30	-8	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個とし掘起こしもしくはコアにより測定する。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通)中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコア以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$ -20			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	13 薄層 カラー 舗装 工	4	薄層カラー舗装 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚さ	-15	-20	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアを採取して測定。	コア採取について橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$ -20			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	13 薄層 カラー 舗装 工	5	薄層カラー舗装 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアを採取して測定。		
						幅		-25	$\bar{x}_3 \sim$ -10			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値の 平均 \bar{x}_n			
							中規模 以上	小規模 以下				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14 ブロック舗装工	1	ブロック舗装 (下層路盤工)	基準高	±40	±50	-	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通)中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
						厚さ	-45		-15			
						幅	-50		$\bar{x}_3 \sim -20$			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14 ブロック舗装工	2	ブロック舗装 (上層路盤工) 粒度調整 路盤工	厚さ	-25	-30	-8	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。		
						幅	-50		$\bar{x}_3 \sim -20$			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14 ブロック舗装工	3	ブロック舗装 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処 理工	厚さ	-25	-30	-8	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個とし掘起こしもしくはコアーにより測定する。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通)中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
						幅	-50		$\bar{x}_3 \sim -20$			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14 ブロック舗装工	4	ブロック舗装 (加熱アスファルト安定 処理工)	厚さ	-15	-20	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。	コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	-50		$\bar{x}_3 \sim -20$			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14 ブロック舗装工	5	ブロック舗装 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。		
						幅	-25		$\bar{x}_3 \sim -10$			

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値(X)	平均の測定値(X _n)			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	15 路面切削工		路面切削	厚さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高切削後の高さの差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。 測定方法は自動横断測定法によることができる。		
						幅 W	-25				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	16 舗装打換え工		舗装打換え	路工	幅 w	-50	各層毎1箇所/1施工箇所		
							延長 L	-100			
							厚さ t	該当工種			
						舗設工	幅 w	-25			
							延長 L	-100			
							厚さ t	該当工種			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17 オーバーレイ工		オーバーレイ	厚さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の高さの差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。			
						幅 w	-25				
						延長 L	-100				
						平坦性	—				3mプロファイルメーター(σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm以下

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	7	2		路床安定処理	基 準 高 ∇	± 50	延長40m毎に1箇所割で測定。基準高は、道路中心線及び端部で測定。厚さは中心線及び端部で測定。		
						施 工 厚 さ t	-50			
						幅 w	-100			
						延 長 L	-200			
3	2	7	3		置換	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。		
						置 換 厚 さ t	-50			
						幅 w	-100			
						延 長 L	-200			

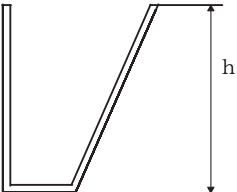
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	4 表層安定処理工	2	表層安定処理 (サンドマット海上)	基 準 高	▽	特記仕様書に 明示	施工延長10mにつき、1測点当たり 5点以上測定。 w.(L)は施工延長40mにつき1 箇所、80m以下のものは1施工箇所 につき3箇所。(L)はセンターラ イン及び表裏法肩で行う。		
						法 長	ℓ	-500			
						天 端 幅	w	-300			
						天 端 延 長	L	-500			
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	5 パイルネット工		パイルネット	基 準 高	▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1箇所。厚さは中心 線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ず る。		
						厚 さ	t	-50			
						幅	w	-100			
						延 長	L	-200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	6 サンドマット工		サンドマット	施 工 厚 さ	t	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1箇所。厚さは中心 線及び両端で掘り起こして測定。		
						幅	w	-100			
						延 長	L	-200			

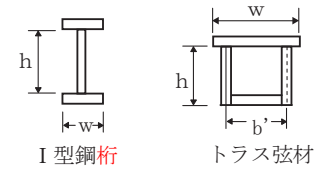
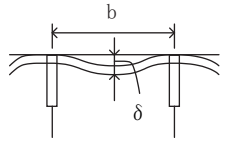
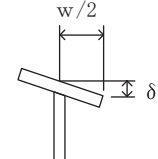
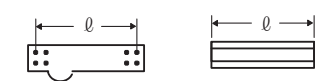
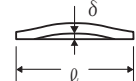
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	10	5	1	土留・仮締切 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高	▽ ±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは、1施工箇所につき2箇所。（任意仮設は除く） 偏位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合25m）につき1箇所。		
						根 入 長	設計値以上			
						偏 位	ℓ 100			
						延 長	L -200			
3	2	10	5	2	土留・仮締切 (アンカー工)	削 孔 深 さ	ℓ 設計深さ以上	全数（任意仮設は除く）		
						設 置 誤 差	100			
3	2	10	5	3	土留・仮締切 (連節ブロック張り工)	基 準 高	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						法 長	ℓ -100			
						延 長	L ₁ L ₂ -200			
3	2	10	5	4	土留・仮締切 (締切盛土)	基 準 高	▽ -50	施工延長50mにつき1箇所。延長50m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		
						天 端 幅	w -100			
						法 長	ℓ -100			
						延 長	L -200			
3	2	10	5	5	土留・仮締切 (中詰盛土)	基 準 高	▽ -50	施工延長50mにつき1箇所。延長50m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		
						延 長	L -200			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	9 地中連続壁工(壁式)		地中連続壁工(壁式)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場合は25m)につき1箇所。延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						連壁の長さℓ	-50			
						変位	300			
						壁体延長L	-200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	10 地中連続壁工(柱列式)		地中連続壁工(柱列式)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場合は25m)につき1箇所。延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		D : 杭径
						連壁の長さℓ	-50			
						変位 d	D/4以内			
						壁体長 L	-200			
								1 施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要					
3	土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工(共通)	1 一般事項	1 1	鋳造費(金属支承工)		製品全数を測定。							
											上下部構造との接合用ボルト孔	中心距離	孔の直径差	+2 -0	
													センターボスを基準にした孔位置のずれ	≤1000mm	1以下
												センターボスを基準にした孔位置のずれ		>1000mm	1.5以下
													アンカーボルト孔	孔の直径	≤100mm
												>100mm			+4 -2
												孔の中心距離		JISB0403 CT13	
											センターボス	ボスの直径	+0 -1		
												ボスの高さ	+1 -0		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要								
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工（共通）	1 一般事項	1	鋳造費（金属支承工）	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JISB0403 CT13	製品全数を測定。 ※1）片面削り加工も含む。 ※2）ただし、ソールプレート接触面の橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。										
						全移動量	$\ell \leq 300\text{mm}$				± 2							
							$\ell > 300\text{mm}$				$\pm \ell / 100$							
						組立高さH	上、下面加工仕上げ				± 3							
							コンクリート構造用				$H \leq 300\text{mm}$	± 3						
											$H > 300\text{mm}$	(H/200+3) 小数点以下切り捨て						
						普通寸法	鋳放し長さ寸法 ※1）、※2）				JISB0403 CT14							
							鋳放し肉厚寸法 ※1）				JISB0403 CT15							
							削り加工寸法				JISB0405 粗級							
							ガス切断寸法				JISB0417 B級							
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工（共通）	1 一般事項	2	鋳造費 （大型ゴム支承工）	幅 w	$w, L, D \leq 500$	0～+5	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚（t）の最大相対誤差									
						長さL	$500 < w, L, D \leq 1500\text{mm}$	0～+1%										
						直径D	$1500 < w, L, D$	0～+15										
						厚さ t	$t \leq 20\text{mm}$	± 0.5										
							$20 < t \leq 160$	$\pm 2.5\%$										
							$160 < t$	± 4										
						平面度	$w, L, D \leq 1000\text{mm}$	1										
							$1000\text{mm} < w, L, D$	$(w, L, D) / 1000$										

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工(共通)	1 一般事項	3	仮設材製作工	部材	部材長 (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工(共通)	1 一般事項	4	刃口金物製作工	刃口高さ h (m)	$\pm 2 \dots\dots$ $h \leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots$ $1.0 < h \leq 2.0$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						外周長 L (m)	$\pm (10 + L / 10)$			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要		
								鋼桁等	トラス・アーチ等				
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工（共通）	3 桁製作工	1	桁製作（仮組立による検査を実施する場合） ※シミュレーション仮組立検査を行う場合	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板 間隔 b (m)	$\pm 2 \cdots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2)$ $2.0 < w$	鋼桁等	トラス・アーチ等				
							板の平面度 δ (mm)	鋼桁及びトラス等の部材の腹板	$h/250$	主桁各支点及び各支間中央付近を測定。			
								箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$				
							部材精度	フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$				
							部材長 (m)	鋼桁	$\pm 3 \cdots \leq 10$	原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。			
$\pm 4 \cdots > 10$													
トラス、アーチなど	$\pm 2 \cdots \leq 10$												
	$\pm 3 \cdots > 10$												
圧縮材の曲がり δ (mm)	$/1000$		主要部材全数を測定。 : 部材長 (mm)										

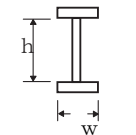
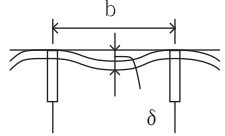
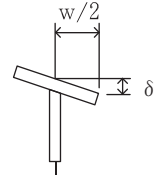
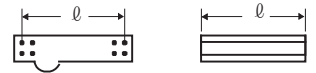
※規格値の w 、 l に代入する数値は m 単位の数値である。

ただし、「板の平面度 δ 、フランジの直角度 δ 」の規格値の h 、 b 、 w 、 l に代入する数値は mm 単位の数値とする。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要			
								鋼桁等	トラス・アーチ等					
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 (共通)	3	桁製作 (仮組立による検査を実施する場合) ※シミュレーション仮組立検査を行う場合	1	全長、支間長 L (m)	$\pm (10+L/10)$	主桁・主構全数を測定。			
									主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。			
									主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2)$ $\cdots h > 5$	—	両端部及び中心部を測定。		
									主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \cdots$ $L \leq 100$ $25 \cdots L > 100$	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L : 測線上 (m)			
									主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots$ $20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots$ $40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots$ $80 < L \leq 200$	各主桁について 10~12m間隔を測定。 L : 主桁の支間長 (m)	各主構の各格点を測定。 L : 主構の支間長 (m)		
									主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	± 10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。			
									主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。 h : 主桁の高さ (mm)	支点及び支間中央付近を測定。 h : 主構の高さ (mm)		
									現場継手部のすき間 δ_1 、 δ_2 (mm)	± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ_1 、 δ_2 のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を0mmとする。 (例：設計値が3mmの場合、すき間の許容範囲は0mm~8mm)			

※規格値のw、 ℓ に代入する数値はm単位の数値である。

ただし、「板の平面度 δ 、フランジの直角度 δ 」の規格値のh、b、w、 ℓ に代入する数値はmm単位の数値とする。

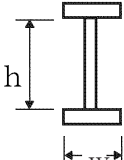
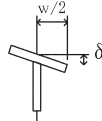
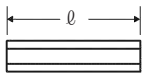
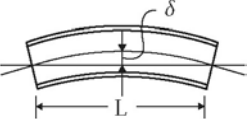
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工（共通）	3 桁製作工	2	桁製作 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b (m)	$\pm 2 \cdots \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2)$ $2.0 < w$	主桁・主構各支点及び各支間中央付近を測定。床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I型鋼桁	
						板の平面度 δ (mm)	鋼桁等の部材の腹板	$h/250$	主桁各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)	
							鋼桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$		
						フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$			
						部材長 (m)	鋼桁	$\pm 3 \cdots \cdots \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots > 10$	主要部材全数を測定。	

※規格値のw、 ℓ に代入する数値はm単位の数値である。

ただし、「板の平面度 δ 、フランジの直角度 δ 」の規格値のh、b、w、 ℓ に代入する数値はmm単位の数値とする。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	12	3	桁製作 (鋼製堰堤製作工(仮組立時))	部材の水平度	10	全数を測定。			
						堤 長 L	±30				
						堤 長	±10				
						堤 幅 W	±30				
						堤 幅 w	±10				
						高 さ H	±10				
						ベースプレートの高さ	±10				
本 体 の 傾 き	±H/500										
3	土木工事共通編	2	12	4	検査路製作	部材	部材長 (m)	±3…… $\ell \leq 10$ ±4…… $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
3	土木工事共通編	2	12	5	鋼製伸縮継手製作	部材	部材長w (m)	0～+30	製品全数を測定。		
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 σ_1 (mm)	±4			
							フィンガーの食い違い σ_2	±2	(実測値) δ_2		

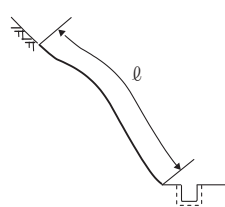
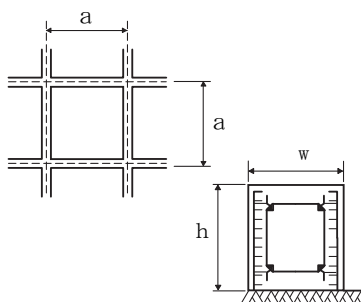
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工(共通)	6 落橋防止装置製作工		落橋防止装置製作	部材	部材長 (m) $\pm 3 \dots\dots$ $\varnothing \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\varnothing > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。 数量の40%を計測する。			
						アンカーボ トル	長さ (超音波深 傷器による 測定)				-20・+30
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工(共通)	7 橋梁用防護柵製作工		橋梁用防護柵製作	部材	部材長 (m) $\pm 3 \dots\dots$ $\varnothing \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\varnothing > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。			
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工(共通)	8 アンカーフレーム製作工		アンカーフレーム製作	仮組	上面水平度 δ_1 (mm)	$b/500$	軸心上全数を測定。		
						立時	鉛直度 δ_2 (mm)	$h/500$			
							高さ h (mm)	± 5			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工（共通）	9 プレビーム用桁製作工		プレビーム用桁製作	部材	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2)$ $\cdots 2.0 < w$	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型鋼げた	
							フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$	各支点及び各支間中央付近を測定。		
							部材長 (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
							仮組立時 主桁のそり	$-5 \sim +5$ $\cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\cdots 20 < L \leq 40$	各主桁について10～12m間隔を測定。		
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工（共通）	10 鋼製排水管製作工		鋼製排水管製作	部材	部材長 (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。		

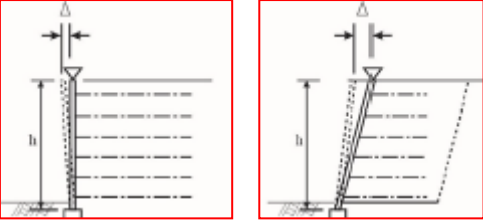
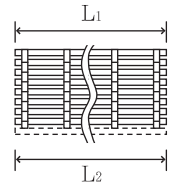
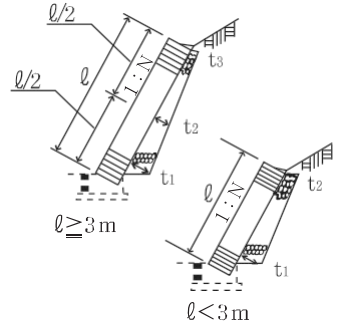
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	12	11		工場塗装	工場塗装		工場塗装終了時に測定。ただし、工場で上塗りまで塗装する場合は、下塗り終了時と上塗り終了時に測定。 なお、鋼橋塗装便覧にいうC塗装系の場合は無機ジンクリッチペイントの塗布後にも測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。		
						塗 膜 厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。			

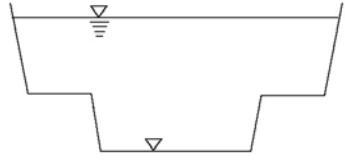
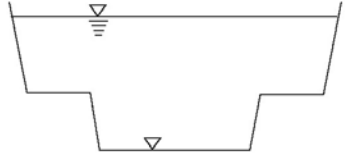
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3	土木工事共通編	2	一般施工	13	橋梁架設工	架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送し架設） （トラバラークレーン架設）	全長・支間長 L (m)	$\pm (20+L/5)$	各桁毎に全数測定。 L：主桁・主構の支間長 (m)		
						通 り δ (mm)	$\pm (10+2L/5)$	L：主桁・主構の支間長 (m)			
						そ り δ (mm)	$\pm (25+L/2)$	主桁、主構を全数測定。 L：主桁・主構の支間長 (m)			
						※主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。			
						※主桁の橋端における出入差 δ (mm)	± 10	どちらか一方の主桁（主構）端を測定。			
						※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。 h：主桁・主構の高さ (mm)			
						※現場継手部のすき間 δ_1 、 δ_2 (mm)	± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ_1 、 δ_2 のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を0mmとする。 （例：設計値が3mmの場合、すき間の許容範囲は0mm～8mm）			

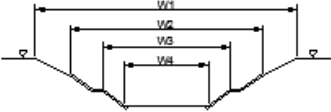
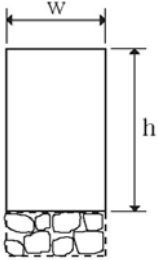
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
3 土木工事共通編	2 一般施工	13 橋梁架設工			架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設桁架設 (片持架設) (押し架設)	全長・支間	—	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について 各上下間を測定。 主桁を全数測定。				
						桁の中心間距離	—					
						そ り	—					
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工	2 植生工	1	植生 (種子吹付工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生ネット工) (種子帯工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土法長	$\ell < 5\text{ m}$	—200	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇 所につき2箇所。			
							$\ell \geq 5\text{ m}$	法長の—4%				
						盛土法長	$\ell < 5\text{ m}$	—100				
							$\ell \geq 5\text{ m}$	法長の—2%				
						延長	$L < 10\text{ m}$	—20				1施工箇所毎
							$L \geq 10\text{ m}$ $L < 100\text{ m}$	—50				
							$L \geq 100\text{ m}$	—100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工(共通)	2 植生工	2	植生 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長	$\ell < 5\text{ m}$	—200	施工延長40mにつき1箇所、40m以 下のものは1施工箇所につき2箇 所。 施工面積200㎡につき1箇所、面積 200㎡以下のものは、1施工箇所につ き2箇所。 検査孔により測定。			
							$\ell \geq 5\text{ m}$	法長の—4%				
						厚さ t	$t < 5\text{ cm}$	—10				
							$t \geq 5\text{ cm}$	—20				
						但し、吹付面に凹凸がある場合 の最小吹付厚は、設計厚の50% 以上とし、平均厚は設計厚以上						
						延長	$L < 10\text{ m}$	—20				1施工箇所毎
							$L \geq 10\text{ m}$ $L < 100\text{ m}$	—50				
$L \geq 100\text{ m}$	—100											

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要								
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	14 法面 工(共 通)	3 吹付 工		吹付 (コンクリート) (モルタル)	法 長	$\ell < 3\text{m}$	-50	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。										
							$\ell \geq 3\text{m}$	-100											
							厚 さ t	$t < 5\text{cm}$				-10	200m ² につき1箇所以上、200m ² 以下は2箇所をせん孔により測定。						
								$t \geq 5\text{cm}$				-20							
						延 長	但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上		1 施工箇所毎										
							L < 10m	-20											
								$L \geq 10\text{m}$ < 100m				-50							
						$L \geq 100\text{m}$		-100											
						3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	14 法面 工(共 通)	4 法 枠 工			1	法 枠 (現場 打 法 枠 工) (現場 吹 付 法 枠 工)	法 長	$\ell < 10\text{m}$	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		曲線部は設計図書による
															$\ell \geq 10\text{m}$	-200			
幅	w	-30	枠延長100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。																
高 さ	h	-30																	
吹付枠中心間隔 a		±100																	
延 長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎																
		$L \geq 10\text{m}$ < 100m		-50															
		$L \geq 100\text{m}$		-100															
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	14 法面 工(共 通)	4 法 枠 工	2	法 枠 工 (プレ キャスト 法 枠 工)					法 長	$\ell < 10\text{m}$			-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
											$\ell \geq 10\text{m}$			-200					
						延 長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎										
								$L \geq 10\text{m}$ < 100m		-50									
								$L \geq 100\text{m}$		-100									

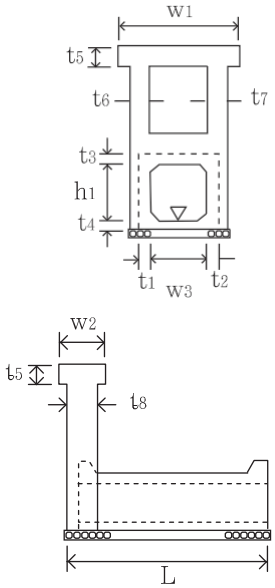
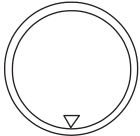
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工(共通)	6 アンカー工		アンカー	削孔深さL	設計値以上	全数(任意仮設は除く)	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		
						配置誤差 d	100				
						せん孔方向 θ	± 2.5 度				
						水平、開度 δ	± 2.0 度				
3 土木工事共通編	2 一般施工	15 擁壁工(共通)	1 一般事項		場所打擁壁	基準高 ∇	± 50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎。			
						厚 さ t	-20				
						裏込厚さ	-50				
						幅 W_1 、 W_2	-30				
						高さ h	$h < 3$ m				-50
							$h \geq 3$ m				-100
						延長	$L < 10$ m				-20
							≥ 10 m $L < 100$ m				-50
							$L \geq 100$ m				-100
3 土木工事共通編	2 一般施工	15 擁壁工(共通)	2 プレキャスト擁壁工		プレキャスト擁壁	基準高 ∇	± 50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎			
						延長	$L < 10$ m				-20
							≥ 10 m $L < 100$ m				-50
							$L \geq 100$ m				-100

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	15 擁 壁 工	3 補 強 土 壁 工		補強土壁 (補強土(テールアルメ) 壁工法) (多数アンカー式補強土 工法) (ジオテキスタイルを用 いた補強土工法)	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
						高 さ h	$h < 3\text{m}$				-50
							$h \geq 3\text{m}$				-100
						鉛 直 度 Δ	$\pm 0.03 h$ かつ ± 300 以内				
						控 え 長 さ	設計値以上				
						延 長	$L < 10\text{m}$	-20	1 施工箇所毎		
$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50										
$L \geq 100\text{m}$	-100										
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	15 擁 壁 工	4 井 桁 ブ ロ ッ ク 工		井桁ブロック	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
						法 長	$< 3\text{m}$				-50
							$\geq 3\text{m}$				-100
						厚 さ t_1 、 t_2 、 t_3	-50				
						勾 配 N	-0.5分				
						延 長 L_1 、 L_2	$L < 10\text{m}$	-20	1 施工箇所毎		
$\geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50										
$L \geq 100\text{m}$	-100										
											

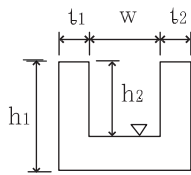
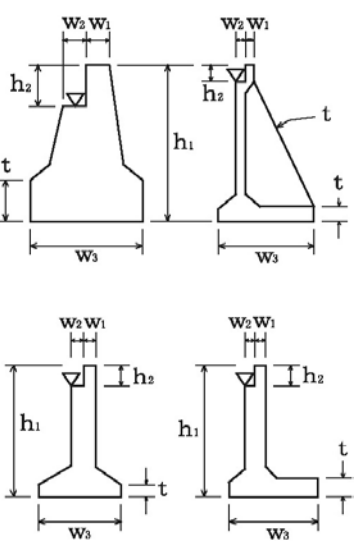
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		規格値		測定基準	測定箇所	摘要	
						基 準 高 ▽	上 限	下 限					
3 土木工事共通編	2 一般施工	16 浚渫工(共通)	3 浚渫船運転工	1	浚渫船運転 (ポンプ浚渫船)	電 気 船	基 準 高 ▽	上 限	下 限	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。			
							200ps	+200	-800				
							500ps	+200	-1000				
							1000ps	+200	-1200				
							デ イ ー ゼ ル 船	250ps	+200				-800
								420ps 600ps	+200				-1000
						幅		-200					
						延 長		-200					
3 土木工事共通編	2 一般施工	16 浚渫工(共通)	3 浚渫船運転工	2	浚渫船運転 (グラブ船) (バックホウ浚渫船)	基 準 高 ▽	上 限 +200		延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。				
						幅		-200					
						延 長		-200					
3 土木工事共通編	2 一般施工	18 床版工	2 床版工		床版	基 準 高 ▽	±20		基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)				
						幅 w		0~+30					
						厚 さ t		-10~+20					
						鉄筋のかぶり		設計値以上				1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。	
						鉄筋の有効高さ		±10					
						鉄 筋 間 隔		±20				1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。 1断面の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。	
						上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合		±10					

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 河川編	1 築堤・護岸	1 適用				基準高▽	±50	基準高・河川幅は施工延長40m (側点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m(または 50m)以下のものは1施工箇所 につき2箇所。		<p>基準高は護岸工の 天端と計画堤防天 端の高さが同じ場 合は規格値を-0と する。 法線は座標管理し ている場合は座標 地とする。 覆現位置(参考値 ±10mm以内) 建設省公共測量作 業規定第5編第4 節適用。</p>
						河川幅W1~W4	-0、+200			
						延長	L < 10m	-20		
							L ≥ 10m < 100m	-50		
L ≥ 100m	-100									
6 河川編	1 築堤・護岸	7 法覆護岸工	4 護岸付属物工		護岸付属物 (横帯コンクリート) (縦帯コンクリート) (小口止工) (巻コンクリート)	幅 w	-30	各格子間の中央部1箇所を測 定。		
高さ h	-30									

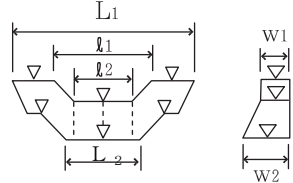
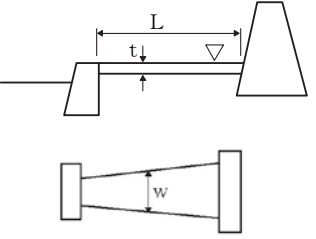
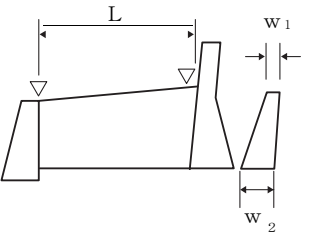
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 河川編	1 築堤・護岸	10 水制工	8 杭出し水制工		杭出し水制	基 準 高 ∇	± 50	1 組毎		
						幅 w	± 300			
						方 向	$\pm 7^\circ$			
						延 長 L	-200			
6 河川編	1 築堤・護岸	13 光ケーブル配管工	3 配管工		配管	埋 設 深	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		
						延 長 L	-200	接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】		
6 河川編	1 築堤・護岸	13 光ケーブル配管工	4 ハンドホール工		ハンドホール	基 準 高 ∇	± 30	1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 w_1, w_2	-30			
						※高さ h_1, h_2	-30			

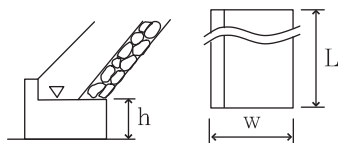
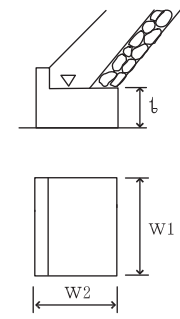
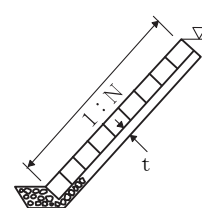
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
6 河川編	3 樋門・樋管	5 樋門・樋管 本体内工	6 函渠工	1	函渠 (本体内工)	基 準 高 ∇	± 30	柔構造樋門の場合は埋戻前(載荷前)に測定する。			
						厚 さ $t_1 \sim t_8$	-20	函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。			
						幅 w_1, w_2	-30	門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所にて測定。プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。			
						内空幅 w_3	-30				
						内空高 h_1	± 30				
						延長	$L < 10\text{m}$	-20			1 施工箇所毎
							$L > 10\text{m}$ $L \leq 20\text{m}$	-50			
$L > 20\text{m}$	-100										
6 河川編	3 樋門・樋管	5 樋門・樋管 本体内工	6 函渠工	2	函渠 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						延長	$L < 10\text{m}$	-20			1 施工箇所毎
							$L > 10\text{m}$ $L \leq 20\text{m}$	-50			
							$L > 20\text{m}$	-100			

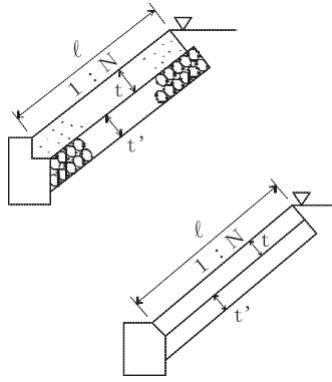
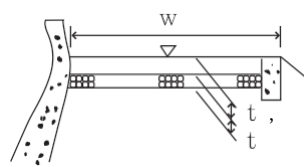
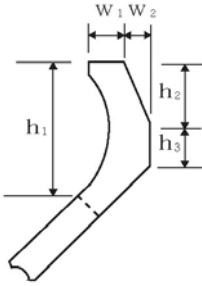
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 河川編	3 樋門・樋管	5 樋門・樋管 本工	7 翼壁工 8 水叩工		翼壁 水叩	基準高 ∇	±30	図面の寸法表示箇所 で測定。		
						厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h	±30			
						延 長 L	-50			
6 河川編	4 水門	6 水門本 体工	7 8 9 10 11		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基準高 ∇	±30	図面の寸法表示箇所 で測定。		
						厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h	±30			
						延 長 L	-50			
6 河川編	5 堰	6 可動堰 本工	13 14		閘門工 土砂吐工	基準高 ∇	±30	図面の寸法表示箇所 で測定。		
						厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h	±30			
						延 長 L	-50			
6 河川編	5 堰	7 固定堰 本工	8 9 10		堰本工 水叩工 土砂吐工	基準高 ∇	±30	基準高、幅、高さ、厚さは 両端、施工継手箇所及び構 造図の寸法表示箇所 で測定。		
						厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h	±30			
						堰 長 L	L < 20m			
	L ≥ 20m	-100								

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 河川編	5 堰	8 魚道工	3 魚道本体工		魚道本体	基準高 ∇	± 30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (なお、製品使用の場合の製品寸法は、規格証明書等による)		
						厚さ t_1 、 t_2	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h_1 、 h_2	-30			
						延長	$L < 10\text{m}$			
$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50									
$L \geq 100\text{m}$	-100									
6 河川編	5 堰	9 管理橋下部工	2 管理橋橋台工		管理橋橋台	基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚さ t	-20			
						天端幅 w_1 (橋軸方向)	-10			
						天端幅 w_2 (橋軸方向)	-10			
						敷幅 w_3 (橋軸方向)	-50			
						高さ h_1	-50			
						胸壁の高さ h_2	-30			
						天端長 l_1	-50			
						敷長 l_2	-50			
						胸壁間距離 l	± 30			
						支点長及び中心線の変化	± 50			

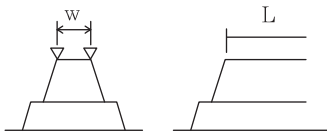
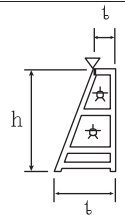
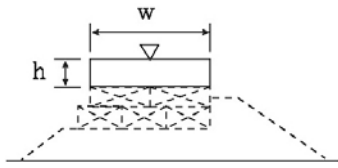
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 河川編	6 排水機場	4 機場本体工	6 本体工		本体	基準高 ∇	± 30	図面の表示箇所にて測定。		
						厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h_1 、 h_2	± 30			
						延 長 L	-50			
6 河川編	6 排水機場	4 機場本体工	7 燃料貯油槽工		燃料貯油槽	基準高 ∇	± 30	図面の表示箇所にて測定。		
						厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h	± 30			
						延 長 L	-50			
6 河川編	6 排水機場	5 沈砂池工	7 コンクリート床版工		コンクリート床版	基準高 ∇	± 30	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h	± 30			
						延 長 L	-50			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 河川編	7 床止め・床固め	4 床止め工	6 本体工	1	本体 (床固め本体工)	基 準 高 ∇	± 30	図面に表示してある箇所にて測定。		
						天 端 幅 w_1	-30			
						堤 幅 w_2	-30			
						堤 長 L_1, L_2	-100			
						水通し幅 l_1, l_2	± 50			
6 河川編	7 床止め・床固	4 床止め工	8 水叩工	1	水叩	基 準 高 ∇	± 30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所にて測定。 厚さは目地及びその中間点にて測定。		
						厚 さ t	-30			
						幅 w	-100			
						延 長 L	-100			
6 河川編	7 床止め・床固め	5 床固め工	6 側壁工		側壁	基 準 高 ∇	± 30	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		
						天 端 幅 w_1	-30			
						堤 幅 w_2	-30			
						延 長 L	-100			

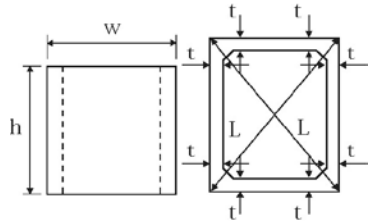
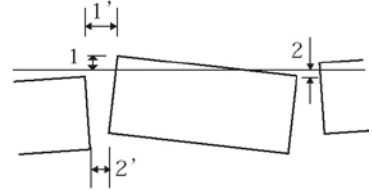
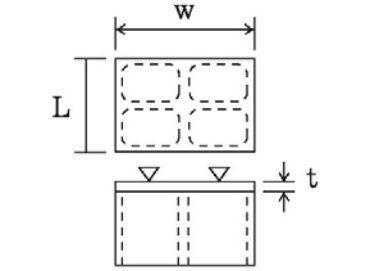
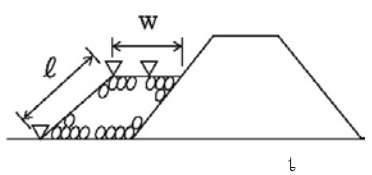
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
7 海岸編	1 堤防・護岸	5 護岸基礎工	5 場所打コンクリート工		場所打コンクリート	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						幅 w	-30				
						高 さ h	-30				
						延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎		
							L > 10m L ≤ 100m	-50			
L > 100m	-100										
7 海岸編	1 堤防・護岸	5 護岸基礎工	6 海岸コンクリートブロック工		海岸コンクリートブロック	基 準 高 ∇	± 50	ブロック個数40個につき1箇所の割で測定。基準高、延長は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						ブロック厚 t	-20				
						ブロック縦幅 w_1 ブロック横幅 w_2	-20 -20				
						延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎		
							L > 10m L ≤ 100m	-50			
							L > 100m	-100			
						勾 配 N	-0.5分				
7 海岸編	1 堤防・護岸	5 護岸基礎工	6 海岸コンクリートブロック工		海岸コンクリートブロック工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						法長 ℓ	$\ell < 5\text{ m}$				-100
							$\ell \geq 5\text{ m}$				$\ell \times (-2\%)$
						厚 さ t	-50				
						勾 配 N	-0.5分				
						延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎		
							L > 10m L ≤ 100m	-50			
L > 100m	-100										

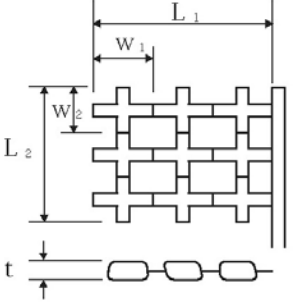
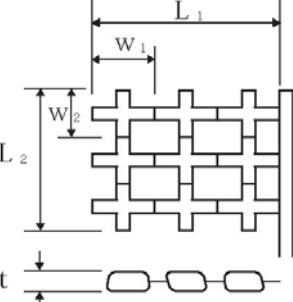
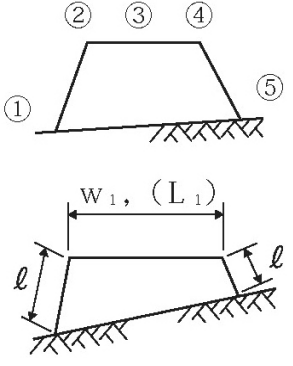
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
7 海岸編	1 堤防・護岸	6 護岸工	5 コンクリート被覆工		コンクリート被覆	基準高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものには1施工箇所につき2箇所。			
						法長 ℓ	$\ell < 3\text{ m}$				-50
							$\ell \geq 3\text{ m}$				-100
						厚さ t	$t < 100$				-20
							$t \geq 100$				-30
						裏込材厚 t					-50
						勾配 N					-0.5分
						延長	$L < 10\text{m}$				-20
							$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$				-50
							$L \geq 100\text{m}$				-100
7 海岸編	1 堤防・護岸	8 天端被覆工	2 コンクリート被覆工		コンクリート被覆	基準高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						幅 w	-50				
						厚さ t	-10				
						基礎厚 t'	-45				
						延長	$L < 10\text{m}$				-20
							$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$				-50
							$L \geq 100\text{m}$				-100
7 海岸編	1 堤防・護岸	9 波返工	3 波返工		波返	基準高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						幅 w_1 、 w_2	-30				
						高さ $h < 3\text{ m}$ h_1 、 h_2 、 h_3	-50				
						高さ $h \geq 3\text{ m}$ h_1 、 h_2 、 h_3	-100				
						延長	$L < 10\text{m}$				-20
							$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$				-50
							$L \geq 100\text{m}$				-100

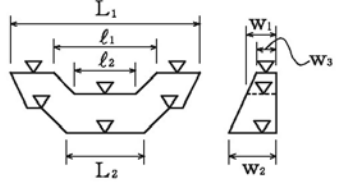
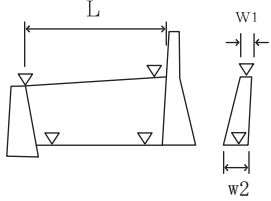
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
7 海岸編	2 突堤・人工岬	4 突堤基礎工	4 捨石工		捨石	本 均 し	±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。			
						表面均し	±100				
						基準高▽ 荒均し	異形ブロック据付面(乱積)の高さ				±500
							異形ブロック据付面(乱積)以外の高さ				±300
						被覆均し	異形ブロック据付面(乱積)の高さ				±500
							異形ブロック据付面(乱積)以外の高さ				±300
						法 長 ℓ	-100				幅は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。
						天 端 幅 w_1	-100				
天 端 延 長 L_1	-200										
7 海岸編	2 突堤・人工岬	4 突堤基礎工	5 吸出し防止工		吸出し防止	幅 w	-300	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						延 長 L	-500				
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	2 捨石工		捨石	基準高▽ 異形ブロック据付面(乱積)の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。			
						異形ブロック据付面(乱積)以外の高さ	±300				
						法 長	-100				幅は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。
						天端幅 w_1	-100				
						天端延長 L_1	-200				

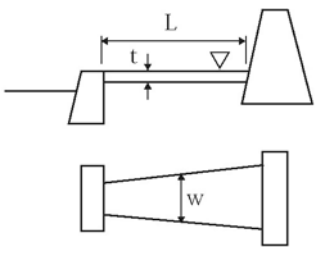
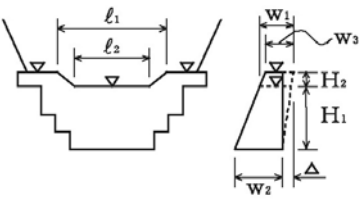
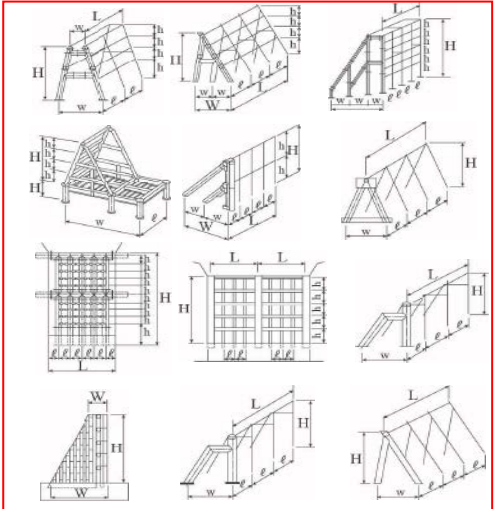
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本位工	5 海岸コンクリートブロック工		海岸コンクリートブロック	基準高▽	(層積) ブロック 規格26 t 未満	±300	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターラインで行う。		
							(層積) ブロック 規格26 t 以上	±500			
							(乱 積)	±ブロックの 高さの1/2			
							天 端 幅 w	-ブロックの 高さの1/2			
							天 端 延 長 L	-ブロックの 高さの1/2			
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本位工	9 石砕工		石砕	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						厚 さ t	-50				
						高 さ h	h < 3 m				-50
							h ≥ 3 m				-100
						延 長 L	-200				1 施工箇所毎
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本位工	10 場所打コンクリート工		場所打コンクリート	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						幅 w	-30				
						高 さ h	-30				
						延 長 L	-200				1 施工箇所毎

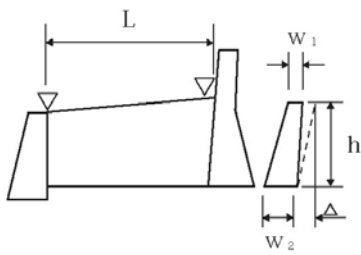
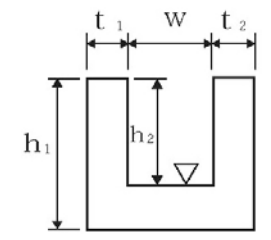
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
						パラ						
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	11 ケーソン工	1	ケーソン (ケーソン工製作)	パラ	砕石、砂	±100	各室中央部1箇所			
							コンクリート	±50				
							壁 厚 t_1	±10				底版完成時、各壁1箇所
							幅 w	+30、-10				各層完成時に中央部及び底版と天端は両端
							高 さ h_1	+30、-10				完成時、四隅
							長 さ L	+30、-10				各層完成時に中央部及び底版と天端は両端
							底版厚さ t_2	+30、-10				底版完成時、各室中央部1箇所
							フーチング高さ h_2	+30、-10				底版完成時、四隅
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	11 ケーソン工	2	ケーソン (ケーソン工据付)	法線に対する出入 1、2		ケーソン重量 2000 t 未満 ±100	据付完了後、両端2箇所			
								ケーソン重量 2000 t 以上 ±150				
						据付目地間隔 1'、2'		ケーソン重量 2000 t 未満 100以下				据付完了後、天端2箇所
								ケーソン重量 2000 t 以上 200以下				
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	11 ケーソン工	3	ケーソン (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブロッ ク	基準	陸 上 ▽	±30	1室につき1箇所(中心)			
						高	水 中 ▽	±50				
							厚 さ t	±30				
							幅 w	±30				
							長 さ L	±30				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	12 セルラー工	1	セルラー (セルラ工製作)	壁 厚 t	±10	型枠取外し後全数				
						幅 w	+20、-10					
						高 さ h	+20、-10					
						長 さ L	+20、-10					
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	12 セルラー工	2	セルラー (セルラー工据付)	法線に対する 出 入 1、2	±50	据付後ブロック1個に2箇所(各段毎)				
						隣接ブロックとの 間 隔 1'、2'	50以下					
7 海岸編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	12 セルラー工	3	セルラー (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブロック	基準高▽	陸 上	±30	1室につき1箇所(中心)			
							水 中	±50				
							厚 さ t	±30				
							幅 w	±30				
							長 さ L	±30				
7 海岸編	2 突堤・人工岬	6 根固め工	2 捨石工		捨石	基準高▽	異形ブロック据付 面(乱積)の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5 点以上測定。			
							異形ブロック据付 面(乱積)以外の高さ	±300				
							法 長 ℓ	-100				幅は施工延長40m(測点間隔25mの場 合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所 につき2箇所、延長はセンターライ ン及び表裏法肩。
							天 端 幅 w	-100				
							天 端 延 長 L	-200				

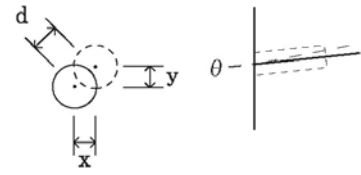
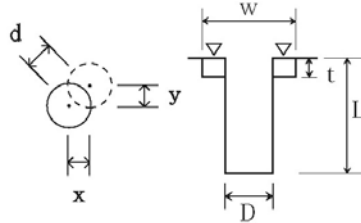
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要									
						層 積	乱 積													
7 海岸編	2 突堤・人工岬	6 根固め工	3 根固めブロック工		根固めブロック	基準高▽	層 積	±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。											
							乱 積	± t / 2												
						厚 さ t	層 積	-20	幅、厚さは40個につき1箇所測定。											
							乱 積	- t / 2												
						延長 L1 L2	層 積	-200	1 施工箇所毎											
							乱 積	- t / 2												
						7 海岸編	2 突堤・人工岬	7 消波工	3 消波ブロック工				消波ブロック	基準高▽	層 積	±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものには1施工箇所につき2箇所。			
															乱 積	± t / 2				
														厚 さ t	層 積	-20	幅、厚さは40個につき1箇所測定。			
															乱 積	- t / 2				
延長 L1 L2	層 積	-200	1 施工箇所毎																	
	乱 積	- t / 2																		
7 海岸編	3 海域堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	3 海域堤基礎工	3 捨石工		捨石					基準高▽	本 均 し			±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。					
											荒均し			異形ブロック据付面（乱積）の高さ						±500
														異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ						±300
											被覆均し			異形ブロック据付面（乱積）の高さ						±500
						異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ	±300													
						法 長ℓ	-100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。												
						天 端 幅 w1	-100													
						天 端 延 長 L1	-200													

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
8 砂防編	1 砂防えん堤	3 工場製作工	4 鋼製えん堤仮設材製作工		鋼製えん堤仮設材製作	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
8 砂防編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤工	4 コンクリートえん堤本体工		コンクリートえん堤本体	基準高 ∇	± 30	図面に表示してある箇所にて測定。			
						天端部 w_1 、 w_3 堤幅 w_2	-30				
						水通し幅 ℓ_1 ℓ_2	± 50				
						堤長 L_1 、 L_2	-100				
8 砂防編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤工	6 コンクリート側壁工		コンクリート側壁	基準高 ∇	± 30	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さとは、天端中心線の水平延長、又は測点に直角な水平延長を測定。			
						幅 w_1 、 w_2	-30				
						長さ L	-100				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
8 砂防編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤工	8 水叩工		水叩	基準高 ∇	± 30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。		
						幅 w	-100			
						厚さ t	-30			
						延長 L	-100			
8 砂防編	1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工	5 鋼製えん堤本体工	1	鋼製えん堤本体 (不透過型)	堤高 ∇	± 50	1. 図面の表示箇所で測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規定値は適用しない。		
						長さ ℓ_1 、 ℓ_2	± 100			
						幅 w_1 、 w_3	± 50			
						下流側倒れ Δ	$\pm 0.02H_1$			
						袖高 ∇	± 50			
						幅 w_2	± 50			
						下流側倒れ Δ	$\pm 0.02H_2$			
8 砂防編	1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工	5 鋼製えん堤本体工	2	鋼製えん堤本体 (透過型)	堤長 L 格	± 50	(備考) 格：格子型鋼製砂防えん堤 A：鋼製スリットダム A型 B：鋼製スリットダム B型 L：鋼製スリットダム L型		
						堤長 ℓ 格・B・L	± 10			
						堤幅 W 格	± 30			
						堤幅 w 格・A・B・L	± 10			
						高さ H 格・A・B・L	± 10			

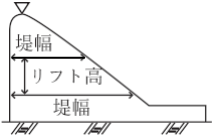
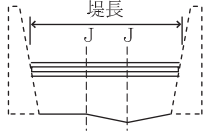
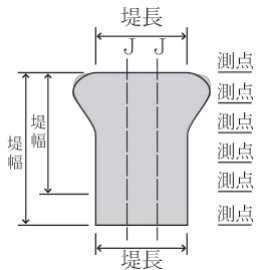
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
8 砂防編	1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工	6 鋼製側壁工		鋼製側壁	堤 高 ∇	± 50	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		
						長 さ L	± 100			
						幅 w_1, w_2	± 50			
						下流側倒れ Δ	$\pm 0.02H$			
						高さ h	$h < 3m$			
	$h \geq 3m$	-100								
8 砂防編	2 流路	5 床固め工	8 魚道工		魚道	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。（なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。）		
						幅 w	-30			
						高さ h_1, h_2	-30			
						厚さ t_1, t_2	-20			
						延長	$L < 10m$			
$L \geq 10m$ $L < 100m$	-100									
$L \geq 100m$	± 30									
8 砂防編	3 斜面対策	4 法面工	7 鉄筋挿入工（ロックボルト工）		鉄筋挿入（ロックボルト工）	削孔深さ L	設計値以上	全数	<ul style="list-style-type: none"> 削孔深さ、鉄筋（ロックボルト）挿入状況については、監督員が全数量の5%かつ3本以上確認するものとする。 挿入状況については、全数立会い確認を実施し、確認した記録（様式16）をまとめて検査時に提出するものとするただし、立会い確認以外の別な方法として、施工後、超音波探査器により鉄筋の長さを確認することが可能な場合には、超音波探査器による長さ測定試験に代えることが出来るものとする。 超音波探査器により試験を実施する場合には、（社）日本非破壊検査協会「NDISO非破壊検査技術認定規定」により2種以上に認定された有資格者が実施するものとする。 	
						削孔径 R	設計値以上	全数の5%以上かつ3本以上（ビット設置時又は交換時）		
						配置誤差 d	100	全数の5%以上かつ3本以上		
						せん孔方向 θ	± 2.5 度	全数の5%以上かつ3本以上		
						鉄筋（ロックボルト）の挿入状況	挿入状況立会（目視確認） 規格値「なし」	全数		
						鉄筋の長さ（超音波探査器による測定時）	+40~-20	全数		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
8	砂防編	3	斜面対策	6	山腹水路工	4	山腹明暗渠	基準高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものには1施工箇所につき2箇所。（なお製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による）		
								厚さ t_1 、 t_2	-20			
								幅 w	-30			
								幅 w_1 、 w_2	-50			
								高さ h_1 、 h_2	-30			
								深 さ h_3	-30			
								延長	$L < 10\text{m}$			
$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50											
$L \geq 100\text{m}$	-100											

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
8 砂防編	3 斜面对策	7 地下水排除工	4 集排水ボーリング工		集排水ボーリング	削 孔 深 さ ℓ	設置値以上	全数	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						配 置 誤 差 d	100			
						せ ん 孔 方 向 θ	± 2.5 度			
						水 平、開 度 δ	± 2.0 度			
8 砂防編	3 斜面对策	7 地下水排除工	5 集水井工		集水井	基 準 高 ∇	± 50	全数測定。 偏心量は、杭頭と低面の差を測定。 基準高、深さについては4箇所測定する。 径は中心線をとる直角2方向とし、 上下の2箇所測定。	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
						偏 心 量 d	150			
						長 さ L	-100			
						巻 立 て 幅 w	-50			
						巻 立 て 厚 さ t	-30			
						径 D	-30			
8 砂防編	3 斜面对策	9 抑止杭工	6 合成杭工		合成杭	基 準 高 ∇	± 50	全数測定。		
						偏 心 量 d	$D/4$ 以内 かつ100以内			
						根 入 長	設計値以上			

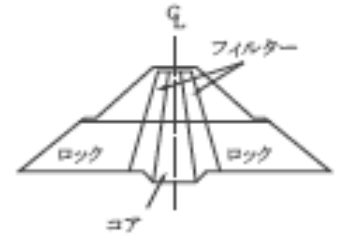
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
9 ダム編	1 コンクリートダム	4 ダムコンクリート工			コンクリートダム工 (本体)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高(越流部堤頂高を含む)は、各ジョイントについて測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて5リフトごとに測定。 (注)堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔(横継目)は、5リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、天端中心線延長を測定。 3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平坦性の測定方法は、監督員の指示による。 ②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦性などの測定方法は監督員の指示による。		
						天 端 幅	±20			
						ジョイント間隔	±30			
						リ フ ト 高	±50			
						堤 幅	-30、+50			
						堤 長	-100			
9 ダム編	1 コンクリートダム	4 ダムコンクリート工			コンクリートダム工 (水叩)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高(敷高)、ジョイント間は各ジョイント、各測点の交点部を測定。 ②長さは、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。 3. 水叩の平坦性の測定は監督員の指示による。		
						ジョイント間隔	±30			
						幅	±40			
						長 さ	-100、+60			

(注) 1. j : ジョイント

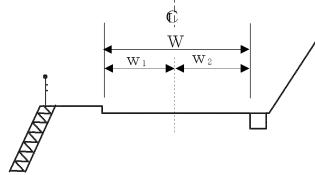
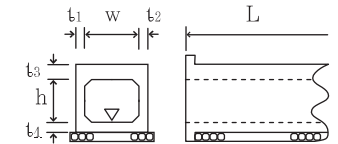
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (副ダム)	天 端 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高は、各ジョイントごとに測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。	  	
						ジョイント間隔	±30			
						リ フ ト 高	±50			
						堤 幅	-30 +50			
						堤 長	±40			

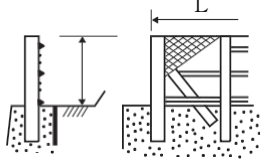
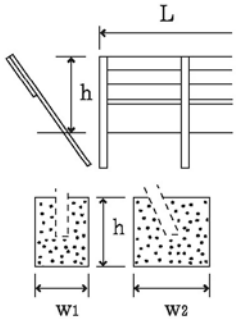
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高	±30	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又はジョイントごとに測定。 ②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測定する。 (注)リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。		
						ジョイント間隔	±20			
						リ フ ト 高	±50			
						長 さ	±100			
						厚 さ	±20			
									<p>j : ジョイント</p>	

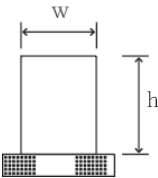
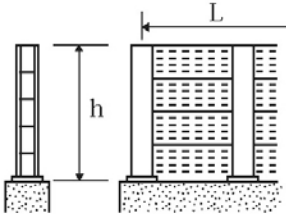
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
9 ダム 編	2 フィル ダム	4 盛立 工	5 コア の盛立		コアの盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種（タンピング ローラ）の場合		
						外側境界線	-0、+500			
9 ダム 編	2 フィル ダム	4 盛立 工	6 フィル ターの盛立		フィルター の盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎に測定。		
						外側境界線	-0、+1000			
						盛 立 幅	-0、+1000			
9 ダム 編	2 フィル ダム	4 盛立 工	7 ロッ クの盛立		ロック の盛立	基 準 高 ▽	-100	各測点について盛立5m毎に測定。		
						外 側 境 界 線	-0、+2000			



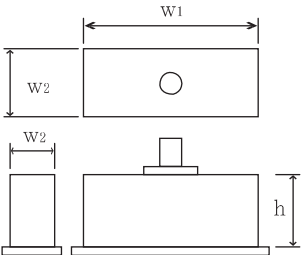
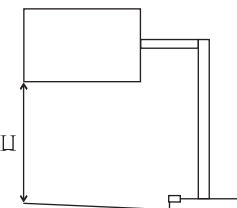
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
9 ダム編	2 フィルダム				フィルダム工 (洪水吐)	基 準 高 ∇	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 1回/1施工箇所		
						ジョイント間隔	±30			
						厚 さ t	±20			
						幅 w	±40			
						リフト高さ	±20			
						長 さ L	±100			
9 ダム編	3 基礎グラウチング	3 ボーリング工			ボーリング工	深 度 L	設計値以上	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で行うカーテングラウトに適用する。		
						配 置 誤 差	100			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
10 道路編	1 道路改良	1 適用			道路工	基準値	±30	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所 の割とし、基準高は、道路中心線及び その端部で測定する。		道路中心線は 座標管理の場 合は座標値と する 復元位置 (参考値±10 mm以内) 建 設省公共測量 作業規定第5 編第4節適用	
						幅W、W1、W2	-25				
						延長	L < 10m				-20
							10 ≤ L < 100m				-50
							L ≥ 100m				-100
10 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2 遮音壁支柱製作工	1	遮音壁支柱製作	部材 部材長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	図面の寸法表示箇所 で測定。			
10 道路編	1 道路改良	9 カルバート工	6 場所打函渠工		場所打函渠	基準高 ∇	±30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所 で測定。			
						厚さ t ₁ ~ t ₄	-20				
						幅 (内法) w	-30				
						高さ h	±30				
						延長	L < 10m				-20
L ≥ 10m L < 100m	-50										
L ≥ 100m	-100										
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	4 落石防止網工		落石防止網工	幅 w	-200	1 施 4工箇所毎			
						延長 L	-100				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
10 道路編	1 道路改良	11 落石 雪害 防止工	5 落石 防護 柵工		落石防護柵	高 さ ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						延 長	L < 10m	-20			1 施工箇所毎。
							$\begin{matrix} \geq 10\text{m} \\ L < 100\text{m} \end{matrix}$	-50			
							L ≥ 100m	-100			
10 道路編	1 道路改良	11 落石 雪害 防止工	6 防雪 柵工		防雪柵	高 々 h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						基礎	幅 w ₁ 、w ₂	-30			基礎 1 基毎
							高 々 h	-30			
						延 長	L < 10m	-20			1 施工箇所毎
							$\begin{matrix} \geq 10\text{m} \\ L < 100\text{m} \end{matrix}$	-50			
							L ≥ 100m	-100			
						10 道路編	1 道路改良	11 落石 雪害 防止工			7 雪崩 予防 柵工
基礎	幅 w ₁ 、w ₂	-30	基礎 1 基毎								
	高 々 h	-30									
アン カ ー 長	打 込 み ℓ	-10%	全数								
	埋 込 み ℓ	-5%									
延 長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎								
	$\begin{matrix} \geq 10\text{m} \\ L < 100\text{m} \end{matrix}$	-50									
	L ≥ 100m	-100									

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	4 遮音壁基礎工		遮音壁基礎	幅 w	-30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						高さ h	-30				
						延長 L	-100	1 施工箇所毎			
10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	5 遮音壁本体工		遮音壁本体	支柱	間 隔 w	±15	施工延長5スパンにつき1箇所		
							ず れ a	10			
							倒 れ d	$h(5/1000)$			
						高 さ h	+30、-20	1 施工箇所毎			
						延 長 L	-100				

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値の平均 \bar{x}_n			
							中規模以上	小規模以下				
10 道路編	2 舗装	4 舗装工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50	$\bar{x}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40mごとに、1個所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
						厚さ	t < 15cm	\bar{x}_3	-6			
							t ≥ 15cm	$\bar{x}_4 \sim \bar{x}$	-10			
								$\bar{x}_7 \sim$	-15			
幅	-100	$\bar{x}_3 \sim$	-25									
10 道路編	2 舗装	4 舗装工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚さ		\bar{x}_3	-1	幅は延長40mごとに、1個所の割とし、厚さは2,000㎡まで→小規模工事までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
								$\bar{x}_4 \sim \bar{x}$	-2			
								$\bar{x}_7 \sim$	-3			
						幅	-30	$\bar{x}_3 \sim$	-10			

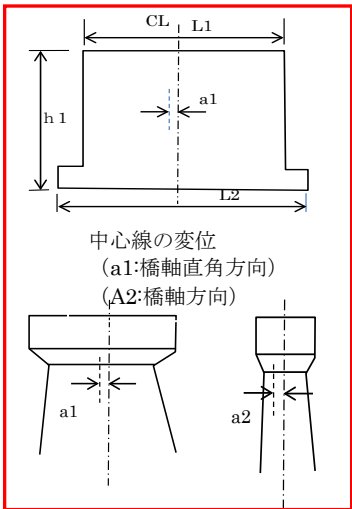
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	2 舗装	5 排水構造物工 (路面排水工)	9 排水性舗装用路肩排水工		排水性舗装用路肩排水	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						延長	$L < 10m$	-20	1箇所 / 1施工箇所	
							$L \geq 10m$ $L < 100m$	-50		
							$L \geq 100m$	-100		
10 道路編	2 舗装	7 踏掛版工	4 踏掛版工		踏掛版 (コンクリート工)	基 準 高	± 20	1箇所 / 1踏掛版		
						各 部 の 厚 さ	± 20	1箇所 / 1踏掛版		
						各 部 の 長 さ	± 30	1箇所 / 1踏掛版		
					(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	± 20	全数		
						厚 さ	—			
						(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	± 20	全数	
							ア ン カ ー 長	± 20	全数	
10 道路編	2 舗装	9 標識工	5 標識基礎工			幅 w_1 、 w_2	-30	基礎一基毎		
						高 さ h	-30			
10 道路編	2 舗装	9 標識工	6 標識柱工		大型標識 (標識柱工)	設置高さH	設置値以上	1箇所 / 1基		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
10 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	5 ケーブル配管工	1	ケーブル配管	埋 設 深 t	0～+50	接続部間毎に1箇所			
						延長	$L < 10\text{m}$	-20			接続部間毎で全数
							$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50			
							$L \geq 100\text{m}$	-100			
10 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	5 ケーブル配管工	2	ケーブル配管 (ハンドホール)	基 準 高 ∇	± 30	1箇所毎 ※は、現場打部分のある場合			
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20				
						※幅 w_1, w_2	-30				
						※高さ h_1, h_2	-30				
10 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	6 照明工		照明 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1箇所／1施工箇所			
						高 さ h	-30				

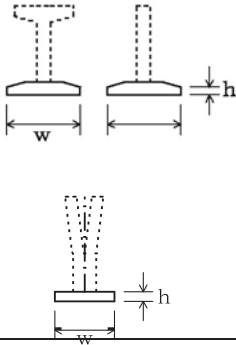
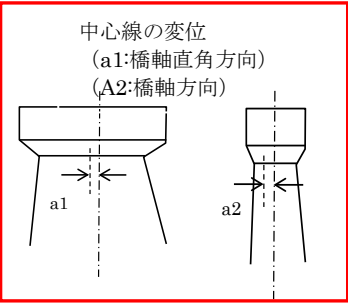
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
10 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	3 鋼製橋脚製作工		鋼製橋脚製作	部 材	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)	$w/500$	各脚柱、ベースプレートを測定。		
							ベースプレート	孔の位置	± 2	全数を測定。	
						孔の径		0~5	全数を測定。		
						仮 組 立 時	柱の中心間隔、対角長 L (m)	$\pm 5 \dots$ $L \leq 10m$ $\pm 10 \dots$ $10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20) / 10) \dots$ $20m < L$	両端部及び片持ばり部を測定。		
							はりのキャンバー及び柱の曲がり δ (mm)	$L/1,000$	各主構の各格点を測定。		
							柱の鉛直度 δ (mm)	$10 \dots H \leq 10$ $H/1,000$ $\dots H > 10$	各柱及び片持ばり部を測定。 H : 高さ (m)		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要				
10	道路編	3	橋梁下部	6	橋台工	8	橋台躯体	基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。				
								厚 さ t	-20					
								天端幅 w_1 (橋軸方向)	-10					
								天端幅 w_2 (橋軸方向)	-10					
								敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50					
								高 さ h_1	-50					
								胸壁の高さ h_2	-30					
								天 端 長 l_1	-50					
								敷 長 l_2	-50					
								胸壁間距離 l	± 30					
								支間長及び 中心線の変位	± 50					
								アンカー ボルトの 箱抜き規格値	鋼製 支承				計 画 高	-20~+10
													平面位置	± 20
													アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下
								ゴム 支承					計 画 高	-20~+10
													平面位置	± 20
													アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
10 道路編	3 橋梁下部	7 RC橋脚工	9 橋脚躯体工	1	橋脚躯体 (張出式) (重力式) (半動式)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。				
						厚 さ t	-20					
						天 端 幅 w_1 (橋 軸 方 向)	-20					
						敷 幅 w_2 (橋 軸 方 向)	-50					
						高 さ h_1	-50					
						天 端 長 l_1	-50					
						敷 長 l_2	-50					
						橋脚中心間距離 l	± 30					
						支 間 長 及 び 中 心 線 の 変 位	± 50					
						アン カー ボルト の箱 抜き 規格 値	鋼 製 支 承				計 画 高	-20~+10
											平 面 位 置	± 20
											アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下
						ゴ ム 支 承	ゴ ム 支 承				計 画 高	-20~+10
											平 面 位 置	± 20
											アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下



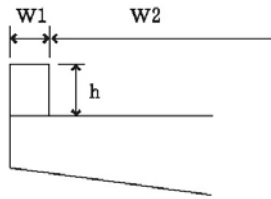
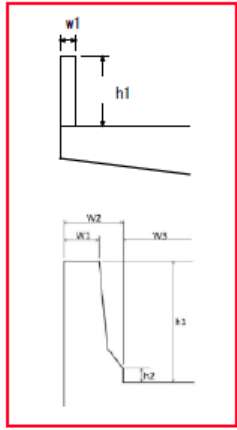
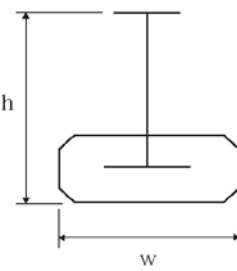
編 章 節 条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
10 道路編 3 橋梁下部 7 RC橋脚工 9 橋脚躯体工	2	橋脚躯体 (ラーメン式)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。			
			厚 さ t	-20				
			天 端 幅 w_1	-20				
			敷 幅 w_2	-20				
			高 さ h	-50				
			長 さ l	-20				
			橋脚中心間距離 l	± 30				
			支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50				
			ルの 支 承 部 ア ン カ ー ボ ト の 箱 抜 き 規 格 償	計 画 高				+10~-20
				平均位置				± 20
アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下							
10 道路編 3 橋梁下部 8 鋼製橋脚工 9 橋脚フーチング工	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。			
			幅 w (橋 軸 方 向)	-50				
			高 さ h	-50				
			長 さ l	-50				



編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9 橋脚フーチング工	2	橋脚フーチング (門型)	基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。		
						幅 w_1 、 w_2	-50			
						高さ h	-50			
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10 橋脚架設工	1	橋脚架設 (I型・T型)	基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。		
						橋脚中心間距離 ℓ	± 30			
						支間長及び 中心線の変位	± 50			
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10 橋脚架設工	2	橋脚架設 (門型)	基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。		
						橋脚中心間距離 ℓ	± 30			
						支間長及び 中心線の変位	± 50			
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	11 現場継手工		現場継手部のすき間 δ_1 、 δ_2 (mm)	5 ※ ± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合			
10 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9 橋梁用高欄製作工		橋梁用高欄製作	部材 部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \dots \dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		

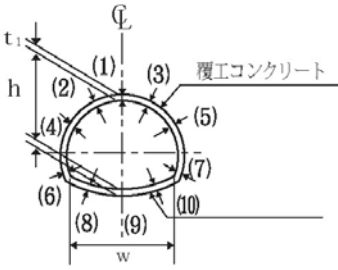
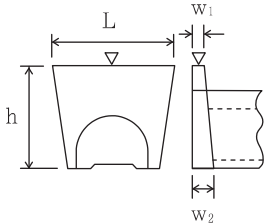
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要	
							コンクリート橋	鋼橋				
10 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10 支承工	1	支承工（鋼製支承）	据付け高さ注1)	±5		支承全数を測定。B： 支承中心間隔（m） 支承の平面寸法が300mm以下の場合 は、水平面の高低差を1mm以下とす る。なお、支承を勾配なりに据付け 除く。 注1）先固定の場合は、支承上面で 測定する。 注2）可動支承の遊間（La, Lb）を計 測し、支承据付時のオフセット量δ を考慮して、移動可能性が道路橋支 承便覧の規格値を満たすことを確認 する。 注3）可動支承の移動量検査は、架 設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。			
						可動支承の移動可能 量注2)	設計移動量 +10以上					
						支 承 中 心 間 隔（橋 軸 直 角 方 向）	±5	4+0.5× (B-2)				
						下 沓 の 水 平	橋軸方向	1/100				
							橋軸直角方向					
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相 対 誤 差	5					
可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2以上											
10 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10 支承工	2	支承工（ゴム支承）	据付け高さ注1)	±5		支承全数を測定。上部構造部材下 面とゴム支承面との接触面、及び ゴム支承と台座モルタルとの接触 面に肌すきが無いことを確認。支 承の平面寸法が300mm以下の場合 は、水平面の高低差を1mm以下と する。なお、支承を勾配なりに据 付ける場合を除く。 注1）先固定の場合は、支承上面 で測定する。 注2）可動支承の遊間（La, Lb）を 計測し、支承据付時のオフセット 量δを考慮して、移動可能性が道 路橋支承便覧の規格値を満たすこ とを確認する。 注3）可動支承の移動量検査は、 架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。			
						可動支承の移動可能 量注2)	設計移動量 +10以上					
						支 承 中 心 間 隔（橋 軸 直 角 方 向）	±5	4+0.5× (B-2)				
						支 承 の 水 平	橋軸方向	1/300				
							橋軸直角方向					
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相 対 誤 差	5					
可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴 移動量計算値 1/2以上											

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値(X)	平均の測定値(\bar{X}_n)			
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	3 落橋防止装置工		落橋防止装置	アンカー ボルト孔 の削孔長	-0 +20		全数測定		
						アンカー ボルト 定着長	-20 +30		全数測定超音波探傷器により測定		

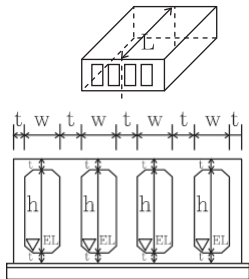
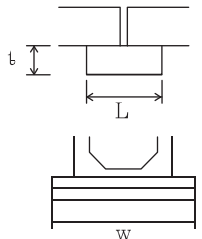
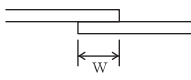
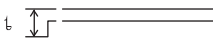
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	5 地覆工		地覆	地覆の幅 w_1	-10~+20	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						地覆の高さ h	-10~+20			
						有効幅員 w_2	0~+30			
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	6 橋梁用防護柵工	7 橋梁用高欄工	橋梁用防護柵 橋梁用高欄	天端幅 $w1$	-5~+10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
						地覆の幅 $w2$	-10~+20			
						高 さ $h1$	-20~+30			
						高 さ $h2$	-10~+20			
						有効幅員 $w3$	0~+30			
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	8 検査路工		検査路	幅	±3	1 ブロックを抽出して測定。		
						高 さ	±4			
10 道路編	5 コンクリート橋上部	6 プレビーム桁橋工	2 プレビーム桁製作工		プレビーム桁製作 (現場)	幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスリング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ : スパン長		
						高 さ h	+10 -5			
						桁 長 ℓ ス パ ン 長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm以内			
						横方向最大タワミ	0.8ℓ			

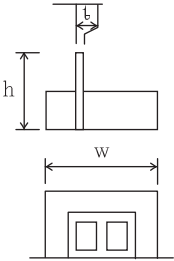
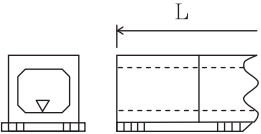
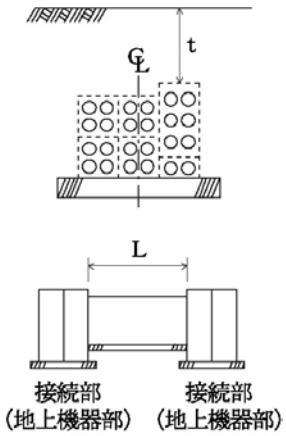
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
10	道路編	6	トンネル(NATM)	4	支保工	3	吹付工	吹付	吹付け厚さ	<p>設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。</p> <p>施工延長40m毎に図に示す。(1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。</p> <p>注)良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準(構造編)にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。</p>		
10	道路編	6	トンネル(NATM)	4	支保工	4	ロックボルト工	ロックボルト	位置間隔 角 度 削 孔 深 さ 孔 径 突 出 量	<p>プレート下面から10cm以内</p> <p>施工延長40m毎に断面全本数検測。</p>		

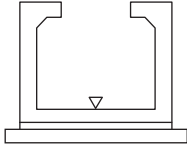
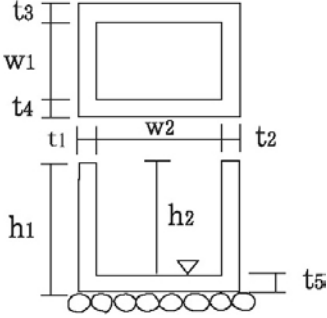
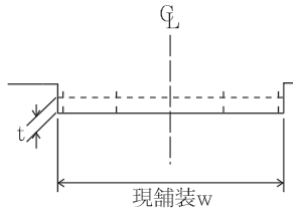
編 章 節 条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
10 道路編	6 トンネル(NATM)	5 覆工	3 覆工コンクリート工	覆工コンクリート	基準高 (拱頂)	±50	<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。</p> <p>(2) 厚さ</p> <p>(イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。</p> <p>(ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。</p> <p>(ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の</p> <p>(1)は40mに1箇所、(2)～(3)100mに1箇所の割合で行う。</p> <p>なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。</p> <p>ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な地山における岩又は吹付けコンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 ・なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。 		<p>道路中心線は座標管理の場合は座標値とする 復元位置参 (考値 ±10mm以内)</p> <p>建設省公共測量 作業規定 第5編第4節適用</p>
				幅 w (全幅)	-50				
				高さ h (内法)	-50				
				厚さ t_1 、 t_2	設計値以上				
				延長 L	-				
				ハンドハンマーによるたたき(打音)	済んで濁った音がしない	1打設長の起終点及び中間点とする。(コンクリート強度が設計強度に達したもの)			
10 道路編	6 トンネル(NATM)	5 覆工	5 床版コンクリート工	床版コンクリート	幅 W	-50	<p>施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
				厚さ t	-30				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
10 道路編	6 トンネル(NATM)	6 インバート工	4 インバート本体工		インバート本体	幅 w (全幅)	-50	(1)幅は、施工40mにつき1箇所。 (2)厚さ (イ)コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ)コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ)検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)~(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には左記の規格値は適用除外とする。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		道路中心線は、座標管理の場 合は座標値と する位置 復元位置 参考値 ±10mm以内 建設省公共測 量作業規定第 5編第4節適 用	
						厚さ t_1 、 t_2	設計値以上				
						延 長 L	-				
10 道路編	6 トンネル(NATM)	8 坑門工	4 坑門本体工		坑門本体工	基 準 高 ∇	±50	図面の主要寸法表示箇所にて測定。			
						幅 w_1 、 w_2	-30				
						高さ h	$h < 3\text{m}$				-50
							$h \geq 3\text{m}$				-100
						延 長 L	-200				


編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	6 トンネル (NATM)	8 坑門工	5 明り巻工		明り巻	基準高▽(拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。		道路中心線は座標管理の場合は座標値とする 復元位置 参考値 ±10mm以内 建設省公共測量作業規定 第5編第4節 適用
						幅 w (全幅)	-50			
						高さ h (内法)	-50			
						厚 さ t	-20			
						延 長 L	-			

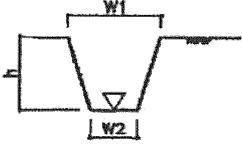
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	2 現場打躯体工		現場打躯体	基準高 ∇	± 30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ t	-20			
						内 空 幅 w	-30			
						内 空 高 h	± 30			
						ブ ロ ッ ク 長 L	-50			
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	4 カラー継手工		カラー継手	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						幅 w	-20			
						長 さ L	-20			
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	5 防水工	1	防水 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。		
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	5 防水工	2	防水 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。		

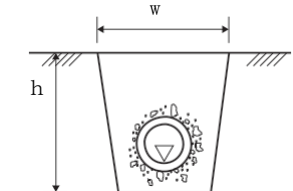
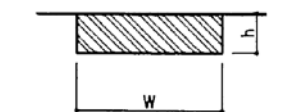
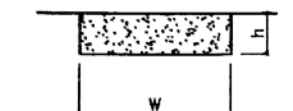
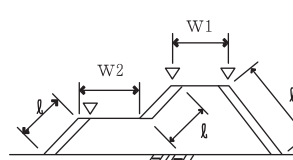
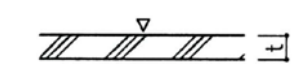
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	5 防水工	3	防水 (防水壁)	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。				
						幅 w	±50					
						厚 さ t	-20					
10 道路編	11 共同溝	7 プレキャスト構築工	2 プレキャスト躯体工		プレキャスト躯体	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25の場合は50)につき1箇所、延長40m(又は50)以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。				
						延 長	L < 10m				-20	1 施工箇所毎
							L ≥ 10m L < 100m				-50	
							L ≥ 100m				-100	
10 道路編	12 電線共同溝	5 電線共同溝工	2 管路工		管路(管路部)	埋 設 深	0~+50	接続部(地上機器部)間毎に1箇所。 接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】				
						延 長	L < 10m				-20	
							L ≥ 10m L < 100m				-50	
							L ≥ 100m				-100	

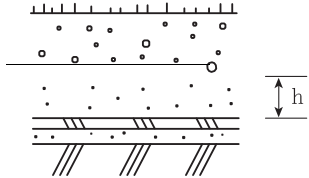
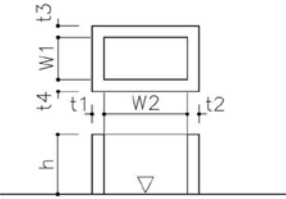
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
10 道路編	12 電線共同溝	5 電線共同溝工	3 プレキャストボックス工		プレキャストボックス (特殊部)	基 準 高 ▽	±30	接続部（地上機器部）間毎に1箇所。			
						延長	L < 10m	-20			1 施工箇所毎
							L ≥ 10m L < 100m	-50			
							L ≥ 100m	-100			
10 道路編	12 電線共同溝	6 付帯設備工	2 ハンドホール工		ハンドホール	基 準 高 ▽	±30	1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合			
						※厚さ t ₁ ~ t ₅	-20				
						※幅 w ₁ 、w ₂	-30				
						※高さ h ₁ 、h ₂	-30				
10 道路編	14 道路維持	4 舗装工	5 切削オーバーレイ工		切削オーバーレイ	個々の測定値 (X)	平均の測定値 (Xn)	厚さは40m毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						厚さ t (切削)	-7				-2
						厚さ t (オーバーレイ)	-9				
						幅 w	-25				
						延長 L	-100				
						平坦性	3mプロフィールメーター (σ)2.4mm以下直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要		
							個々の測定値 (X)	平均の測定値(Xn)					
10 道路編	14 道路維持	4 舗装工	7 路上再生工		路上再生	路盤工	厚さ t	-30	幅は延長40m毎に1箇所の割で測定。厚さは、2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超えたときは、1,000㎡毎に1個とし掘起して測定。				
							幅 w	-50					
							延長 L	-100					
10 道路編	16 道路修繕	3 工場製作工	4 桁補強材製作工		桁補強材製作		フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \dots \dots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots \dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2)$ $2.0 < w$	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。				
								フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$	主桁		支点及び各支間中央付近を測定。	
								圧縮材の曲がり δ (mm)	$\ell / 1000$			主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長 (mm)	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	1 基盤整備	3 敷地造成工	2 表土保全工		表土掘削	法長 l $l < 5$ m	-200	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 施工面積1,000㎡につき1箇所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						法長 l $l \geq 5$ m	法長-4%			
11 公園編	1 基盤整備	3 敷地造成工	4 掘削工					第1 編2-3-2、2-4-2 掘削工に準ずる。		
11 公園編	1 基盤整備	3 敷地造成工	5 盛土工					第1 編2-3-3 盛土工に準ずる。		
11 公園編	1 基盤整備	3 敷地造成工	7 6 路体盛土工 路床盛土工					第1 編2-4-3 路体盛土および第1 編2-4-4 路床安定工に準ずる。		
11 公園編	1 基盤整備	3 敷地造成工	8 法面整形工					第1 編2-4-5 法面整形工（盛土部）に準ずる。		

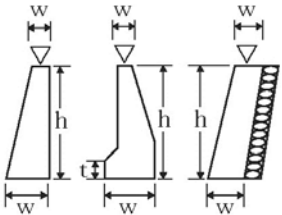
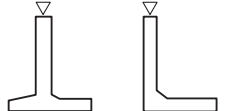
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11	公園編	1 基盤整備	3 敷地造成工	9	路床安定処理工	安定処理		第3 編2-7-2 路床安定処理工に準ずる。			
11	公園編	1 基盤整備	3 敷地造成工	10	置換工	置換		第3 編2-7-3 置換工に準ずる。			
11	公園編	1 基盤整備	3 敷地造成工	11	サンドマット工	サンドマット		第3 編2-7-6 サンドマット工に準ずる。			
11	公園編	1 基盤整備	3 敷地造成工	12	パーチカルドレーン工	パーチカルドレーン		第3 編2-7-7 パーチカルドレーン工に準ずる。			
11	公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	3 透水層工	1	開渠排水	幅 W	-50	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎。		
						高さ h	-30				
						延長 L	-100				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	3 透水層工	3	暗渠排水	幅 W_1 、 W_2	-50	施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎。			
						深 さ h	-30				
						延長	$L < 10m$				-20
							$L \geq 10m$ $L < 100m$				-50
	$L \geq 100m$	-100									
11 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	4 土層改良工	1	普通耕	幅 W	-100	耕耘タイプ 毎につき1ヶ所。 施工面積1,600 m ² につき1ヶ所、面積1,600 m ² 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所			
				2	深耕	深 さ h	-50				
				3	混層耕						
				4	心土破碎						
11 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	5 土性改良工	1	土性改良	幅 W	-100	施肥配合タイプ あるいは除塩毎につき1ヶ所。 施工面積1,600 m ² につき1ヶ所、面積1,600 m ² 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所			
				2	中和剤施用	深 さ h	-50				
				3	除塩						
				4	施肥						
11 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	6 表土盛土工	1	盛土(流用表土)	基 準 高 ∇	-50	施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。施工面積1,000m ² につき1箇所、面積1,000m ² 以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は各法肩で測定する。 又は、施工面積のほぼ中心と各法肩で測定する。			
				2	盛土(発生表土)	法長 l $l < 5m$	-100				
				3	盛土(採取表土)	法長 l $l \geq 5m$	法長-2%				
				4	盛土(購入表土)	幅 W_1 、 W_2	-100				
11 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	7 人工地盤工	2	押さえコンクリート	基 準 高 ∇	設計値以上	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						厚 さ t	設計値以上				
						幅	-25				

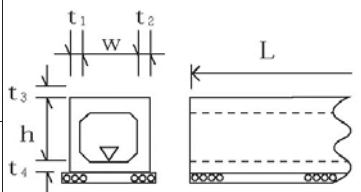
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
11 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	7 人工地盤工	4	人工地盤排水層	延 長 L	-100	施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
						深 さ h	-30					
11 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	7 人工地盤工	5	フィルター	延 長 L	-100	施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
				6	防根シート							
11 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	7 人工地盤工	8	立排水浸透柵	基 準 高 ∇	± 30	1ヶ所毎 ※は、現場打部分のある場合。				
						※厚さ t1~t4	-20					
						※幅 W ₁ 、W ₂	-30					
						※ 高 さ h	-30					
11 公園編	1 基盤整備	6 法面工	3 法面ネット工	1				第3編2-14-4-2 法枠工(プレキャスト法枠工)に準ずる。				
11 公園編	1 基盤整備	6 法面工	4 植生工	1	種子吹付	切土法長 ℓ	$\ell < 5\text{m}$	-200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
				2	客土吹付		$\ell \geq 5\text{m}$	法長の-4%				
				3	植生ネット	盛土法長 ℓ	$\ell < 5\text{m}$	-100				
				4	種子帯		$\ell \geq 5\text{m}$	法長の-2%				
				5	張芝	延長	L < 10m	-20				1 施工箇所毎
				6	筋芝		L \geq 10m	-50				
				7	市松芝		L < 100m	-100				
				8	人工張芝		L \geq 100m	-100				
				9	植生穴							

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	1 基盤整備	6 法面工	4 植生工	10	厚層基材吹付	法長 ℓ	$\ell < 5\text{m}$	-200	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
							$\ell \geq 5\text{m}$	法長の-4%			
						厚さ t	$t < 5\text{cm}$	-10	施工面積200㎡につき1箇所、面積200㎡以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 検査孔により測定。		
							$t \geq 5\text{cm}$	-20			
							但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上				
						延長	$L < 10\text{m}$	-20	1施工箇所毎		
							$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50			
$L \geq 100\text{m}$	-100										
11 公園編	1 基盤整備	6 法面工	5 法枠工	1 2	現場打法枠現場吹付法枠	法長 ℓ	$\ell < 10\text{m}$	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		曲線部は設計図書による
							$\ell \geq 10\text{m}$	-200			
						幅 w	-30	枠延長100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						高さ h	-30				
						吹付枠中心間隔 a	± 100				
						延長	$L < 10\text{m}$	-20	1施工箇所毎		
							$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50			
$L \geq 100\text{m}$	-100										
11 公園編	1 基盤整備	6 法面工	5 法枠工	3 4	プレキャスト法枠 金属製法枠	法長 ℓ	$\ell < 10\text{m}$	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
							$\ell \geq 10\text{m}$	-200			
						延長	$L < 10\text{m}$	-20	1施工箇所毎		
							$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50			
							$L \geq 100\text{m}$	-100			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	1 基盤整備	6 法面工	6 編柵工			高さ h	±30	1 工箇所 / 1 施工箇所		
						延長 L	-200			
11 公園編	1 基盤整備	6 法面工	7 かご工	1	じゃかご			第3 編2-3-27-1 じゃかごに準ずる。		
11 公園編	1 基盤整備	6 法面工	7 かご工	2	ふとんかご			第3 編2-3-27-2 ふとんかごに準ずる。		
11 公園編	1 基盤整備	7 軽量盛土工	2 軽量盛土工	1	軽量盛土			第1 編2-4-3 路体盛土工に準ずる。		
			2	コンクリート床版						
			3	基礎コンクリート						
			4	壁体						
			5	裏込砕石						

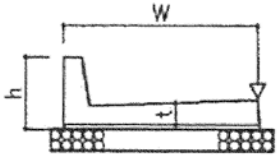
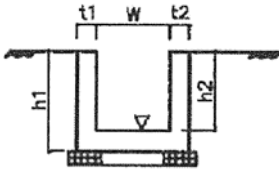
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	1 基盤整備	8 擁壁工	4 現場打擁壁工		現場打擁壁	基準高	▽	±50	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚 さ	t	-20			
						幅	W	-30			
						高さh	$h < 3\text{ m}$	-50			
						高さh	$h \geq 3\text{ m}$	-100			
						延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎。	※その他は寸法表示箇所	
$L \geq 10\text{ m}$ L < 100m	-50										
L ≥ 100m	-100										
11 公園編	1 基盤整備	8 擁壁工	5 プレキャスト擁壁工		プレキャスト擁壁工	基準高	▽	±50	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						延長	L	-100			
11 公園編	1 基盤整備	8 擁壁工	6 補強土壁工	1	補強土壁基礎			第3 編2-15-2 プレキャスト擁壁工に準ずる。 第1 編2-3-4 盛土補強工、第3 編2-5-15-3 補強土壁工に準ずる。			
				2	帯鋼補強土壁・アン カ補強土壁						
				3	ジオテキスタイル補強土壁						

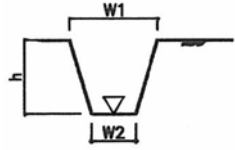
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	1 基盤整備	8 擁壁工	7 コンクリートブロック工	1	コンクリートブロック基礎			第3 編2-5-3-1～-4 コンクリートブロック工に準ずる。			
				2	コンクリートブロック積						
				3	間知ブロック張						
				4	平ブロック張						
				5	連節ブロック張						
				7	緑化ブロック積						
				8	ブロック植栽						
				9	天端コンクリート						
				10	小口止コンクリート						
				11 公園編	1 基盤整備						8 擁壁工
法長ℓ	ℓ < 3 m	-50									
	ℓ ≥ 3 m	-100									
厚さ(石積・張り) t ₁	-50										
厚さ(裏込め) t ₂	-50										
勾配 N	-0.5分										
延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎。								
	L ≥ 10m L < 100m	-50									
	L ≥ 100m	-100									

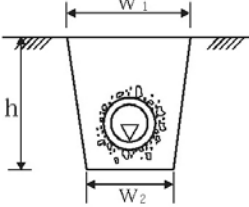
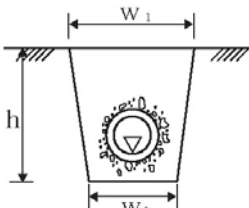
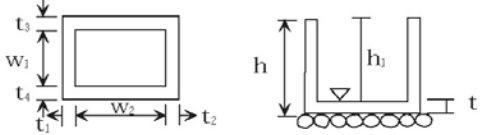
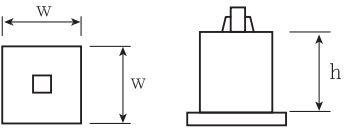
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	1 基盤整備	8 擁壁工	8 石積工	2	面積			第3 編2-5-3-5 石積（張）工に準ずる。		
				3	玉石積					
				4	野面小端積					
				5	修景割石積					
				6	修景割石積					
				7	こぶだし石積					
				8	修景切石積					
				9	切小端積					
				10	切石積					
				11	割小端積					
				12	間知石積					
				13	雑割石積					
				14	雑石積					
				15	割石積					
				16	雑割石張り					
				17	雑石張り					
				11 公園編	1 基盤整備	8 擁壁工	9 土留め工		1	土留め
高さ h	-50									
根入れ長	設計値以上									
延長 L	-200	1 施工箇所毎								
11 公園編	1 基盤整備	9 公園カルバート工	4 場所打函渠工		場所打カルバート工	基準高 ∇	± 30	両端、施工継手、及び図面の寸法表示		
						厚さ $t_1 \sim t_4$	-20			
						幅（内法） W	-30			
						高さ h	± 30			
				延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎。			
					L \geq 10m L < 100m	-50				
					L \geq 100m	-100				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	1 基盤整備	9 公園カルバート工	5 プレキャストカルバート工		プレキャストカルバート工	基準高 ∇	± 30	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は現場打部分のある場合			
						※ 幅 W	-50				
						※ 高さ h	-30				
						延長	L < 10m	-20			1 施工箇所毎。
L \geq 10m L < 100m	-50										
L \geq 100m	-100										
11 公園編	1 基盤整備	10 公園施設等撤去・移設工	3 移設工	1	鋼製遊具移設	高さ h	± 30	1 箇所 / 1 基。			
				2	木製遊具移設	基礎	高さ h	-30			基礎 1 基毎。
				3	複合遊具移設			幅 w			
				4	ベンチ移設						
				5	小工作物移設						
11 公園編	2 植栽	3 植栽工	10 樹木養生工	1	防風ネット	高さ h	± 30	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						延長 L	-100	1 施工箇所毎。			
11 公園編	2 植栽	3 植栽工	11 樹名板工	1	埋込型樹名板	高さ h	± 30	1 箇所 / 1 基			
						基礎	幅 W (D)	-30			基礎 1 基毎。
							高さ h	-30			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	2 植栽	3 植栽工	12 根囲い保護工	1	根囲い保護	高 さ h	±30	1箇所／1基			
						基礎	幅 W (D)	-30			基礎1基毎。
							高 さ h	-30			
11 公園編	3 施設整備	3 給水設備工	6 散水施設工	2	ミスト	延 長 L	-200	1ヶ所／1施工箇所			
11 公園編	3 施設整備	3 給水設備工	6 散水施設工	3	ドリップパイプ	延 長 L	-200	1施工箇所毎。			
11 公園編	3 施設整備	3 給水設備工	6 散水施設工	6	散水栓高さ調整	基 準 高 ▽	設計値	1ヶ所／1施工箇所			
11 公園編	3 施設整備	3 給水設備工	10 給水管路工	1 3	給水管埋設 埋設シート	深 さ h	-30	施工延長40m（側点箇所25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						延 長 L	-100				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要							
11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	6 側溝工	1	L型側溝			第3編2-3-30 集水樹工に準ずる。									
				3	管(函)渠型側溝												
				4	プレキャストU型側溝												
				6	プレキャスト皿型側溝												
				7	コルゲートフリューム												
				8	自由勾配側溝												
				9	特殊円形側溝												
				11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	6 側溝工				2	現場打L型側溝	基準高 ∇	± 30	施工延長40m (側点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。		
													厚 さ t	-20			
幅 W	-30																
高 さ h	-30																
延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎。														
	L \geq 10m L < 100m	-50															
	L \geq 100m	-100															
11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	6 側溝工					5	現場打側溝	基準高 ∇			± 30	施工延長40m (側点箇所25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
										厚さ t_1 、 t_2			-20				
				幅 W	-30												
				高さ h_1 、 h_2	-30												
				延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎。										
					L \geq 10m L < 100m	-50											
					L \geq 100m	-100											

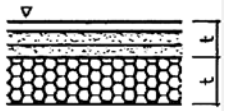
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	6 側溝工	10	公園素掘側溝	基準高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは、1施工箇所につき2ヶ所。		
						厚さ t_1 、 t_2	-20			
						幅 W	-30			
						高さ h_1 、 h_2	-30			
						延長 L	-200			
11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	6 側溝工	12	側溝高さ調整	基準高 ∇	設計値	1ヶ所／1 施工箇所		
11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	7 管渠工	1	公園管渠			第3 編2-3-29-1 側溝工（管渠）、 第3 編2-3-29-3 暗渠工に準ずる。		
				2	コルゲートパイプ					
11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	8 集水樹・マンホール工	1	街渠樹			第3 編2-3-30 集水樹工に準ずる。		
				2	集水樹					
				3	浸透樹					
				4	プレキャスト街渠樹					
				5	プレキャスト集水樹					
				6	塩化ビニル製樹					
				7	マンホール					
				8	プレキャストマンホール					
				9	公園マンホール					
				10	浸透マンホール					

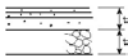
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	9 地下排水工	1	有孔ヒューム管	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
				2	塩化ビニール管					
				3	透水コンクリート管					
				4	化学繊維管	延長	L < 10m	-20		
		L \geq 10m L < 100m	-50							
		L \geq 100m	-100							
11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	9 地下排水工	5	地下排水	基 準 高 ∇	± 30	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
					幅 W_1 、 W_2	-50				
					深 さ h	-30				
					延長	L < 10m	-20	1 施工箇所毎。		
		L \geq 10m L < 100m	-50							
		L \geq 100m	-100							
11 公園編	3 施設整備	4 雨水排水設備工	10 公園水路工		場所打水路 プレキャスト水路			第3 編2-3-29-2 現場打水路工に準ずる。		
11 公園編	3 施設整備	6 電気設備工	3 照明設備工	1	ハンドホール	基 準 高 ∇	± 30	1 箇所／施工延長40m		
					幅 w_1 、 w_2	-30				
					高 さ h 、 h_1	-30				
					厚 さ $t \sim t_4$	-20				
11 公園編	3 施設整備	6 電気設備工	3 照明設備工	2	引込柱	高 さ h	± 30	1 箇所／1 基。		
				3	分電盤	基 礎	幅 W	-30		
						高 さ h	-30			
			4	照明灯基礎	基 礎	幅 W	-30	1 箇所／1 施工箇所。		
			高 さ h	-30						

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	3 施設整備	6 電気設備工	4 放送設備工	2 3	引込柱 分電盤	高 さ h	±30	1箇所／1基。			
						基礎	幅 W	-30			1箇所／1施工箇所。
							高 さ h	-30			
				5	スチール支柱基礎	基礎	幅 W	-30			1箇所／1施工箇所。
							高 さ h	-30			
11 公園編	3 施設整備	6 電気設備工	5 監視カメラ設置工	3	監視カメラ柱基礎	幅 W	-30	基礎 1基毎			
						高 さ	-30				
						根 入 れ 長	設計値以上				
						基礎					
11 公園編	3 施設整備	6 電気設備工	8 電線管路工	1 2 3	電線管 電線 埋設シート	深 さ h	-30	1施工箇所毎。			
						延長	L < 10m				-20
							L ≥ 10m L < 100m				-50
							L ≥ 100m				-100

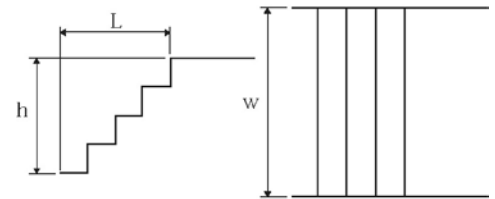
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							①個々の測定値		②測定値の平均 \bar{x}_n				
							中規模	小規模					
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	5 アスファルト舗装工	1	下層路盤工	基準高▽		±30	$\bar{x}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。 *工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起こし及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。		
						厚さ t			\bar{x}_3	-6			
								-45	$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-10			
									$\bar{x}_7 \sim$	-15			
幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20									
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	5 アスファルト舗装工	2	上層路盤工	厚さ t	-25	-30	\bar{x}_3	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。		
									$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-6			
									$\bar{x}_7 \sim$	-8			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20			
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	5 アスファルト舗装工	3	基層工	厚さ t	-9	-12	\bar{x}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。		
									$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-2			
									$\bar{x}_7 \sim$	-3			
						幅		-25	$\bar{x}_3 \sim$	-10			
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	5 アスファルト舗装工	4	表層工	厚さ t		-7	\bar{x}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。 平坦性について ・カーブの多い山間地、および測定線の全線→一測線が100m未満の場合は省略することができる。 ・測定方法、測定箇所については、舗装試験法便覧による。		
									$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-2			
									$\bar{x}_7 \sim$	-2			
						幅		-25	$\bar{x}_3 \sim$	-10			
平坦性	直読式標準偏差(σ) 1.75mm以内 3mプロフィールメータ標準偏差(σ) 2.4mm以内												

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							①個々の測定値		②測定値の平均 \bar{x}_n				
							中規模	小規模					
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	6 排水性舗装工	1	下層路盤工	基準高▽		±30	$\bar{x}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。 *工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起こし及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。		
						厚さ t			\bar{x}_3	-6			
								-45	$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-10			
									$\bar{x}_7 \sim$	-15			
幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20									
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	6 排水性舗装工	2	上層路盤工	厚さ t	-25	-30	\bar{x}_3	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。		
									$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-6			
									$\bar{x}_7 \sim$	-8			
						幅		-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20			
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	6 排水性舗装工	3	基層工	厚さ t	-9	-12	\bar{x}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。		
									$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-2			
									$\bar{x}_7 \sim$	-3			
						幅		-25	$\bar{x}_3 \sim$	-10			
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	6 排水性舗装工	4	表層工	厚さ t		-7	\bar{x}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。 平坦性について ・カーブの多い山間地、および測定線の全線→一測線が100m未満の場合は省略することができる。 ・測定方法、測定箇所については、舗装試験法便覧による。		
									$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-2			
									$\bar{x}_7 \sim$	-2			
						幅		-25	$\bar{x}_3 \sim$	-10			
平坦性	直読式標準偏差(σ) 1.75mm以内 3mプロフィールメータ標準偏差(σ) 2.4mm以内												

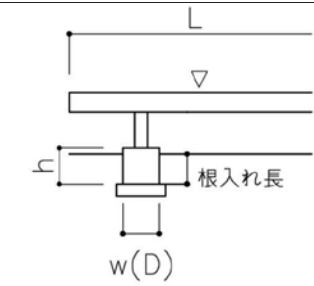
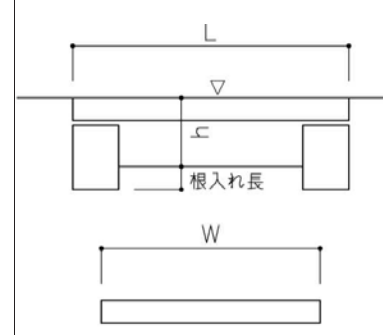
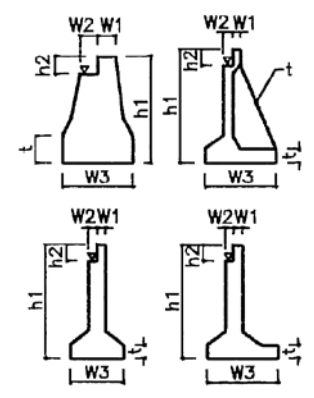
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							①個々の測定値		②測定値の平均 \bar{x}			
							中規模	小規模				
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	7 透水性舗装工	2	路盤	基準高▽	±50		—	基準高は延長40 m 毎又は、施工面積500 m ² 毎に1ヶ所の割で測定。 厚さは延長200m 毎又は、施工面積500 m ² 毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 幅は、延長80 m 毎又は、施工面積500 m ² 毎に1ヶ所の割に測定。 なお、延長、施工面積が上述の規模以下の場合は、1 施工箇所につき2ヶ所を測定。		
						厚さ t	t < 15cm	-30	-10			
							t ≥ 15cm	-45	-15			
幅	-100		—									
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	7 透水性舗装工	3	表層	厚さ t	-7	-9	-3	幅は、延長80 m 毎又は、施工面積500 m ² 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、延長200m 毎又は、施工面積500 m ² 毎に1ヶ所の割でコアーを採取して測定。 なお、延長、施工面積が上述の規模以下の場合は、1 施工箇所につき2ヶ所を測定。		
						幅	-25		—			

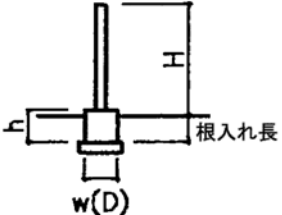
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要	
							①個々の測定値		②測定値の平均 \bar{x}					
							中規模	小規模						
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	8 9 10 11 12 13		アスファルト系舗装工 コンクリート系舗装工 土系舗装工 レンガ・タイル系舗装工 木系舗装工 樹脂系舗装工	路 盤 工	基準高 ▽	±30		\bar{x}_3	±15	基準高は延長40m毎に1箇所の割合で測定。厚さは、2,000㎡までは3個とし、2000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個を掘り起こして測定。 幅は、延長40m毎に1箇所測定。		
							厚さ	t < 150	-30	\bar{x}_3	-6			
								t ≥ 150	-45	$\bar{x}_4 \sim \bar{x}$	-10			
							幅	-50		\bar{x}_3	-20			
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	14	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	砂利舗装 砕石舗装 平石張り舗装 ごろた石張舗装 玉石張舗装 野面平石張舗装 修景割板石張舗装 修景切板石張舗装 割板石張舗装 小舗石張舗装 切板石張舗装 延段	表 層 工	厚さ	-10				幅は、延長40m毎に1箇所の割合で測定。厚さは、2,000㎡までは3個とし、2000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個を掘り起こしもしくはコアーを採取し、測定。		
							幅	-25						

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	16 園路縁石工		園路縁石	延 長 L	-100	1箇所/1施工箇所		
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	17 区画線工		区画線	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		
						幅 w	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	18 階段工	1	コンクリート階段 コンクリートブロック階段 野面石階段 割石階段 切石階段 丸太階段 擬木階段	幅 W	-30	1回/1施行箇所		
				2		高 さ h	-30			
				3		長 さ L	-30			
				4		段 数	±0段			
				5						
				6						
				7						

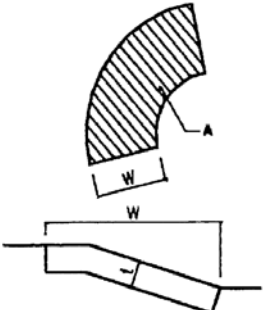
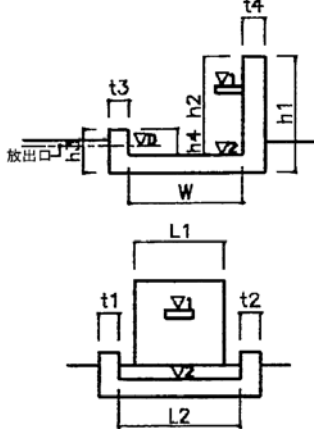
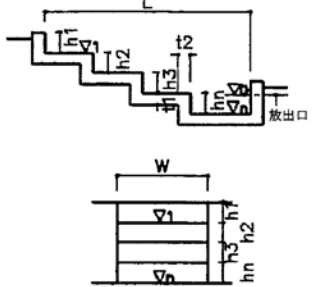


編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	19 公園橋工	1	公園橋橋台	基 準 高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び 両端部、その他は図面の寸法表示 ヶ所で測定			
				2	石橋橋台	厚 さ t					
				3	木橋橋台	天 端 幅 W 1 (橋軸方向)					
						天 端 幅 W 2 (橋軸方向)					
						敷 幅 W 3 (橋軸方向)					
						高さ h 1					
						胸壁の高さ h 2					
						天端長 l 1					
						敷長 l 2					
						胸壁間距離 l					
				支 点 長 及 び 中心線の変化							
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	19 公園橋工	1	公園橋設置	基 準 高 ∇	± 30	1ヶ所 / 1 施工箇所			
				2	石橋設置	高 さ h	± 30				
				3	木橋設置	幅 W	-30				
				4	ハッ橋	延 長 L	-30				
				5	浮き栈橋	根 入 れ 長	設計値以上				
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	20 デッキ工	1	デッキ基礎	基 準 高 ∇	± 30	1 基毎			
				2	デッキ設置	基礎	幅 W				-30
							高 さ				-30
							根 入 れ 長				設計値以上

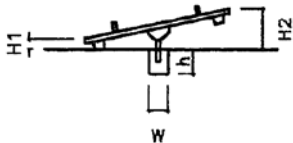
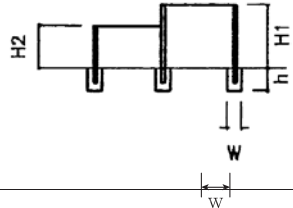
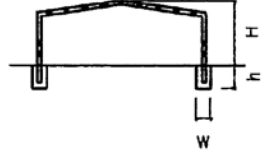
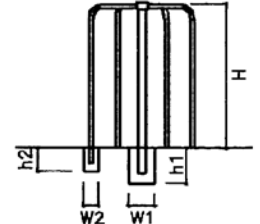


編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	3 施設整備	7 園路広場整備工	23 植樹ブロック工			基 準 高 ∇	± 30	第3 編2-3-5 縁石工（縁石・アスカーブ）に準ずる。			
						基礎	幅 W				-30
							高 さ h				-30
							根 入 れ 長				設計値以上
延 長 L	-30										
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	5 袖垣・垣根工	1	袖垣・垣根工	高 さ h	± 30	施行延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						延 長 L	-100				1施工箇所毎。
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	7 トレリス工	1	トレリス工	高 さ h	± 30	1箇所／1基			
						基礎	幅 W	-30			基礎1基毎。
							高 さ h	-30			
						延 長 L	-100	1箇所／1施工箇所			
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	8 モニュメント工	1 2	モニュメント 記念碑	基 準 高 ∇	設計値以上	1箇所／1基			
						基礎	幅 W	-30			基礎1基毎。
							高 さ h	-30			
						延 長 L	-200	1箇所／1施工箇所			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	9 小規模水景施設工	1	流れ	基準高 ▽0、▽1	±30	1ヶ所／1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。		
						厚さ t 1、 t 2	-20			
						幅 W	-30			
						高さ h 1、 h 2	-30			
						延長 L	-200			
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	9 小規模水景施設工	2	滝	基準高 ▽	±30	1ヶ所／1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。		
						厚さ t	-20			
						幅 W	-30			
						高さ h	-30			
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	9 小規模水景施設工	3	池	基準高 ▽0、▽1	±30	1ヶ所／1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。		
						厚さ t 1、 t 4	-20			
						幅 W	-30			
						高さ h 1、 h 2	-30			

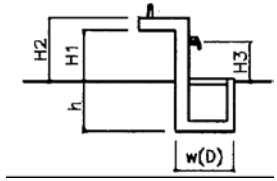
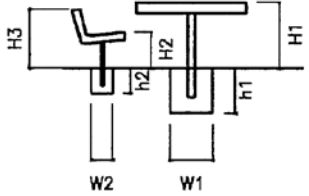
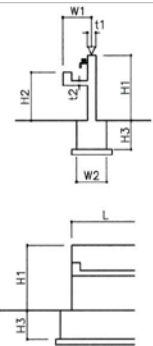
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	9 小規模水景施設工	4	州浜	厚 さ t	-20	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。		
						幅 W	-30			
						面 積 A	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	9 小規模水景施設工	5	壁泉	基 準 高 ▽0、▽1	±30	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。		
						厚 さ t 1、 t 4	-20			
						幅 W	-30			
						高 さ h 1、 h 4	-30			
						長 さ L 1、 L 2	-30			
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	9 小規模水景施設工	6	カスケード*	基 準 高 ▽0~▽n	±30	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。		
						厚 さ t 1、 t 2	-20			
						幅 W	-30			
						高 さ h 1n~ h 2n	-30			
						長 さ L	-30			
						段 数	0段			

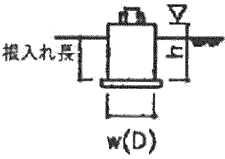
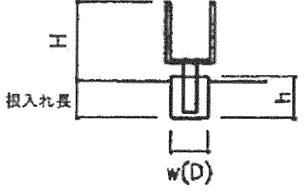
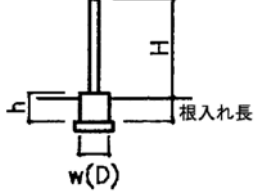
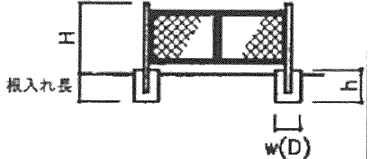
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	3 施設整備	8 修景施設整備工	9 小規模水景施設工	7	カナル	基準高 ▽0、▽1	±30	1ヶ所／1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			
						厚さ t 1、 t 2	-20				
						幅 W	-30				
						高さ h 1、 h 2					
						延長 L	-200				
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	1	ブランコ	高さ h	±30	1箇所／1基			
						基礎	幅 W				-30
							高さ h				-30
						設置高さ h	±30				
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	2	ジャンゲルジム	設置高さ h	±30	1箇所／1基			
						基礎	幅 W				-30
							高さ h				-30
							根入れ長				設計値以上
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	3	滑台	設置高さ H1、H2	±30	1箇所／1基			
						基礎	幅 W1、W2				-30
							高さ h 1、h 2				-30
							根入れ長				設計値以上

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	4	シーソー	設置高さ H1、H2	±30	1ヶ所/1基			
						基礎	幅 W	-30			基礎1基毎
							高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	5	鉄棒	設置高さ H1、H2	±30	1ヶ所/1基			
						基礎	幅 W	-30			基礎1基毎
							高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	6	ラダー	設置高さ H1、H2	±30	1ヶ所/1基			
						基礎	幅 W	-30			基礎1基毎
							高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	7	はん登棒	設置高さ h	±30	1ヶ所/1基			
						基礎	幅 W1、W2	-30			基礎1基毎
							高さ h1、h2	-30			
							根入れ長	設計値以上			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	8	スプリング遊具	設置高さ H1、H2	±30	1ヶ所/1基			
						基礎	幅 W	-30			基礎1基毎
							高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	9	複合遊具	設置高さ H1、H2	±30	1ヶ所/1基			
						基礎	幅 W	-30			基礎1基毎
							高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	10	アスレチック遊具	設置高さ H1、H2	±30	1ヶ所/1基			
						基礎	幅 W	-30			基礎1基毎
							高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	3 遊具組立設置工	11	健康遊具施設	設置高さ H1、H2	±30	1ヶ所/1基			
						基礎	幅 W	-30			基礎1基毎 ※監督員との協議による。
							高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上			

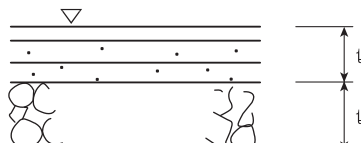
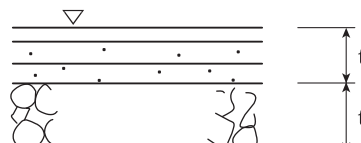
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	4	1	砂場	基準高 ∇	± 30	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			
						厚さ $t_1 \sim t_4$	-20				
						幅 W_1 、 W_2	-30				
						高さ h_1 、 h_2	-30				
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	4	2	現場打遊具	厚さ t_1	-20	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			
						幅 W_1 、 W_2	-30				
						高さ $h_1 \sim h_4$	-30				
						長さ L	-30				
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備工	4	3	徒渉池	基準高 ∇_0 、 ∇_1	± 30	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			
						厚さ $t_1 \sim t_4$	-20				
						幅 W_1 、 W_2	-30				
						高さ h_1 、 h_2	-30				
11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備工	3	1	時計台	設置高さ h	設計値以上	1ヶ所/1基 基礎1基毎			
						基礎	幅 $W(D)$				-30
							高さ h				-30
							根入れ長				設計値以上

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備工	4 水飲み場工	1	水飲み場	設置高さ H1~H3	±30	1ヶ所/1基			
						基礎	幅 W (D)	-30			基礎 1 基毎
							高さ h	-30			
							根入れ長	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備工	6 ベンチ・テーブル工	1	ベンチ	設置高さ H1~H2	±30	1ヶ所/1基			
				2	縁台	基礎	幅 W1、W2	-30			基礎 1 基毎
				3	テーブル		高さ h1、h2	-30			
				4	スツール		根入れ長	設計値以上			
				5	野外卓						
11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備工	8 炊事場工	1	炊事場	基準高 ▽	±30	1ヶ所/1基			
						厚さ t1、t2	-20				
						幅 W1、W2	-30				
						高さ h1、h2	-30				
						長さ L	-30				

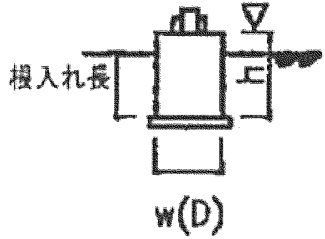
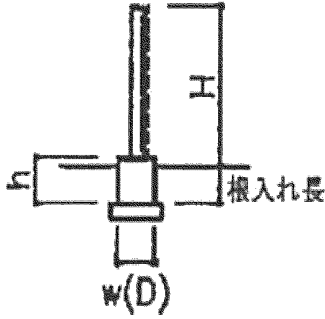
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	3 施設整備	11 管理施設整備工	3 リサイクル施設工	1 2	リサイクル施設工(基礎) ごみ焼却炉施設工(基礎)	基 準 高 ∇	± 30	1 箇所 / 1 基			
						高 さ h	-30				
						幅 W	-30				
11 公園編	3 施設整備	11 管理施設整備工	5 ごみ施設工	1	くず箱 吸殻入れ	高 さ h	± 30	1 箇所 / 1 基			
						基礎	幅 W	-30			基礎 1 基毎。
							高 さ h	-30			
11 公園編	3 施設整備	11 管理施設整備工	6 井戸工	1	手押しポンプ	設 置 高 さ h	設計値以上	1 ケ所 / 1 基			
						基礎	幅 W	-30			基礎 1 基毎。
							高 さ h	-30			
							根 入 れ 長	設計値以上			
11 公園編	3 施設整備	11 管理施設整備工	7 門扉工	2	門扉工	高 さ h	± 30	1 箇所 / 1 基			
						基礎	幅 W	-30			基礎 1 基毎。
							高 さ h	-30			

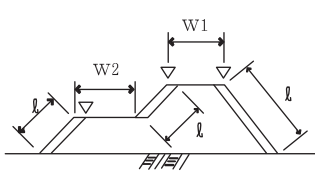
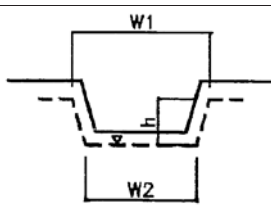
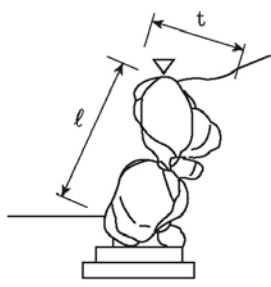
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値				
							中規模以上	小規模以下	の平均 \bar{x}_n				
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 グラウンド・コート用舗装工	1	下層路盤工	基準高	±30		$\bar{x}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起こし及びコアー以外の方法→水糸による管理をすることができる。	
						厚 さ	-45	\bar{x}_3	-6				
								$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-10				
						幅	-50	$\bar{x}_7 \sim$	-15				
$\bar{x}_3 \sim$	-20												
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 グラウンド・コート用舗装工	2 3	上層路盤工 中層	厚 さ	-25	-30	\bar{x}_3	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起こして測定。		
									$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-6			
									$\bar{x}_7 \sim$	-8			
						幅	-50	$\bar{x}_3 \sim$	-20				
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 グラウンド・コート用舗装工	4	基層工	厚 さ	-9	-12	\bar{x}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。		
									$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-2			
									$\bar{x}_7 \sim$	-3			
						幅	-25	$\bar{x}_3 \sim$	-10				

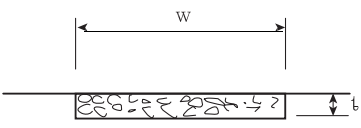
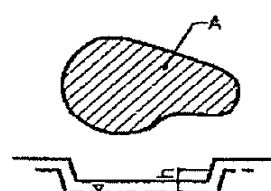
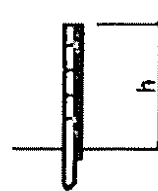
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要		
							個々の測定値		測定値 の平均 \bar{x}_n					
							中規模以上	小規模以下						
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 グラウンド・コート用舗装工	5 6	クレ-舗装 アンツーカー舗装	路 盤 工	基準高 ▽	±50	$\bar{x}_3 \sim$	±15	40m毎に1箇所の割合で測定。厚さは、2,000㎡までは3個とし、とに1個を掘り起こして測定。幅は、延長40m毎に1箇所測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割合で測定。2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個とし掘起し測定。			
							厚さ	$t < 15\text{cm}$	\bar{x}_3	-6				
								$t \geq 15\text{cm}$	-30	$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$				-10
									-45	$\bar{x}_7 \sim$				-15
						幅	-100	$\bar{x}_3 \sim$	-25					
						表層工	厚さ	-10						
							幅	-25						
平坦性 テニスコート 陸上競技場 野球場		±5mm以内 ±10mm以内 ±20mm以内												
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 グラウンド・コート用舗装工	7	天然芝舗装	基準高	±50	$\bar{x}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。				
						厚さ	$t < 15\text{cm}$	\bar{x}_3	-6					
							$t \geq 15\text{cm}$	-30	$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$				-10	
								-45	$\bar{x}_7 \sim$				-15	
						幅	-100	$\bar{x}_3 \sim$	-25					
表層工	厚さ	-10												
	幅	-25												

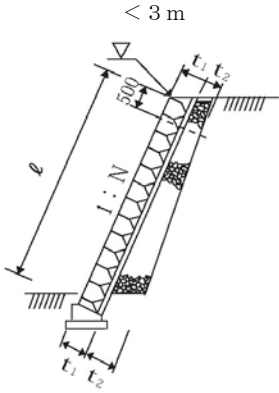
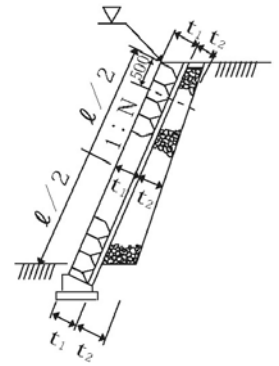
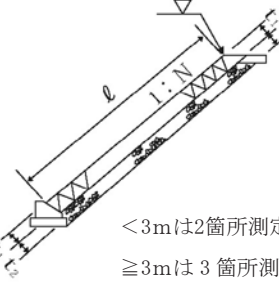
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値		測定値 の平均 \bar{x}_n			
							中規模以上	小規模以下				
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 グラウンド・コート用舗装工	8	人工芝舗装	基準高	± 50	$\bar{x}_3 \sim$	± 15	基準高、幅は延長40mごとに、1個所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。		
						厚 さ	$t < 15\text{cm}$	\bar{x}_3	-6			
							$t \geq 15\text{cm}$	$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-10			
								$\bar{x}_7 \sim$	-15			
						幅	-100	$\bar{x}_3 \sim$	-25			
表層工	厚さ	-10										
	幅	-25										
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 グラウンド・コート用舗装工	9 10	全天候型舗装 (樹脂系) 全天候型舗装 (アスファルト系)	基準高	± 50	$\bar{x}_3 \sim$	± 15	基準高、幅は延長40mごとに、1個所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。		
						厚 さ	$t < 15\text{cm}$	\bar{x}_3	-6			
							$t \geq 15\text{cm}$	$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-10			
								$\bar{x}_7 \sim$	-15			
						幅	-100	$\bar{x}_3 \sim$	-25			
						表層工	厚さ	-10				
							幅	-25				
平坦性 テニスコート 陸上競技場	$\pm 5\text{mm}$ 以内 $\pm 10\text{mm}$ 以内											
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 グラウンド・コート用舗装工	11 12	グラウンド・コート砂舗装 グラウンド・コートダスト舗装	基準高	± 50	$\bar{x}_3 \sim$	± 15	基準高、幅は延長40mごとに、1個所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とす。		
						厚 さ	$t < 15\text{cm}$	\bar{x}_3	-6			
							$t \geq 15\text{cm}$	$\bar{x}_4 \sim \bar{x}_6$	-10			
								$\bar{x}_7 \sim$	-15			
						幅	-100	$\bar{x}_3 \sim$	-25			
表層工	厚さ	-10										
	幅	-25										

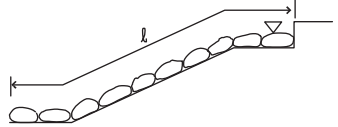
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	5 グラウンド・コート縁石工	1 2 3 4	コンクリート縁石 舗装止め 見切材（仕切材） 内圏縁石	延 長 L	-100	1箇所／1施工箇所		
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	4 スタンド整備工	3 スタンド擁壁工		スタンド擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						控 壁 厚 さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h $h < 3$ m	-50			
						高さ h $h \geq 3$ m	-100			
						延 長 L	-100	1施工箇所毎		
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	4 スタンド整備工	4 ベンチ工		ベンチ工	延 長 L	-100	施行延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施行箇所につき2箇所。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	5 グラウンド・コート施設整備工	4 3 スコアボード工	1 2	ダッグアウト基礎 スコアボード基礎	基 準 高 ∇	± 30	1 基 / 1 箇所			
						基礎	幅 w				-30
							高 さ h				-30
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	5 グラウンド・コート施設整備工	5 バックネット工		バックネット工	高 さ h	± 30	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1 箇所 / 1 施工箇所			
						基礎	幅 w				-30
							高 さ h				-30
						延 長 L	-100				
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	5 グラウンド・コート施設整備工	6 競技施設工	1 2 3 4 5 6 7	ファーストボール ポスト ゴールポスト 支柱台 スポーツサークル 跳躍箱 踏切台	高 さ h	± 30	1 箇所 / 1 基 基礎 1 基毎。			
						基礎	幅 w				-30
							高 さ h				-30

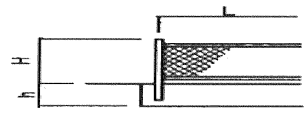
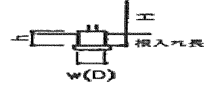
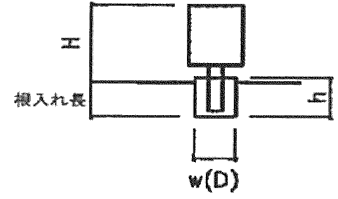
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	3 自然育成盛土工		自然育成盛土工	基 準 高 ∇	-50	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 施工面積1,000㎡につき1箇所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は各法肩で測定する。 又は、施工面積のほぼ中心と各法肩で測定する。		
						法長 ℓ $\ell < 5m$	-100			
						法長 ℓ $\ell \geq 5m$	法長-2%			
						幅 w_1, w_2	-100			
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	4 自然水路工	1	遮水・止水シート	基 準 高 ∇	-50	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						高 さ h	-30			
						幅 w_1, w_2	-100			
						延 さ h	-200			
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	4 自然水路工	2	たたき粘土					
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	4 自然水路工	3 4	ごろた石積 崩れ積	基 準 高 ∇	± 100	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						法 長 ℓ	$\ell / 2 < 3m$ -50 $\ell / 2 \geq 3m$ -100			
						幅 w	-50			
						厚 さ t	-50			
						延 長 L	-100			

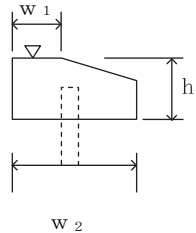
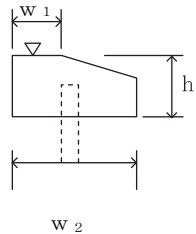
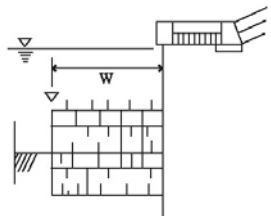
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	4 自然水路工	5	砂・礫敷	厚 さ t t < 15cm t ≥ 15cm	-25 -50	幅は、施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは施工延長200mにつき1箇所、200m以下は2箇所、中央で測定。 又は施工面積1,000㎡に1回。		
						幅	-100			
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	5 水田工	1	遮水・止水シート					
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	10		しがらみ柵工	高 さ h	±30	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
						延 長 L	-100			

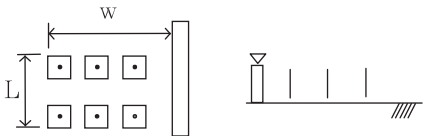
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	11 自然育成型護岸工	3 4	階段ブロック積み 魚巣ブロック積み	基準高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。法長が変化する場合は変化点間の延長も測定する。 厚さは、法長3m未満の場合は、下端部及び上端部（天端より50cm下がり）の2箇所、3m以上の場合は、法長の中間部を加えた3箇所を測定する。				
						コンクリート厚さ t_1	-50					
						裏込工 t_2	-50					
						法長	$\ell < 3m$				-50	
							$\ell \geq 3m$				-100	
						延長	$L < 10m$				-20	1施工箇所毎
							$L \geq 10m$ $L < 100m$				-50	
$L \geq 100m$	-100											
勾配 N	-0.5分											
								  $< 3m$ は2箇所測定 $\geq 3m$ は3箇所測定				

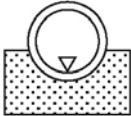
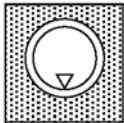
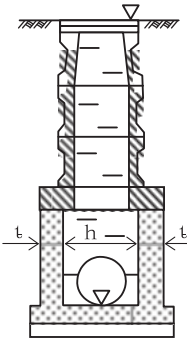
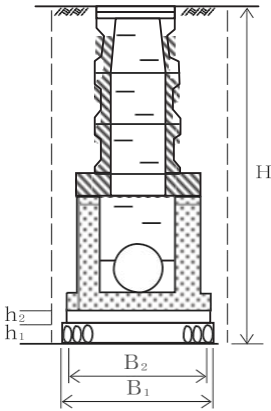
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	11 自然育成型護岸工	5 6	巨石張り 巨石積み	基 準 高 ∇	± 500	施行延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施行箇所につき2箇所。			
						法 長 \varnothing	-200				
						延長	$L < 10\text{m}$	-20			1施工箇所毎
							$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$	-50			
$L \geq 100\text{m}$	-100										

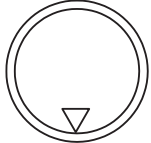
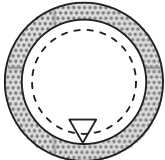
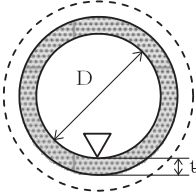
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	11 自然育成成型護岸工	7	雑割石張り	基準高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。法長が変化する場合は変化点間の延長も測定する。 厚さは、法長3m未満の場合は、下端部及び上端部（天端より50cm下がり）の2箇所、3m以上の場合は、法長の中間部を加えた3箇所を測定する。				
						コンクリート厚さ t_1	-50					
						裏込工 t_2	-50					
						法長	$< 3\text{m}$				-50	
							$\geq 3\text{m}$				-100	
						延長	$L < 10\text{m}$				-20	1施工箇所毎
							$L \geq 10\text{m}$ $L < 100\text{m}$				-50	
$L \geq 100\text{m}$	-100											
勾配 N	-0.5分											
								<p> $< 3\text{m}$は2箇所測定 $\geq 3\text{m}$は3箇所測定 </p>				

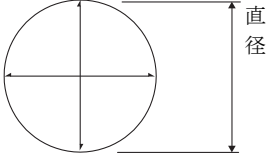
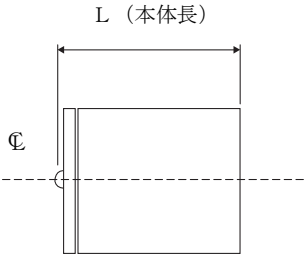
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	11 自然育成成型護岸工	8	かごマット	基準高 ∇	± 50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						法 長 \varnothing	-100				
						厚 さ t	$-0.2 t$				
						勾 配 N	$-0.5分$				
						延長	$L < 10m$	-20			1 施工箇所毎
$L \geq 10m$ $L < 100m$	-50										
$L \geq 100m$	-100										
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	11 自然育成成型護岸工	9 10 11 12	種子吹付 張芝 筋芝 市松芝	切土法長 \varnothing	$\varnothing < 5m$	-200	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
							$\varnothing \geq 5m$	法長の -4%			
						盛土法長 \varnothing	$\varnothing < 5m$	-100			
							$\varnothing \geq 5m$	法長の -2%			
						延長	$L < 10m$	-20	1 施工箇所毎		
							$L \geq 10m$ $L < 100m$	-50			
							$L \geq 100m$	-100			
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	12 保護柵工			基礎	高 さ h	± 30	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
							幅 w	-30			
						高 さ h	-30				
						延 長 L	-100	1 施工箇所毎。			
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	13 解説板工			基礎	高 さ h	± 30	1 箇所 / 1 基		
							高 さ h	-30			
						幅 w	-30	基礎 1 基毎			

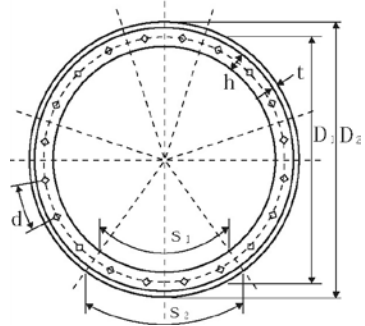
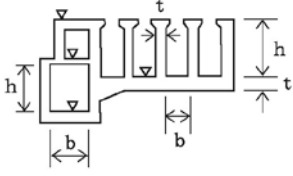
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	16 自然育成成型護岸基礎工	1	法留基礎	基準高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						幅	w_1 w_2				-20 -30
						高さ	h				-30
						延長	$L < 10m$				-20
							$L \geq 10m$ $L < 100m$	-50			
$L \geq 100m$	-100										
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	16 自然育成成型護岸基礎工	2	プレキャスト法留基礎	基準高 ∇	± 30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						幅	w_1 w_2				-20 -30
						高さ	h				-30
						延長	$L < 10m$				-20
							$L \geq 10m$ $L < 100m$	-50			
$L \geq 100m$	-100										
11 公園編	5 自然育成	3 自然育成施設工	17 沈床工	1 2 3 4	木工沈床 改良沈床 粗朶沈床 粗朶単床	基準高 ∇	± 150	一組毎。			
						幅	w				± 300
						延長	L				-150

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
11 公園緑地編	5 自然育成	3 自然育成施設工	18 捨石工	8 9	捨石 表面均し	基 準 高 ∇	± 100	施工延長40m（側点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						幅 w	-100			
						延 長 L	-200	1施工箇所毎		
11 公園緑地編	5 自然育成	3 自然育成施設工	22 杭出し水制工	1	杭出し水制	基 準 高 ∇	± 50	一組毎。		
						幅 w	± 300			
						方 向	$\pm 7^\circ$			
						延 長 L	-150	1 施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
12 下水道編	1 下水道工事	3 開削工			管布設 (自然流下管)	基 準 高 ∇	± 30	基準高、中心線の変位（水平）は、マンホール間の中央部及び両端部を測定する。		
						中心線の変位 (水 平)	± 50			
						勾 配	$\pm 20\%$			
						延 長 ℓ	$-\ell / 500$ かつ -200	延長はマンホール間を測定する。		
						総 延 長 L	-200			
12 下水道編	1 下水道工事	5 立坑・人孔築造工			立坑・人孔築造工	基 準 高 ∇	± 30	1 施工箇所ごとに測定する。		
						幅 b (内法)	-30			
						壁 厚 t	-20			
						人 孔 天 端 高	± 30			
12 下水道編	1 下水道工事	5 立坑・人孔築造工			立坑・人孔築造基礎工	基 準 高 ∇	± 30	1 施工箇所ごとに測定する。		
						床 堀 深 H	± 30			
						基礎工幅 B_1	-50			
						基礎工幅 h_1	-30			
						コンクリート工幅 B_2	-30			
						コンクリート工幅 h_2	-10			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
12 下水道編	1 下水道工事	6 推進工			推進工	基準高 ∇	± 50	基準高、中心線の変位（水平）は、推進管1本ごとに1箇所測定する。		
						中心線の変位（水平）	± 50			
						勾配	$\pm 20\%$			
						延長 ℓ	$-\ell / 500$ かつ -200	延長はマンホール間を測定する。		
						総延長 L	-200			
12 下水道編	1 下水道工事	7 シールド工	3 一次覆工		掘進工	基準高 ∇	± 50	基準高、中心線の変位（水平）は、セグメント5リングにつき1箇所測定する。		
						中心線の変位（水平）	± 100			
						延長 ℓ	$-\ell / 500$ かつ -200	延長はマンホール間を測定する。		
						総延長 L	-200			
12 下水道編	1 下水道工事	7 シールド工	5 二次覆工		二次覆工	基準高 ∇	± 50	基準高、中心線の変位（水平）は、施工延長40mにつき1箇所測定する。		
						中心線の変位（水平）	± 50			
						二次覆工厚 t	-20	二次覆工厚は、1打設につき端面で上下左右4点を測定する。		
						仕上がり内径 D	± 20	仕上がり内径は、施工延長40mにつき1箇所測定する。		
						勾配	$\pm 20\%$			
						延長 ℓ	$-\ell / 500$ かつ -200	延長はマンホール間を測定する。		
						総延長 L	-200			

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要					
12	下水道編	1	下水道工事	7	シールド工	シールド製作	真円度 (直径)	$D \leq 2m$	-0 +8	※10mを超える径については、トンネル標準示方書(シールド工法編)・同解説による。					
								$2m < D \leq 4m$	-0 +10						
								$4m < D \leq 6m$	-0 +12						
								$6m < D \leq 8m$	-0 +16						
								$8m < D \leq 10m$	-0 +20						
								本体軸方向の曲がり(本体長)	$L \leq 3m$				±5.0	※本体長7mを超えるものについては、トンネル標準示方書(シールド工法編)・同解説による。	
									$3m < L \leq 4m$				±6.0		
									$4m < L \leq 5m$				±7.5		
									$5m < L \leq 6m$				±9.0		
									$6m < L \leq 7m$				±12.0		
							本体長	$L \leq 2m$	±8	※本体長6mを超えるものについては、トンネル標準示方書(シールド工法編)・同解説による。		(参考図)			
								$2m < L \leq 3m$	±10						
								$3m < L \leq 4m$	±12						
								$4m < L \leq 5m$	±14						
								$5m < L \leq 6m$	±16						

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
12 下水道編	1 下水道工事	7 シールド工			セグメント製作 (鋼製)	主 桁 高 さ h	± 1.5			日本下水道協会編「シールド工用標準鋼製セグメント」による	
						セグメント幅 b	± 1.5				
						弧長 s_1 、 s_2	± 1.5				
						ボルト孔ピッチ d	± 1.0				
						ボルトピッチ サークル径 D_1	4000mm未満				± 7.0
							4000mm以上 6000mm未満				± 10.0
							6000mm以上 8000mm未満				± 10.0
							8000mm以上				± 15.0
						外 径 D_2	4000mm未満				± 7.0
							4000mm未満 6000mm未満				± 10.0
							6000mm以上 8000mm未満				± 15.0
8000mm以上	± 20.0										
鋼材の厚さ t	JIS G 3192, 3193 及びS194の規定による										
12 下水道編	1 下水道工事				池・槽の主要構造物	基 準 高 ∇	± 30	1池（又は1槽）について、図面の主要なる寸法表示箇所を測定する。			
						幅 b	± 30				
						高 さ h	± 30				
						壁 厚 t	-20				
							ただし 床版厚 -10				
						長 さ	± 50				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要				
13	港湾・漁港編	1	一般施工	3	共通の工種	6	圧密・排水工	1	サンドドレーン	位 置	±10cm	移動毎及び監督員の指示による。	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
									天端高	-0	全 数	打込記録の確認	+；設計値より浅い（高い）ことをいう。 -；設計値より深い（低い）ことをいう。 （ ）は陸上。	
									先端深度	+0				
									砂の投入量	—	全 数	打込記録の確認	様式・出来形 1-1-2 参照	
								2	敷砂均し	延 長	-0	施工完了後	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	
										天端高	±30cm	測線間隔 20m 以下 測点間隔陸上部 10m 以下 測点間隔水中部 20m 以下	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定 水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	
										天端幅	—			
										法面勾配	—			
								3	載荷土砂	延 長	-0		スチールテープ、間縄等により測定	
										天端高	±50cm	測線間隔 20m 以下 測点間隔陸上部 10m 以下 測点間隔水中部 20m 以下	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定 水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	
										天端幅	—			
										法面勾配	—			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要				
13	港湾・漁港編	1	一般施工	3	共通の工種	6	圧密・排水工	4	ペーパードレーン	位 置	±10cm	移動毎及び監督員の指示による。	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
									天端高	-0	全 数	打込記録の確認	+；設計値より浅い（高い）ことをいう。 -；設計値より深い（低い）ことをいう。 （ ）は陸上。	
									先端深度	+0				
									ドレーン材の打込長		全 数	打込記録の確認		
								5	グラベルマット	延 長	-0	施工完了後	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	様式・出来形 1-1-2 参照
										天端高	±30cm	測線間隔 20m 以下 測点間隔陸上部 10m 以下 測点間隔水中部 20m 以下	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定 水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	
										天端幅	—			
										法面勾配	—			
								6	グラベルドレーン	延 長	±10cm	移動毎及び監督員の指示による。	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
										天端高	-0	全 数	打込記録の確認	+；設計値より浅い（高い）ことをいう。 -；設計値より深い（低い）ことをいう。 （ ）は陸上。
										先端深度	+0			
										碎石の投入量		全 数	打込記録の確認	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要			
13	港湾・漁港編	1	3	7	共通の工種	締固工	1	ロッドコンパクション	位 置	±10cm	移動毎及び監督員の指示による。	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
								充填材の投入量					
								天端高	-0	全 数	打込記録の確認	+；設計値より浅い（高い）ことをいう。 -；設計値より深い（低い）ことをいう。 ()は陸上。	
								先端深度	+0				
							2	サンドコンパクションパイル	位 置	±10cm	移動毎及び監督員の指示による。	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	様式・出来形 1-2-2 参照。自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
									天端高	-0	砂杭全数	打込記録の確認	+；設計値より浅い（高い）ことをいう。 -；設計値より深い（低い）ことをいう。 ()は陸上。
									先端深度	+0			
									砂の投入量		砂杭全数	打込記録の確認	
									盛上り量		完了後	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	
							3	盛上土砂撤去	撤去量		完了後	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	
							4	敷砂均し					13-1-3-6-2 敷砂均しを適用する。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要		
13	港湾・漁港編	1	3	8	固化工	1 深層混合処理杭	位 置	—	海上施工は改良杭全数。	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	様式・出来形 1-3-1 参照。自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。 陸上施工は除く。	
							鉛直度	—	改良杭全数 深度方向に2～5m程度毎に測定 (引抜きと貫入時)	トランシット及び傾斜計等により処理機の鉛直度を測定		
							接 合	—				
							天端高	-0	改良杭全数	深度計、ワイヤー繰出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により確認		+；設計値より浅い (高い) ことをいう。 -；設計値より深い (低い) ことをいう。 () は陸上。
							先端深度	+0				
							固化材吐出量	—	改良杭全数	流量計等により固化材の m 当りの吐出量を確認		
							盛上り量	—	改良前、改良後	音響測深機又はレッドにより測定		
						2 敷砂均し					13-1-3-6-2 敷砂均しを適用する。	
						3 事前混合処理	延 長	-0	施工完了後	スチールテープ、間縄等により測定		
							天端高、	—	測線間隔 20m 以下 測点間隔陸上部 10m 以下 測点間隔水中部 20m 以下	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定 水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定		
							天端幅	—				
						4 表層固化処理	延 長	-0	施工完了後	スチールテープ、間縄等により測定		
							天端高	—	測線間隔 20m 以下 測点間隔 10m 以下	スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定		
							天端幅	—				
厚さ	—											

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
13	港湾・漁港編	1 一般施工	3 共通の工種	9 洗掘防止工	1	洗掘防止	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎並びに 20m に 1 箇所以上。	スチールテープ、間縄等により測定	様式・出来形 1-4-1 参照 アスファルトマット、繊維系マット、ゴムマット、合成樹脂系マット
						重ね幅	50cm 以上 (アスファルトマット・繊維系マット、ゴムマット) 30cm 以上 (合成樹脂系マット)	1 枚に 2 点	スチールテープ等により測定		
						延長	-10cm	マットの中心を区間毎及び全長	スチールテープ、間縄等により測定		
編 13	港湾・漁港	1 一般施工	3 共通の工種	10 中詰工	1	砂・石材中詰	天端高	陸上±5cm 水中±10cm	1 室につき 1 箇所(中心)	レベル、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	様式・出来形 1-5-1 参照
						2 3	コンクリート中詰 プレバックドコンクリート中詰	天端高	陸上±3cm 水中±5cm	1 室につき 1 箇所(中心)	
13	港湾・漁港編	1 一般施工	3 共通の工種	11 蓋コンクリート工	1	蓋コンクリート	天端高	陸上±3cm 水中±5cm	1 室につき 1 箇所(中心)	レベル、スチールテープ等により測定	様式・出来形 1-6-1 参照
13	港湾・漁港編	1 一般施工	3 共通の工種	12 蓋ブロック工	1	蓋ブロック製作	幅	+2 cm, -1cm	型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定	
							高さ	+2 cm, -1cm			
							長さ	+2 cm, -1cm			
							壁圧	±1cm			
						対角線	—	型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定		
2	蓋ブロック据付	蓋ブロック据付(天端高)	—	1 室につき 1 箇所	レベル、スチールテープ等により測定						

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要					
13	港湾・漁港編	1	3	13	鋼矢坂工	1 先行掘削	位 置	—	全 数	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定					
							掘削長	—	全 数	レベル等により測定					
							掘削深度	—							
							掘削径	—	全数（水中の場合は適宜）	スチールテープ等により測定（水中の場合はケーシング径等により確認）					
						2 鋼矢板									
						イ) 鋼矢板	打込記録			40 枚に 1 枚		様式・出来形 1-8-2 参照			
							矢坂壁延長	+矢板 1 枚幅 -0	施工中適宜 打込完了時	スチールテープ等により測定（天端付近）					
							矢板法線に対する出入り	±10cm	打込完了時、20 枚に 1 枚 及び計画法線の変化点	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	全数を目視で確認				
							矢板法線に対する傾斜	10/1000 以下	打込完了時、20 枚に 1 枚 及び計画法線の変化点	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定					
							矢板法線方向の傾斜	上下の差が矢板 1 枚 幅未満 10/1000 以下	施工中適宜 打込完了時（両端部）						
							矢坂天端高	±10cm	打込完了時、20 枚に 1 枚	レベルにより測定	全数を目視で確認				
							矢坂継手部の離脱		全 数	観察（水中部は潜水士）					
						ロ) 鋼管矢板	打込記録			20 本に 1 本					
							矢坂壁延長	—	施工中適宜 打込完了時	スチールテープ等により測定（天端付近）					
							矢板法線に対する出入り	±10cm	打込完了時、10 本に 1 本 及び計画法線の変化点	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	全数を目視で確認				
							矢板法線に対する傾斜	10/1000 以下	打込完了時、10 本に 1 本 及び計画法線の変化点	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定					
							矢板法線方向の傾斜	上下の差が矢板 1 枚 幅未満 10/1000 以下	施工中適宜 打込完了時（両端部）						
							矢坂天端高	±10cm	打込完了時、10 本に 1 本	レベルにより測定	全数を目視で確認				
							矢坂継手部の離脱		全 数	観察（水中部は潜水士）					

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要				
13	1	3	14	1	控鋼矢板	打込記録		40枚に1枚		様式・出来形 1-8-2 参照				
						矢板壁延長	+矢板1枚幅 -0	施工中適宜 打込完了時	スチールテープ等により測定(天端付近)					
						矢板法線に対する出入り	±10cm	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	全数を目視で確認				
						矢板法線に対する傾斜	10/1000以下	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定					
						矢板法線方向の傾斜	上下の差が矢板1枚 幅未満 10/1000以下	施工中適宜 打込完了時(両端部)						
						矢板天端高	±10cm	打込完了時、20枚に1枚	レベルにより測定	全数を目視で確認				
						矢板継手部の離脱		全 数	観察(水中部は潜水士)					
						2	控鋼杭	打込記録		20本に1本				様式・出来形 1-10-2 参照
						杭頭中心位置		10cm以下	打込完了時、全数	トランシット、光波測距儀、スチールテープ				
						杭天端高		±5cm	打込完了時、全数	レベルにより測定				
						杭の傾斜	直杭 2°以下 斜杭 3°以下	打込完了時、全数	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定					
				3	プレキャストコンクリート控壁	幅	+2 cm -1cm	型枠取外後全数	スチールテープ等により測定					
				高さ		+2 cm -1cm								
				長さ		+2 cm -1cm								
				壁厚		±1cm								
				法線に対する出入		±5cm	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定						
				隣接ブロックとの間隔		—	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	スチールテープ等により測定						
				延長		—	据付完了後、法線上(最上段のみ)	スチールテープ等により測定						
				天端高		—	据付後ブロック1個につき2箇所	レベル等により測定						

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要			
13	港湾・漁港編	1	3	14	場所打コンクリート控壁	天端高又は厚さ	±2cm	1 スパン 3 箇所	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定				
						天端幅	±2cm	1 スパン 3 箇所	スチールテープ等により測定				
						延長	-0	法線上	スチールテープ等により測定				
						法線に対する出入	±3cm	1 スパン 2 箇所	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定				
					5	腹 起	取付高さ		取付完了時、両端（継手毎）全数	レベル等により測定	様式・出来形 1-9-5 参照		
							継手位置		取付完了時、全数	観 察			
							ボルトの取付け		取付完了時、全数	観 察			
							矢坂と腹起しとの密着		タイロッド毎、全数	観 察			
					6	イ) タイロッド取付	取付け高さ及び水平度		締付後両端、全数	レベル等により測定	様式・出来形 1-9-6 参照 腹起しに取り付ける場合は不要		
							矢板法線に対する取付角度及び取付間隔		締付後両端、全数	スチールテープ等により測定			
							定着ナットの締付け	ねじ山が 3 つ山以上突き出していること。	全 数	観 察			
							ターンバックルのねじ込み長さ	定着ナットの高さ以上	全 数	観 察			
							リングジョイントのコンクリートへの埋込み		全 数	観 察			
							支保材の天端高		適 宜	レベル等により測定			
							ロ) タイワイヤー取付	取付高さ		締付後両端、全数		レベル等により測定	腹起しに取り付ける場合は不要
								矢板法線に対する取付角度及び取付間隔		締付後両端、全数		スチールテープ等により測定	
								定着ナットの締付け	ねじ山が 3 つ山以上突き出していること。	全 数		観 察	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
13	1	3	14			定着具端部 栓の取付け		全 数	観 察		
						トランペッ トシースの 取付		全 数	観 察		
13	1	3	15	1	先行掘削					13-1-3-13-1 先行掘削を適用する。	
				2	鋼 杭	打込記録		20 本に 1 本		トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	様式・出来形 1-10-2 参照
						杭頭中心位置	10cm 以下	打込完了時、全数			
						杭天端高	±5cm	打込完了時、全数	レベル等により測定		
杭の傾斜	直杭 2° 以下 斜杭 3° 以下	打込完了時、全数	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定								
13	1	3	16	1	コンクリート杭	打込記録		支持杭は全数、支持杭以外は 20 本に 1 本	JIS A 7201 記録		
						杭頭中心位置	10cm 以下	打込完了時、全数	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定		
						杭天端高	±5cm	打込完了時、全数	レベル等により測定		
						杭の傾斜	直杭 2° 以下 斜杭 3° 以下	打込完了時、全数	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13	港湾・漁港編	1	3	17	電気防食	取付位置		取付完了後、全数	目視（承諾された図面より確認） 潜水士による。	様式・出来形 1-12-1 参照
						電位測定	飽和かんこう電極 基準；-770mV 海水塩化銀基準； -780mV 又は飽和硫酸銅電 極基準；-850mV	取付完了後、測定端子取付 箇所毎	測定機器による。	
					FRPモルタル被覆	取付高さ (被覆範囲)	—	完了後、保護カバーの上端 又は下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭；全 数 矢板；1打設3箇所以上	レベル等により測定	測定密度における矢板の1 打設とは、コンクリートモル タルの配合1回当たりの打 設を示す。
					ペトロラタム披覆	取付高さ (被覆範囲)	—	完了後、保護カバーの上端 又は下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭；全 数 矢板；監督員の指示に よる	レベル等により測定	
					コンクリート披覆	高さ (被覆範囲)	—	完了後、上端・下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭；全 数 矢板；1打設3箇所以上	レベル等により測定	測定密度における矢板の1 打設とは、コンクリートモル タルの配合1回当たりの打 設を示す。
					防食塗装	高さ (被覆範囲)	—	完了後、上端・下端高さ (被覆範囲の確認) 鋼管杭；全 数 矢板；50m ² に1箇所以上	レベル等により測定	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13 港湾・漁港編	1 一般施工	3 共通の工種	19 コンクリート舗装工	1	下層路盤	高 さ	±4cm	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	レベル等により測定	様式・出来形1-13-1参照
						厚 さ	-4.5cm	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は3-2-6-12参照	レベル等により測定	
						幅	-5cm	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定	
						延 長	-0	両端2箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定	
				2	上層路盤	厚 さ	-2.5cm	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は3-2-6-12参照	レベル等により測定	
						幅	-5cm	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定	
						延 長	-0	両端2箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定	
				3	コンクリート舗装版	厚 さ	-1cm	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	レベル等により測定	コンクリート版の厚さ、その他を確認するため、監督員が必要と認めるときは、コアを採取する。
						幅	-2.5cm	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定	
						延 長	-0	両端2箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定	
						平坦性	機械舗設の場合 2mm以下 人力舗設の場合 3mm以下	各レーン毎全延長	3mプロファイルメータにより測定	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘要		
13 港湾・漁港編	1 一般施工	3 共通的工種	20 アスファルト舗装工	1	下層路盤	高さ	±5cm	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	レベル等により測定			
						厚さ	-4.5cm	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は3-2-6-11参照	レベル等により測定			
						幅	-5cm	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定			
						延長	-0	両端2箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定			
						2	上層路盤	厚さ	-3cm	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は3-2-6-11参照	レベル等により測定	
								幅	-5cm	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定	
								延長	-0	両端2箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定	
						3	基層	厚さ	-1.2cm	1,000m ² に1箇所	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	様式・出来形1-14-3参照
								幅	-2.5cm	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定	
				延長	-0			両端2箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定			
				4	表層	厚さ	-9mm	1,000m ² に1箇所	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	様式・出来形1-14-3参照		
						幅	-2.5cm	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定			
						延長	-0	両端2箇所	スチールテープ、光波測距儀等により測定			
						平坦性	2.4mm以下	各レーン毎全延長	3mプロフィールメータにより測定			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13 港湾・漁港編	1 一般施工	3 共通の工種	21 植生工	1 2	張 芝 筋 芝	材料の使用数量		施工完了後	使用数量表等により確認	
						長さ、幅 (面積)	-0	施工完了後	スチールテープ等により測定	
						植生状況		施工完了後、区域全体	観 察	
				3 4	播 種 種子吹付	材料の使用数量		施工完了後	使用数量表等により確認	
						長さ、幅 (面積)	-0	施工完了後	スチールテープ等により測定	
						植生状況	—	—	—	
				5	植 栽	材料の使用数量		搬入時、全数	使用数量表等により確認	
						樹高、枝張り 幅、幹周 り	-0	種類毎、搬入後適宜	スチールテープ等により測定	
						植付け状況		施工完了後、全本数	観 察	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13	港湾・漁港編	1 一般施工	4 土捨工							
13	港湾・漁港編	1 一般施工	5 海上地盤改良工	2 床掘工	1 ポンプ床掘 2 グラブ床掘 3 硬土盤床掘 4 砕岩床掘 5 バックホウ床掘	水深 (底面)	±30cm	—	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	断面図は監督員が指示したとき作成し提出
						(法面)	外側 2m(法面に直角) 内側 30cm(法面に直角)	—	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	
13	港湾・漁港編	1 一般施工	5 海上地盤改良工	6 置換工	1 置換材均し	延長	—0	施工完了後	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	様式・出来形 3-2-1 参照
						天端高	±50cm	測線間隔 20m 以下測点間隔 10m 以下	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	
						天端幅	—			
						法面	—		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13	1	5	7		圧密・排水工					13-1-3-6 圧密・排水工を適用する。
13	1	5	8		締固工					13-1-3-7 締固工を適用する。
13	1	5	9		固化工					13-1-3-8 固化工を適用する。
13	1	6	2	1	盛砂均し	延 長	－0	施工完了後	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	様式・出来形 1-1-2 参照
						天端高	±30cm	測線間隔 20m 以下	スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	
						天端幅	—	測点間隔 20m 以下		
						法面勾配	—			
13	1	6	3		洗掘防止工				13-1-3-9 洗掘防止工を適用する。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要		
13	1	6	4	1	基礎捨石 (均しを行わない面)	天端高	—	測線及び測点間隔は 10m 以下	音響測深機、レッド又はレベル等により測定			
						法 面	—	測線間隔は 10m 以下測点 3 点以上、但し、マウンド厚 2 m 以下の場合は 2 点以上	音響測深機、レッド又はレベル等により測定			
						天端幅	—	測線間隔は 10m 以下	スチールテープ、間縄等により測定			
						延 長	—	法線上又は監修職員の指示による。	スチールテープ、間縄等により測定			
						2	捨石本均し	天端高	±5cm	測線及び測点間隔は 10m 以下	レベルにより測定	様式・出来形 4-3-2 参照
						天端幅		-10cm	測線間隔は 10m 以下	スチールテープ、間縄等により測定		
				延 長	-10cm	法線上又は監督員の指示による。	スチールテープ、間縄等により測定					
				3	捨石荒均し	天端高	注)-1 ±50cm、岸壁前面+0、-20cm 異形ブロック据付面（整積）の高さ（法面に直角）±30cm	測線及び測点間隔は 10m 以下	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	注)-1 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。		
						法 面	注)-2 ±50cm（法面に直角） 異形ブロック据付面（整積）の高さ（法面に直角）±30cm	測線間隔は 10m 以下測点 3 点以上、但し、マウンド厚 2 m 以下の場合は 2 点以上	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	注)-2 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。		
						天端幅	-10cm	測線間隔は 10m 以下	スチールテープ、間縄等により測定			
						延 長	-10cm	法線上又は監督員の指示による。	スチールテープ、間縄等により測定			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要					
13	港湾・漁港編	1	一般施工	6	基礎工	基礎ブロック工	1	基礎ブロック製作	幅	±2 cm -1cm	型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定	様式・出来形 6-1 参照 ブロック(方塊)		
									高さ	±2 cm -1cm					
									長さ	±2 cm -1cm					
									壁厚	± 1 cm					
									対角線		型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定			
									型枠形状寸法 (異形ブロック)		型枠搬入後適宜	観察			
									ブロック外観 (異形ブロック)		全 数	観察			
									2	基礎ブロック据付	法線に対する出入	±5cm		据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	スチールテープ等により測定
											隣接ブロックとの間隔	ブロック(方塊) 3cm 以下		据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	スチールテープ等により測定
											延 長			据付完了後、法線上(最上段のみ)	スチールテープ等により測定
天端高		据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	レベル等により測定												

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13 港湾・漁港編	1 一般施工	7 本体工(ケーソン式)	2 ケーソン製作工	1	ケーソン製作	摩擦増大用 マット敷設 位置	—	始・終端及び変化する箇所 毎	スチールテープ等により確認	
						高 さ	+3cm -1cm	完成時、四隅	スチールテープ等により測定	様式・出来形 5-1-1 参照
						幅	+3cm -1cm	各層完成時に中央部及び 底版と天端は両端	スチールテープ等により測定	
						長 さ	+3cm -1cm	各層完成時に中央部及び 底版と天端は両端	スチールテープ等により測定	
						壁 厚	±1cm	各層完成時、各壁 1 箇所	スチールテープ等により測定	
						底版厚さ	+3cm -1cm	底版完成時、各室中央部 1 箇所	レベル、スチールテープ等により測 定	
						フーチング 高さ	+3cm -1cm	底版完成時、四隅	スチールテープ等により測定	
						対角線	±5cm	底版完成時及び完成時	スチールテープ等により測定	
					バラスト	砕石・砂 ±10cm コンクリート ±5cm	各室中央部 1 箇所	レベル、レッド等により測定	投入量管理	
13 港湾・漁港編	1 一般施工	7 本体工(ケーソン式)	3 ケーソン進水据付工	1	ケーソン進水据付	法線に対す る出入	防波堤 ケーソ質量 2,000t 未満±20cm 2,000t 以上±30cm 岸 壁 ケーソ質量 2,000t 未満±10cm 2,000t 以上±15cm	据付完了後、両端 2 箇所	トランシット及びスチールテープ等 により測定	様式・出来形 5-2-1 参照
						据付目地間 隔	防波堤 ケーソ質量 2,000t 未満 20cm 以下 2,000t 以上 30cm 以下 岸 壁 ケーソ質量 2,000t 未満 10cm 以下 2,000t 以上 20cm 以下	据付完了後、天端 2 箇所	スチールテープ等により測定	
						天端高さ		据付完了後、四隅 中詰完了時、四隅	レベル等により測定	
						延長		据付完了後、法線上	スチールテープ等によ り測定	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
13	港湾・漁港編	1	7	4	中詰工					13-1-3-10 中詰工を適用する。	
13	港湾・漁港編	1	7	5	蓋コンクリート工					13-1-3-11 蓋コンクリート工を適用する。	
13		1	7	6	蓋ブロック工					13-1-3-12 蓋ブロック工を適用する。	
13	港湾・漁港編	1	8	2	本体ブロック製作	幅	±2 cm -1cm	型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定	様式・出来形 6-1 参照 L型ブロック セルラーブロック ブロック(方塊)	
						高さ	±2 cm -1cm				
						長さ	±2 cm -1cm				
						壁厚	± 1 cm				
						対角線		型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定		様式・出来形 6-1 参照 セルラーブロック ブロック(方塊)
						型枠形状寸法(異形ブロック)		型枠搬入後適宜	観察		
ブロック外観(異形ブロック)		全 数	観察								

1	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13	1	8	3	2	本体ブロック据付	法線に対する出入	±5cm	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	スチールテープ等により測定	
						隣接ブロックとの間隔	L型ブロック セルラーブロック 5cm 以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3cm 以下	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	スチールテープ等により測定	
						延 長		据付完了後、法線上(最上段のみ)	スチールテープ等により測定	
						天端高		据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	レベル等により測定	
13	1	8	4		中詰工					13-1-3-10 中詰工を適用する。
13	1	8	5		蓋コンクリート工					13-1-3-11 蓋コンクリート工を適用する。
13	1	8	6		蓋ブロック工					13-1-3-12 蓋ブロック工を適用する。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要		
13	港湾・漁港編	1	9	2	場所打コンクリート工	イ) 防波堤	天端高又は厚さ	天端幅 10m 以下の場合 は±2cm 天端幅 10m を超える 場合は+5cm - 2cm	天端面は 1 スパン 4 箇所 以上 パラペット頂部は 1 スパ ン 2 箇所以上	レベルにより測定	様式・出来形 14・1 参照	
							天端幅	天端幅 10m 以下の場合 は±3cm 天端幅 10m を超える 場合は+5cm - 3cm	1 スパン 3 箇所	スチールテープ等により測定		
							延 長	-0	法線上	スチールテープ等により測定		
							法線に対す る出入	±5cm	1 スパン 2 箇所	トランシット、スチールテープ 等により測定		
							ロ) 岸 壁	天端高又は 高さ	±2cm	1 スパン 3 箇所		レベル、スチールテープ等によ り測定
								天端幅	±2cm	1 スパン 3 箇所		スチールテープ等により測定
								延 長	-0	法線上		スチールテープ等により測定
								法線に対す る出入	±3cm	1 スパン 2 箇所		トランシット、スチールテープ 等により測定
								防舷材ベッ ド		スパン毎		スチールテープ等により測定
							13	港湾・漁港編	1	9		3
13		1	9	4	プレパックドコンク リート工					13-1-9-2 場所打コンクリ ート工を適用する。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
13	港湾・漁港編	1 一般施工	9 本体工(場所打式)	5	水中分離性コンクリート工					13-1-9-2 場所打コンクリート工を適用する。	
13	1	10	2		洗掘防止工					13-1-3-9 洗掘防止工を適用する。	
13	1	10	3		本体捨石工					13-1-6-4 基礎捨石工を適用する。	
13	港湾・漁港編	1 一般施工	10 本体工(捨石・捨ブロック式)	4 捨ブロック工	1 捨ブロック製作	幅	+2 cm -1cm	型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定	様式・出来形 6-1 参照 ブロック(方塊)	
						高さ	+2 cm -1cm				
						長さ	+2 cm -1cm				
						壁厚	±1cm				
						対角線		型枠取外し後全数			スチールテープ等により測定
						型枠形状寸法 (異形ブロック)		型枠搬入後適宜			観察
						ブロック外観 (異形ブロック)		10個に1個以上測定			観察
					2 捨ブロック据付	法線に対する 出入	±5cm	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	スチールテープ等により測定		
						隣接ブロック との間隔	ブロック(方塊) 3cm 以下	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)	スチールテープ等により測定		
						延 長		据付完了後、法線上(最上段のみ)	スチールテープ等により測定		
天端高		据付後ブロック1個につき2箇所(最上段のみ)	レベル等により測定								

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13 港湾・漁港編	1 一般施工	10 本体工(捨石・捨ブロック式)	5 場所打コンクリート工		場所打コンクリート工	天端高	天端幅 10m 以下の場合 は±2cm 天端幅 10m を超える 場合は+5cm - 2cm	天端面は 1 スパン 4 箇所 以上 パラペット頂部は 1 スパ ン 2 箇所以上	レベル等により測定	様式・出来形 14-1 参照
						天端幅	天端幅 10m 以下の場合 は±3cm 天端幅 10m を超える 場合は+5cm - 3cm	1 スパン 3 箇所	スチールテープ等により測定	
						延 長	-0	法線上	スチールテープ等により測定	
						法線に対する 出入	±5cm	1 スパン 2 箇所	トランシット、スチールテープ等 により測定	
13 港湾・漁港編	1 一般施工	11 本体工(鋼矢板式)	2 鋼矢板工		鋼矢板工					13-1-3-13 鋼矢板工を適用 する。
13 港湾・漁港編	1 一般施工	11 本体工(鋼矢板式)	3 控工		控 工					13-1-3-14 控工を適用する。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
13	港湾・漁港編	1 一般施工	12 本体工(コンクリート矢坂式)	2 コンクリート矢坂工	1	コンクリート矢坂工	矢坂壁延長	+矢坂 1 枚幅 -0	施工中適宜 打込完了時	スチールテープ等により測定(天端付近)	
							矢板法線に対する出入り	—	打込完了時、20 枚に 1 枚及び計画法線の変化点	トランシット、スチールテープ等により測定	全数を目視で確認
							矢板法線に対する傾斜	—	打込完了時、20 枚に 1 枚及び計画法線の変化点	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	
							矢坂法線方向の傾斜	上下の差が矢板 1 枚幅未満 2/100 以下	施工中適宜 打込完了時(両端部)	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	
							矢坂天端高	±5cm	打込完了時、20 枚に 1 枚	レベルにより測定	全数を目視で確認
					矢坂継手部の離脱			全 数	観察(水中部は潜水士)		
13	港湾・漁港編	1 一般施工	12 本体工(コンクリート矢坂式)	3 控工		控 工					13-1-3-14 控工を適用する。
13	港湾・漁港編	1 一般施工	13 本体工(鋼杭式)	2 鋼杭工		鋼杭工					13-1-3-15 鋼杭工を適用する。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13 港湾・漁港編	1 一般施工	15 被覆・根固工	2 被覆石工	1	被覆石 (均しを行わない面)	天端面	—	測線及び測点間隔は 10m 以下	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	様式・出来形 13-1-1 参照
				2	被覆石均し	天端面	±50cm 岸壁前面 +0、-20cm	測線及び測点間隔は 10m 以下	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	
						法面	±50cm(法面に直角)異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm又は(φ)による。	測線間隔は 10m 以下、測点 3 点以上但し、マウンド厚 2 m 以下の場合は 2 点以上	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	
						天端幅	-20cm	測線間隔は 10m 以下	スチールテープ、間縄等により測定	
延長	-20cm	天端中心上又は監督員の指示による。	スチールテープ、間縄等により測定							
13 港湾・漁港編	1 一般施工	15 被覆・根固工	4 被覆ブロック工	1	被覆ブロック製作	型枠形状寸法 (異形ブロック)		型枠搬入後適宜	観察	
						ブロック外観 (異形ブロック)		10 個に 1 個以上	観察	
				2	被覆ブロック据付	延長		据付完了後、法線上 (最上段のみ)	スチールテープ等により測定	
13 港湾・漁港編	1 一般施工	15 被覆・根固工	5 根固ブロック工	1	根固ブロック製作	幅	+2 cm -1cm	型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定	様式・出来形 13-3-1 参照
						高さ	+2 cm -1cm			
						長さ	+2 cm -1cm			
						壁厚	±1cm			
					対角線		型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定		
			2	根固ブロック据付						13-1-15-4-2 被覆ブロック据付を適用する。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
13 港湾・漁港編	1 一般施工	16 上部工	2 上部コンクリート工		イ) 防波堤	天端高又は厚さ	天端幅 10m 以下の場合は±2cm 天端幅 10m を超える場合は+5cm - 2cm	天端面は 1 スパン 4 箇所以上 パラペット頂部は 1 スパン 2 箇所以上	レベル等により測定	様式・出来形 14-1 参照 注) 本体がケーソンの場合 ケーソン質量 2,000t 未満±20cm 2,000t 以上±30cm	
						天端幅	天端幅 10m 以下の場合は±3cm 天端幅 10m を超える場合は+5cm - 3cm	1 スパン 3 箇所	スチールテープ等により測定		
						延 長	-0	法線上	スチールテープ等により測定		
						法線に対する出入	±5cm	1 スパン 2 箇所	トランシット、スチールテープ等により測定		
					ロ) 岸 壁	天端高又は高さ	±2cm	1 スパン 3 箇所	レベル、スチールテープ等により測定		
						天端幅	±2cm	1 スパン 3 箇所	スチールテープ等により測定		
						延 長	-0	法線上	スチールテープ等により測定		
						法線に対する出入	±3cm	1 スパン 2 箇所	トランシット、スチールテープ等により測定		
						防舷材ベッド		スパン毎	スチールテープ等により測定		
					ハ) 栈 橋						13-1-16-2 上部コンクリート工 ㊦岸壁を適用する。 梁(高さ、幅)、床版厚は型枠検査による。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要			
13	港湾・漁港編	1	16	3	上部ブロック製作	幅	+2 cm -1cm	型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定				
						高さ	+2 cm -1cm						
						長さ	+2cm -1cm						
						壁厚	±1cm						
						対角線					型枠取外し後全数	スチールテープ等により測定	
					2	上部ブロック据付							
						イ) 防波堤						13-1-16-2 上部コンクリート工 イ)防波堤を適用する。	
						ロ) 岸 壁						13-1-16-2 上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。	
						ハ) 栈橋上部コンクリート						13-1-16-2 上部コンクリート工 ハ)浅橋を適用する。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
13	港湾・漁港編	1 一般施工	17 付属工	2 係船柱工	1	係船柱工	天端高	曲柱±2cm 直柱±2cm	据付完了時、中心部、全数	レベルにより測定	様式・出来形 15-1-1 参照
							岸壁前面に対する出入		据付完了時、全数	トランシット、スチールテープ等により測定	
							中心間隔		据付完了時、各スパン毎中心部、各基	スチールテープ等により測定	
							直柱基礎コンクリート(幅)		完了時、全数、天端両端	スチールテープ等により測定	
							(長さ)		完了時、全数、前後	スチールテープ等により測定	
(高さ)		完了時、全数、中心点	レベルにより測定								
13	港湾・漁港編	1 一般施工	17 付属工	3 防舷材工	1	防舷材工	取付高さ		取付完了時、中心部、全数	レベル又はスチールテープ等により測定	様式・出来形 15-2-1 参照
							中心間隔		取付完了時、中心部、全数	スチールテープ等により測定	
13	港湾・漁港編	1 一般施工	17 付属工	4 車止・縁金物工		車止・縁金物工	天端高		取付完了時、中心部、全数	レベルにより測定	様式・出来形 15-3-1 参照
							岸壁前面に対する出入	±3cm	取付完了後中心部を1点	トランシット、スチールテープ等により測定	
							取付間隔		上部工1スパンに2箇所	スチールテープ等により測定	
							塗 装			目視による観察	
							警戒色(シマ模様)		完了時適宜	スチールテープ等により測定	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13	1	17	5		防食工					13-1-3-17 防食工を適用する。
13	1	17	6		係船環	取付位置		取付完了時、中心部、全数	スチールテープ等により測定	
13	1	18	2		洗掘防止工					13-1-3-9 洗掘防止工を適用する。
13	1	18	3	1	消波ブロック製作	型枠形状寸法（異形ブロック）		型枠搬入後適宜	観 察	
						ブロック外観（異形ブロック）		10 個に 1 個以上	観 察	
				2	消波ブロック据付	延 長		据付完了後、法線上（最上段のみ）	スチールテープ等により測定	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要				
13	港湾・漁港編	1	一般施工	19	裏込・裏理工	2	裏込工	1	裏込材 (均しを行わない面)	天端高	—	測線及び測点間隔は 10m 以下	レベル、レッドにより測定	
										法 面	—	測点は 3 点以上	レベル、レッドにより測定	
										天端幅	—	測線間隔は 10m 以下	スチールテープ、間縄等により測定	
										延 長	—	天端中心上又は監督員の指示による。	スチールテープ、間縄等により測定	
								2	裏込均し	天端面	±20cm	測線及び測点間隔は 10m 以下	レベル、レッドにより測定	
										法 面	±20cm (法面に直角)	測点は 3 点以上	レベル、レッドにより測定	マット等を使用する場合を含む。
										天端幅	-10cm	測線間隔は 10m 以下	スチールテープ、間縄等により測定	
										延 長	-10cm	天端中心上又は監督員の指示による。	スチールテープ、間縄等により測定	
								3	吸出し防止材	敷設位置	—	姑、終端及び変化する箇所毎並びに 20m に 1 箇所以上	スチールテープ、間縄等により測定	様式・出来形 1-4-1 参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
										重ね幅	50cm 以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30cm 以上(合成樹脂系マット)	1 枚に 2 点	スチールテープ等により測定	
										延 長	-10cm	マットの中心を区間毎及び全長	スチールテープ、間縄等により測定	
								13	港湾・漁港編	1	一般施工	19	裏込・裏理工	3
(水中部)	—	測線間隔 20m 以下 測点間隔 20m 以下	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	変化点は測定する。										
13	港湾・漁港編	1	一般施工	19	裏込・裏理工	4	裏埋土工	1 2	土砂掘削 土砂盛土	地盤高	—	法肩、法尻及び中心を延長 20m に 1 箇所以上	レベル等により測定	
										幅	—	延長 20m に 1 箇所以上	スチールテープ等により測定	
										法長	—	延長 20m に 1 箇所以上	スチールテープ等により測定	
										延長	—	両端及び中心	スチールテープ等により測定	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
13	1	21	7	1	法 面					13-1-19-4 土砂掘削、 13-1-19-4 土砂盛土及び 13-1-3-21 植生工を適用する。	
13	1	22	3		コンクリート舗装工					13-1-3-19 コンクリート舗装工を適用する。	
13	1	22	4		アスファルト舗装工					13-1-3-20 アスファルト舗装工を適用する。	
13	1	23	2	1	係船柱塗装	塗装箇所	—	塗装完了後、全数	目視（承諾された図面より確認）		
				2	車止塗装						
					イ) 鋼 製	塗装箇所	—	塗装完了後、全数	目視（承諾された図面より確認）		
					ロ) その他	塗装箇所	—	塗装完了後、全数	目視（承諾された図面より確認）		
			3	縁金物塗装						13-1-17-4 車止塗装を適用する。	
13	1	23	3		防食工					13-1-3-17 防食工を適用する。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13	1	24	2	1	コンクリート取壊し	幅、高さ、延長	—	—	トランシット、スチールテープ等により測定	
						外 観	—	—	目視又は潜水土による観察	
13	1	24	3	1	水中コンクリート撤去	幅、高さ、延長	—	—	トランシット、スチールテープ等により測定	
						外 観	—	—	潜水土による観察	
				2	鋼矢板等切断撤去	幅、高さ、延長	—	—	スチールテープ等により測定	
						外 観	—	—	目視又は潜水土による観察	
				3	腹起・タイ材撤去	形状寸法	—	—	スチールテープ等により測定	
						外 観	—	—	目視又は潜水土による観察	
				4	舗装版撤去	幅、高さ、延長	—	—	トランシット、スチールテープ等により測定	
						外 観	—	—	目視による観察	
				5	石材撤去	幅、高さ、延長	—	—	トランシット、スチールテープ等により測定	
						外 観	—	—	目視又は潜水土による観察	
				6	ケーソン撤去	形状寸法	—	—	スチールテープ等により測定	
						外 観	—	—	目視又は潜水土による観察	
				7	ブロック撤去	形状寸法	—	—	スチールテープ等により測定	
						外 観	—	—	目視又は潜水土による観察	
8	鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去	形状寸法	—	—	スチールテープ等により測定					
		外 観	—	—	目視又は潜水土による観察					

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13	1	25	3	1	仮設鋼矢板・H形鋼杭	矢板天端高	±10cm	打込完工時、20枚に1枚(H形鋼杭は全数)	レベル等により測定	
						根入長	-0	打込完工時、20枚に1枚(H形鋼杭は全数)	レベル等により測定	
13	1	25	3	1	先行掘削					13-1-3-13 先行掘削を適用する。 (任意仮設は除く)
				2	仮設鋼管杭・鋼管矢板工					13-1-3-13 鋼矢板式 ^ロ 鋼管矢板及び13-1-3-15 鋼杭を適用する。 (任意仮設は除く)
13	1	25	4	1	仮設道路工					13-1-3-19 コンクリート舗装工及び13-1-3-20 アスファルト舗装工を適用する
13	1	26	2	1	現場鋼材溶接	形状寸法 (のど厚、脚長、溶接)	—	適 宜	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	様式・出来形 24-1-1 参照
						ひずみ		全 数	目視による観察	
						有害な欠陥の有 無		適 宜	目視による観察	
				2	被覆溶接(水中)	形状寸法 (のど厚、脚長、溶接長等)	—	適 宜	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	
						外 観		全 数	潜水士による観察	
				3	スタッド溶接(水中)					13-1-26-2 被覆溶接(水中)を適用する。

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
編13	1	26	3		イ) 陸上現場切断	形状寸法	—	全 数	スチールテープ等により測定		
						外 観		全 数	目視による観察		
						ロ) 水中切断	形状寸法	—	全 数	スチールテープ等により測定	
							外 観		全 数	目視又は潜水土による観察	
13	1	26	4	1	清 掃	幅、長さ、延長	—	全 数	スチールテープ等により測定		
						外 観		全 数	目視又は潜水土による観察		
					2	削 孔	形状寸法	—	全 数	スチールテープ等により測定	
							外 観		全 数	目視又は潜水土による観察	
13	2	3	2	1	ポンプ浚渫	水 深 (底面)	+ 0	—	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	様式・出来形 25-1 参照 +；設計値より浅いことをいう。 -；設計値より深いことをいう。	
						(法面)	+ 0	—	音響測深機、レッド又はレベル等により測定		
13	2	3	3	1	グラブ浚渫					13-2-3-2 ポンプ浚渫を適用する。	
13	2	3	4	1	硬土盤浚渫					13-2-3-2 ポンプ浚渫を適用する。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要
13	2	3	5	1	砂岩浚渫					13-2-3-2 ポンプ浚渫を適用する。
13	2	3	6	1	バックホウ浚渫					13-2-3-2 ポンプ浚渫を適用する。
13	2	5	3		固化工					13-1-3-8 固化工を適用する。
13	2	5	8	1	土砂掘削					13-1-19-4 土砂掘削を適用する。
				2	土砂盛土					13-1-19-4 土砂盛土を適用する。

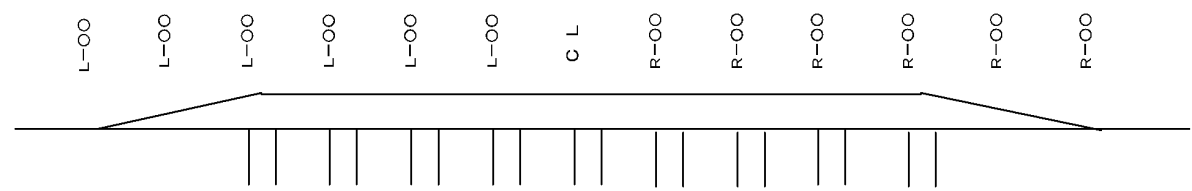
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定方法	摘 要	
13	7	4	3		コンクリート舗装工					13-1-3-19 コンクリート舗装工を適用する。	
13	7	4	4		アスファルト舗装工					13-1-3-20 アスファルト舗装工を適用する。	
13	7	4	5	1	縁 石	高 さ	±3cm	監督員の指示による。	レベルにより測定		
						総延長	-5cm	図面に記載する箇所。	スチールテープ等により測定		
					2	区所線及び道路標示	幅	±1cm	監督員の指示による。	スチールテープ等により測定	
							長 さ	±10cm	監督員の指示による。	スチールテープ等により測定	
					3	道路標識	高 さ	±5cm	1箇所につき1回	スチールテープ等により測定	
					4	防護柵	高 さ	+3cm -2cm	監督員の指示による。	スチールテープ等により測定	
							総延長	-10cm	図面に記載する箇所	スチールテープ等により測定	
					13	7	5	2	植生工		

敷砂出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

測点	種別	天 端 高										天 端 幅				延 長				
		L-50m	L-40m	L-30m	L-20m	L-10m	CL	R-10	R-20	R-30	R-40	R-50	港外法面	天端港外	天端港内	港内法面	港外側	法線上	港内側	
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																NO. 〇〇 }	NO. 〇〇 }	NO. 〇〇 }	
NO. 〇〇+〇. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇+〇. 〇〇	設計値 測定値 差																〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇+〇. 〇〇	設計値 測定値 差																NO. 〇〇 }	NO. 〇〇 }	NO. 〇〇 }	
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																			
NO. 〇〇	設計値 測定値 差																NO. 〇〇 }	NO. 〇〇 }	NO. 〇〇 }	



出来形管理基準-233

工事名: _____

敷砂出来形管理図

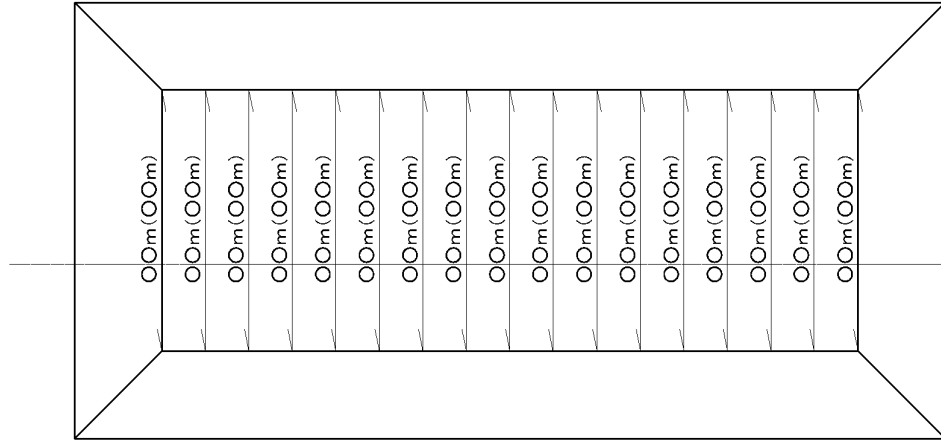
様式・出来形1-1-2(2)

敷砂 平面図

- NO. 0
- NO. 1
- NO. 2
- NO. 3
- NO. 4
- NO. 5
- NO. 6
- NO. 7
- NO. 8
- NO. 9
- NO. 10
- NO. 11
- NO. 12
- NO. 13
- NO. 14
- NO. 15
- NO. 16
- NO. 17
- NO. 18
- NO. 19
- NO. 20

港内側天端延長 ○○.○ (○○.○)

法線上天端延長 ○○.○ (○○.○)



港内側

法線

港外側

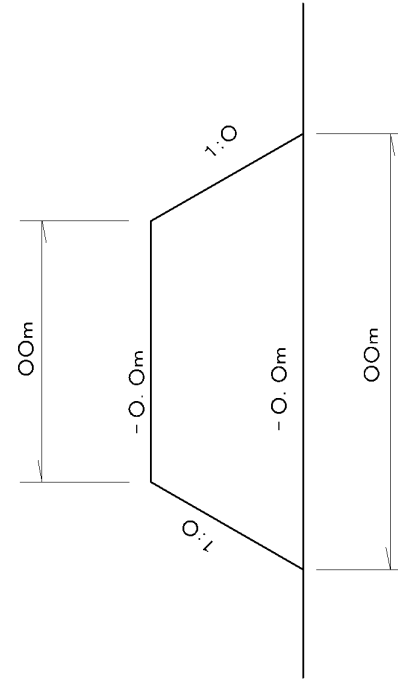
港外側天端延長 ○○.○ (○○.○)

-○.○m

-○.○m

○○m

標準断面図



凡例

() : 設計値
 実数 : 実測値

サンドコンパクションパイル出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
A列杭	設計値															
	測定値															
	差															
	変位置量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量
設計値																
測定値																
差																

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
B列杭	設計値															
	測定値															
	差															
	変位置量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量
設計値																
測定値																
差																

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
O列杭	設計値															
	測定値															
	差															
	変位置量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量
設計値																
測定値																
差																

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
O列杭	設計値															
	測定値															
	差															
	変位置量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量	X	Y	偏芯量
設計値																
測定値																
差																

砂投入管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

打設杭NO	SCP部					SD部					全砂量				
	設計	設計	実施	実施	累計打設量	設計	設計	実施	実施	累計打設量	設計	設計	実施	実施	累計打設量
打設長	打設量	打設長	打設量	打設長		打設量	打設長	打設量	打設長		打設量	打設長	打設量	打設長	
A-1															
A-2															
○-○															
○-○															
○-○															
○-○															
○-○															
計															

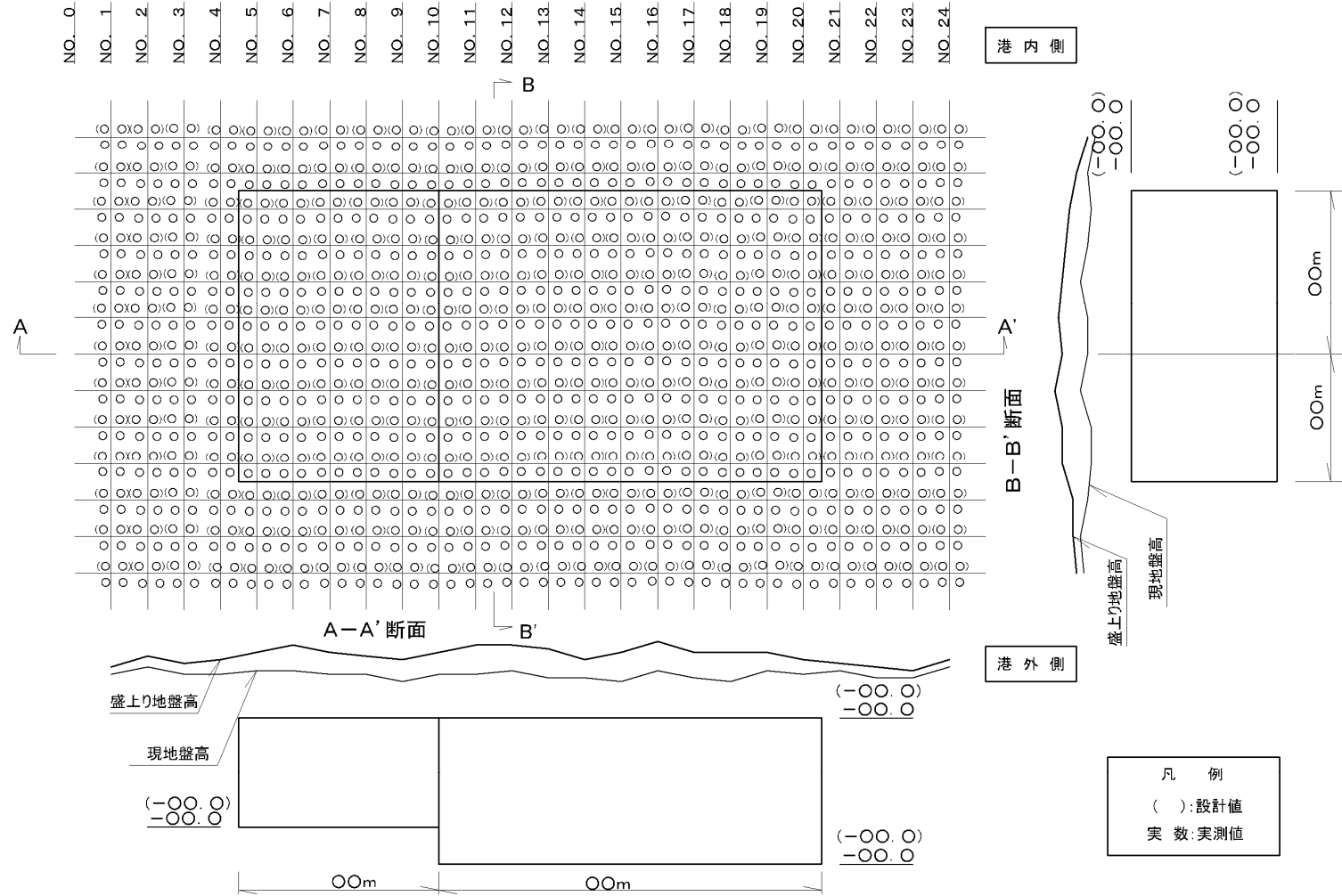
出来形管理基準-236

工事名: _____

締固工 深淺図

様式・出来形1-2-2(3)

平面図



洗掘防止マット出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

マットNO.	敷 設 月 日	測 定 値				備 考
		敷設位置	重ね幅	敷設幅	延 長	
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					

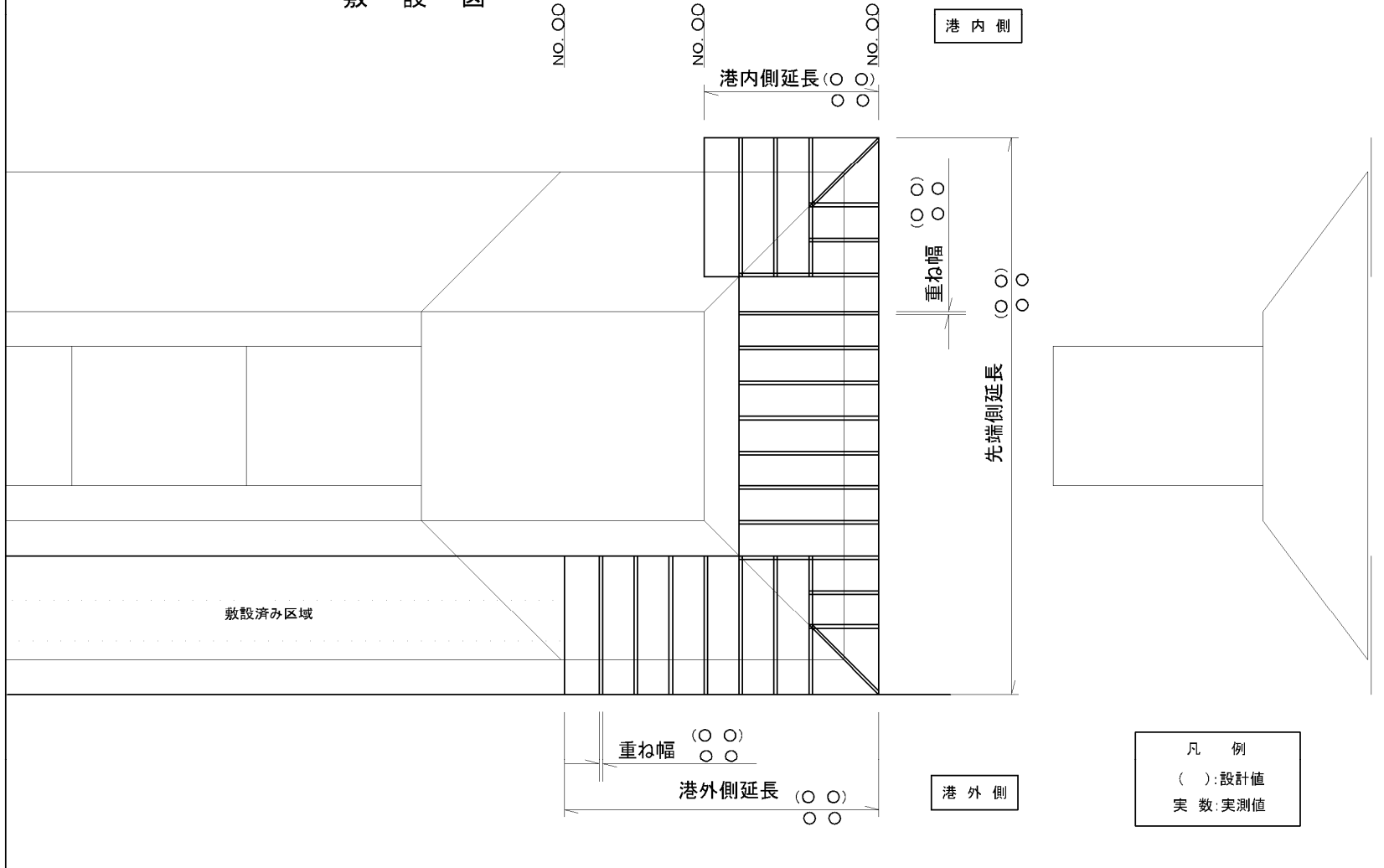
出来形管理基準-240

工事名: _____

様式・出来形1-4-1(2)

洗掘防止マット出来形管理図

敷 設 図



NO.○○

NO.○○

NO.○○

港内側

港内側延長 (○○)

重ね幅 (○○)

先端側延長 (○○)

敷設済み区域

重ね幅 (○○)

港外側延長 (○○)

港外側

凡 例
():設計値
実数:実測値

出来形管理基準-241

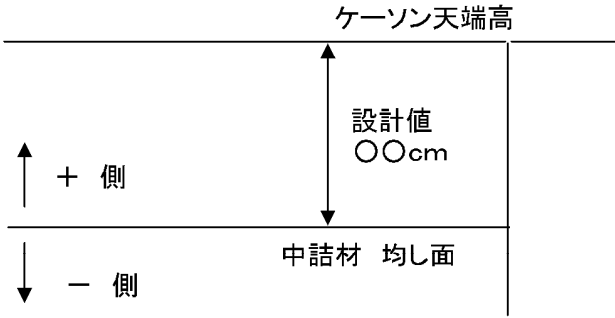
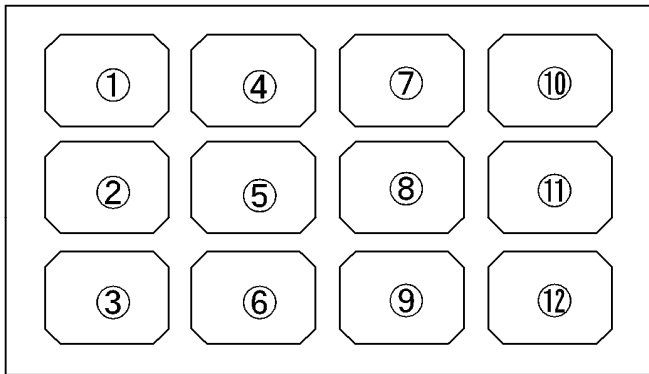
砂・石材中詰出来形管理表

現場代理人

工事名: _____

測定位置	ケーソン天端からの値			測定位置	ケーソン天端からの値		
	実測値	設計値	差		実測値	設計値	差
①							
②							
③							
④							

出来形管理基準-242

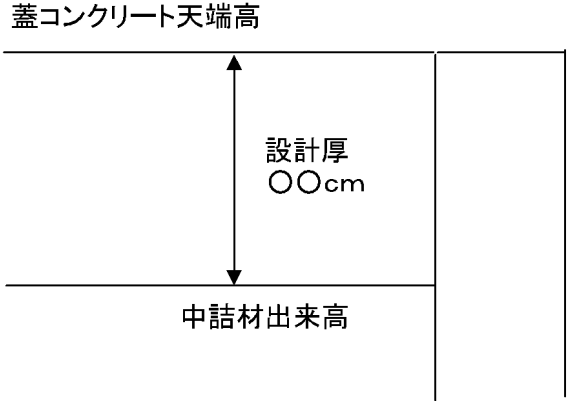
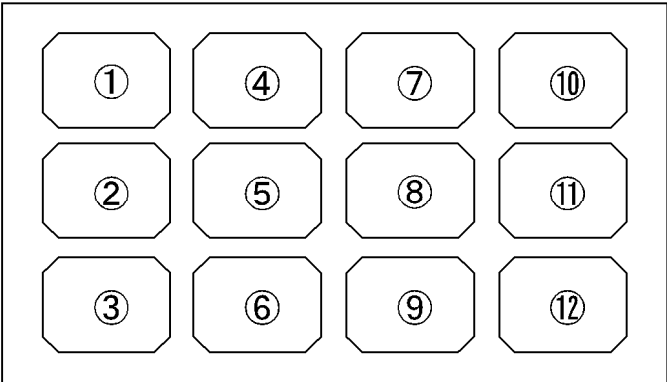


蓋コンクリート出来形管理表
現場代理人

工事名: _____

測定位置	ケーソン天端からの値			測定位置	ケーソン天端からの値		
	実測値	設計値	差		実測値	設計値	差
①							
②							
③							
④							

出来形管理基準-243



鋼矢板出来形管理表

様式・出来形1-8-2
平成 年 月 日

工事名: _____

現場代理人 _____

番 号	長 さ (m)	打設 年月日	矢板天端高 (m)			矢板先端高 (m)			矢板法線に対する出入り (mm)			矢板法線に 対する傾斜 実測値(cm)	矢板法線方向 の傾斜 実測値(1/1000)	備 考	
			設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差				

出来形管理基準-244

腹起出来形管理表

様式・出来形1-9-5

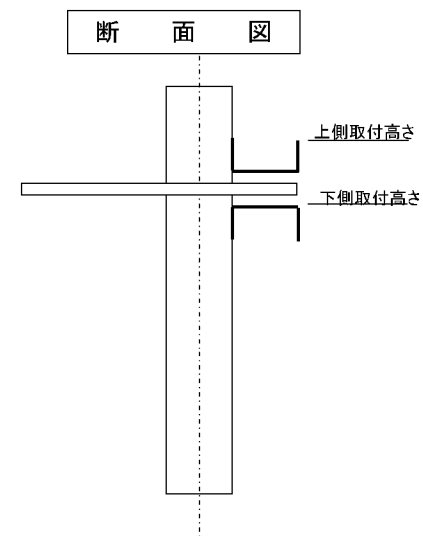
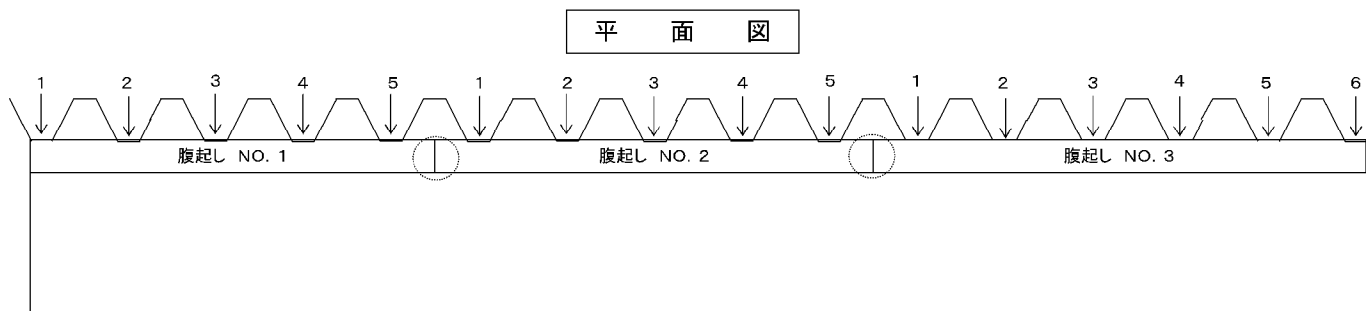
平成 年 月 日

現場代理人 _____

測点	種別	取付高さ		取付長さ	継手の状況
		上側	下側		
NO. 1	始点側	設計値			/
		測定値			
		差			
	終点側	設計値			
		測定値			
		差			
NO. 2	始点側	設計値			
		測定値			
		差			
	終点側	設計値			
		測定値			
		差			
NO. 3	始点側	設計値			
		測定値			
		差			
	終点側	設計値			
		測定値			
		差			

腹起し NO	位置 ボルト NO	ボルトの取付状況	矢板との密着状況	備考
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
NO. 2	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
NO. 3	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			

出来形管理基準-245



タイ材出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

海側矢板(杭)部

陸側控矢板(杭)部

取付番号	取付高さ	水平度	支保材の 天端高	矢板法線に対する 取付角度	矢板法線に対する 取付間隔	定着ナットの締付け
NO. 1						
NO. 2						
NO. O						
NO. O						
NO. O						
NO. O						

取付番号	取付高さ	水平度	支保材の 天端高	矢板法線に対する 取付角度	矢板法線に対する 取付間隔	定着ナットの締付け
NO. 1'						
NO. 2'						
NO. O'						
NO. O'						
NO. O'						
NO. O'						
NO. O'						

出来形管理基準-246

鋼杭打込記録

工事名: _____

現場代理人 _____

打設年月日		標高 (m)	50cmごとの 打撃回数 (回)	累計打撃回 数 (回)	50cmごとの 平均貫入量 (cm)	リバウンド量 (cm)	ラム落下高 (m)	摘 要
杭 番号	杭 長さ							
外 径								
板 厚								
メーカー								
打込み時間								
杭打機 名称								
型 式								
全 重 量								
ラム 重 量								
打止管理	設計値	実測値						
	天端高(m)							
	先端深度(m)							
	地盤高(m)							
	根入長(m)							
	総打撃回数							
	最終貫入量(S)							
許容 支持力	設計値	実測値						
	リバウンド量(K)							
許容 支持力 算定式	$Ru = \frac{ef \times 2WH}{S + 1/2K}$ ef:ハンマーの効率=0.5 H:ハンマーの落下高(m) W:ハンマーの重量(kN)							

出来形管理基準-247

鋼杭出来形管理表

平成 年 月 日

工事名: _____

現場代理人 _____

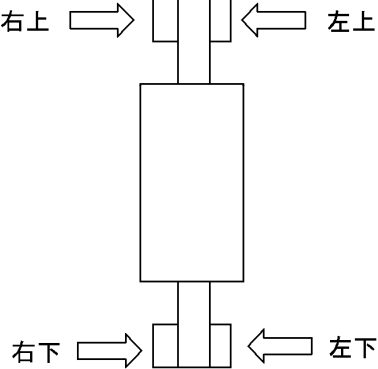
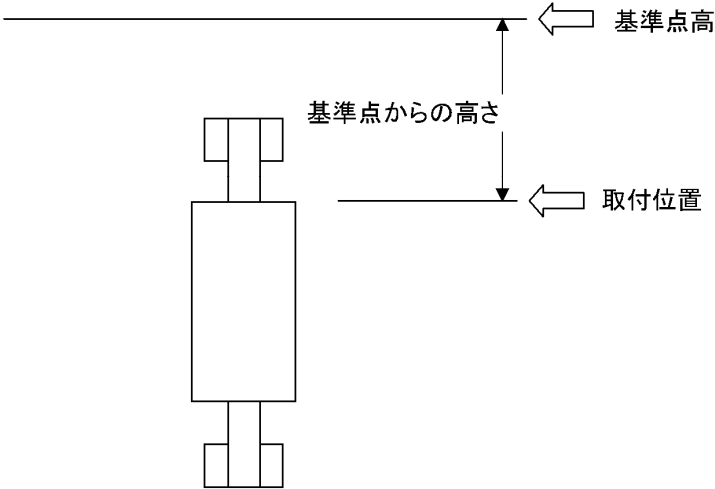
番 号	長 さ (m)	打設 年月日	杭頭中心位置 (m)						杭頭天端高 (m)			杭先天端高 (m)			杭の傾斜 (度)		備 考
			設計値		実測値		差		設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	
			法線直 角方向	法線平 行方向	法線直 角方向	法線平 行方向	法線直 角方向	法線平 行方向									

電気防食出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

陽極NO	陽 極 取 付			溶 接 部				脚 長						
	取付位置		差	基準点からの高さ			溶 接 長		脚 長		脚 長			
	設計値	実測値		基準点高	設計値	実測値	差	右上	左上	右下	左下	右上	左上	右下



出来形管理基準-249

電気防食電位測定管理表

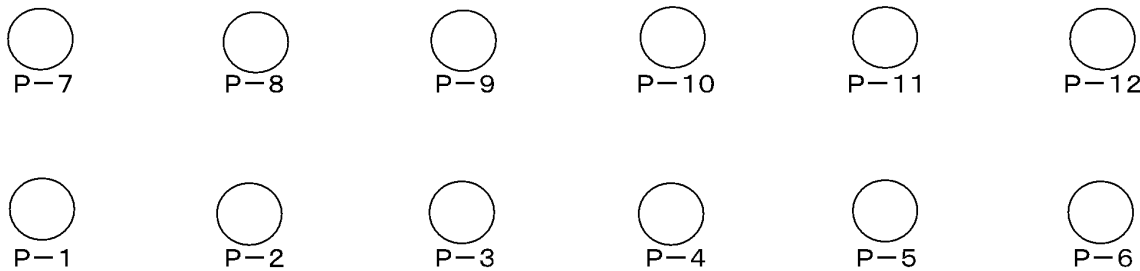
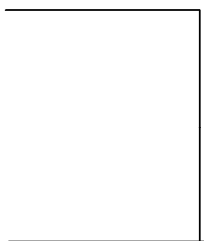
平成 年 月 日

工事名: _____

現場代理人 _____

測定水深	測定位置												備考		
	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10	P-11	P-12			

出来形管理基準-250

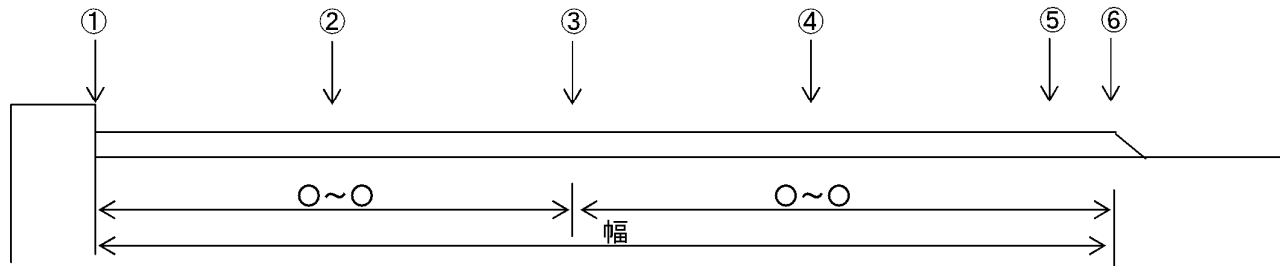


路盤出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

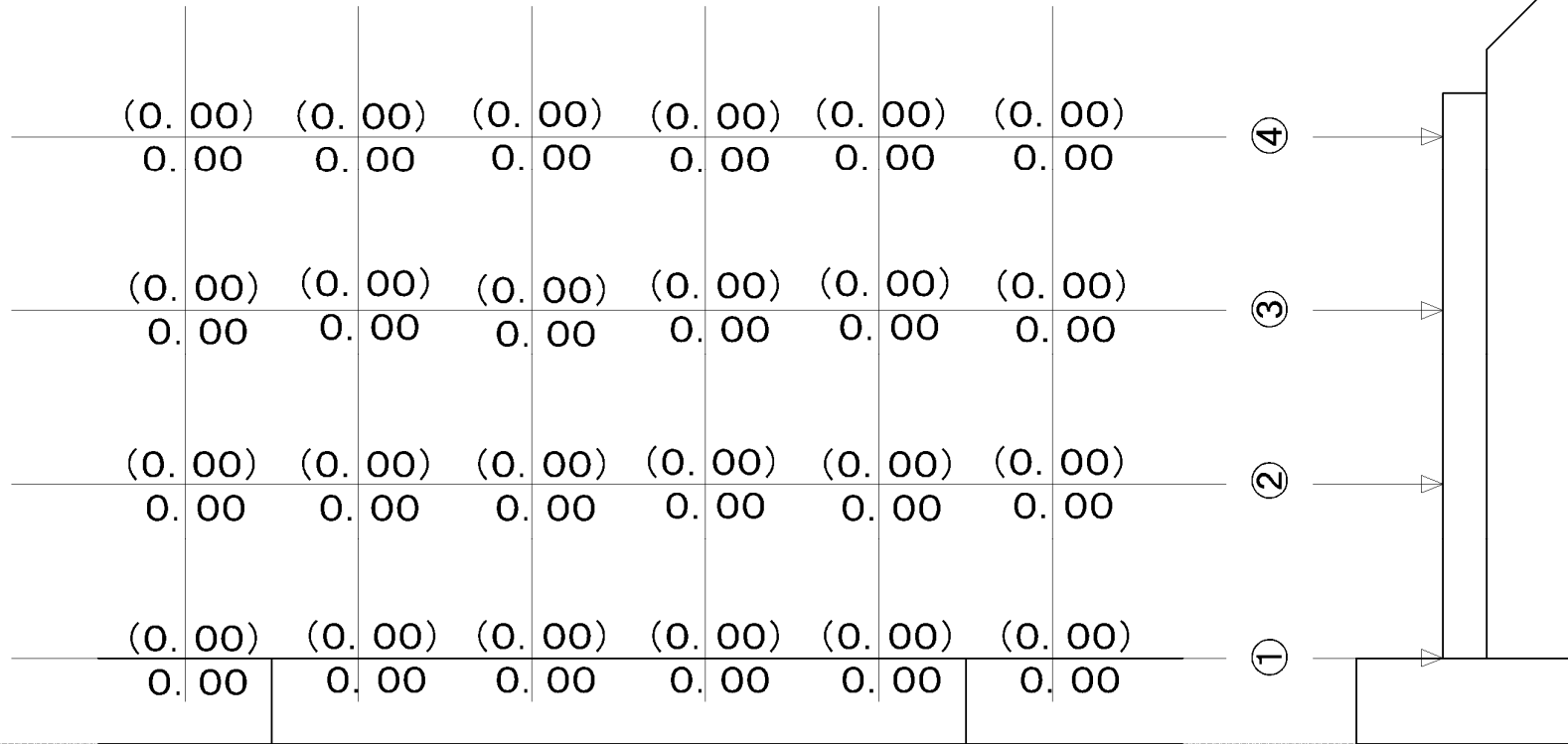
測点	種別	高さ							幅			延長		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	○~○	○~○	○~○	①線上	法線上	○線上
	路盤設計厚	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○.○○m	○.○○m	○.○○m	○.○○m	○.○○m	○.○○m
NO. ○○	路床高													
	路盤高													
	厚さ													
NO. ○○														
NO. ○○														
NO. ○○	+○.○○													
NO. ○○														



工事名: _____

路盤出来形管理図

様式・出来形1-13-1(2)



凡 例
(): 設計値
実 数: 実測値

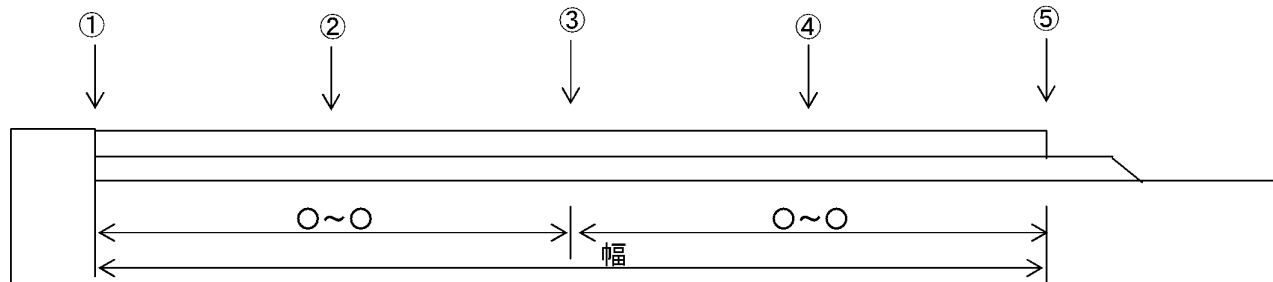
舗装出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

測点	種別	高 さ							幅			延 長		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	○~○	○~○	○~○	①線上	法線上	○線上
	舗装設計厚	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○.○○m	○.○○m	○.○○m	○.○○m	○.○○m	○.○○m
NO. ○○	路盤高													
	天端高													
	厚さ													
NO. ○○														
NO. ○○ +○.○○														
NO. ○○														

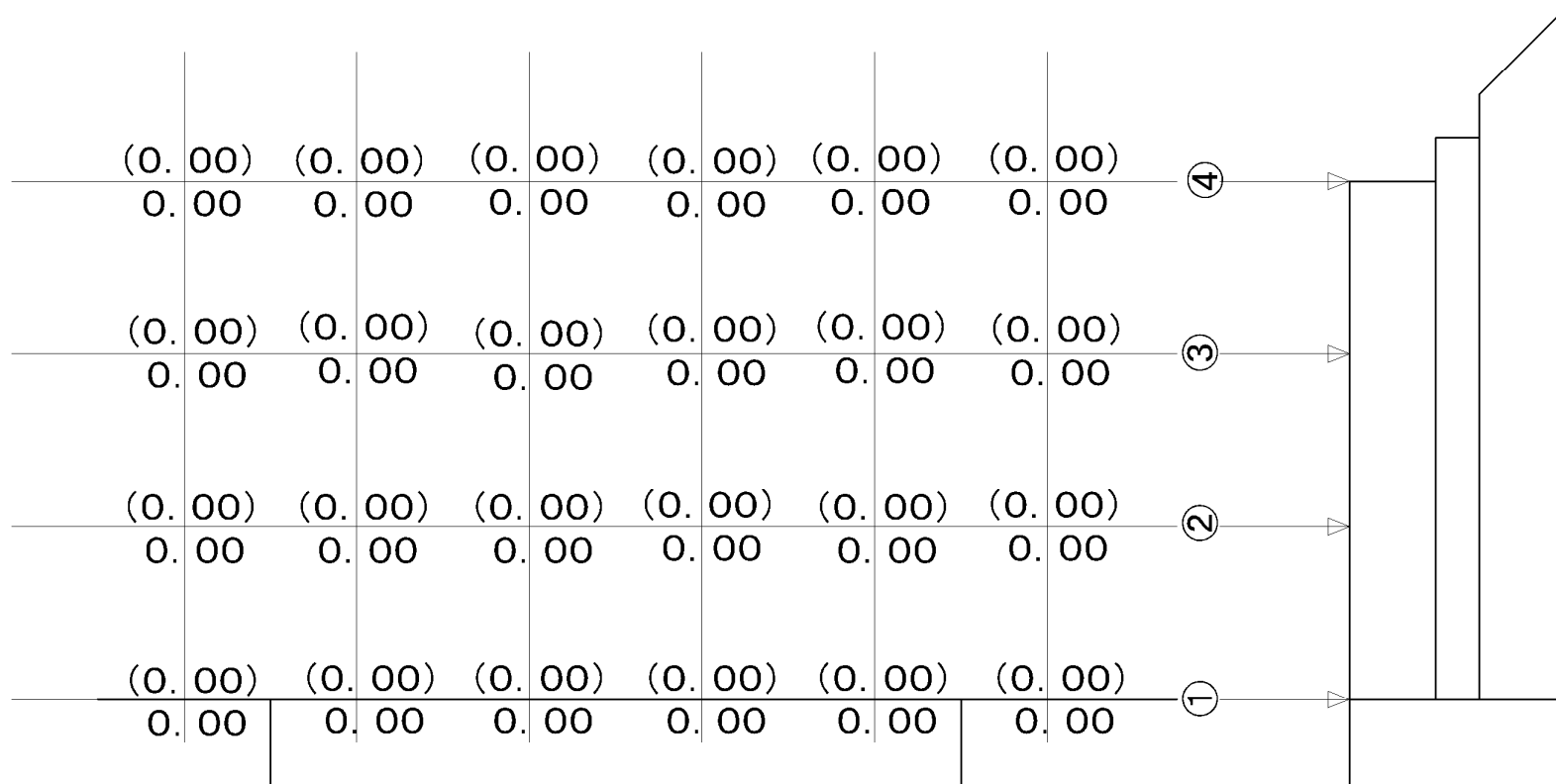
出来形管理基準-253



工事名: _____

舗装出来形管理図

様式・出来形1-14-3(2)



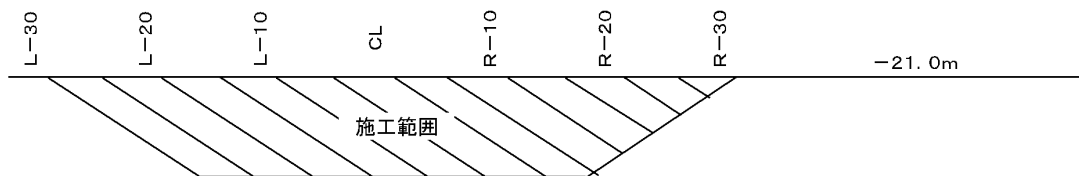
凡 例
(): 設計値
実 数: 実測値

置換材出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

測点	種別	天 端 高						天 端 幅		延 長			
		L-30m	L-20m	L-10m	CL	R-10m	R-20m	R-30m	港外側	港内側	港外側	法線上	港内側
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇+〇. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇+〇. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇+〇. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												



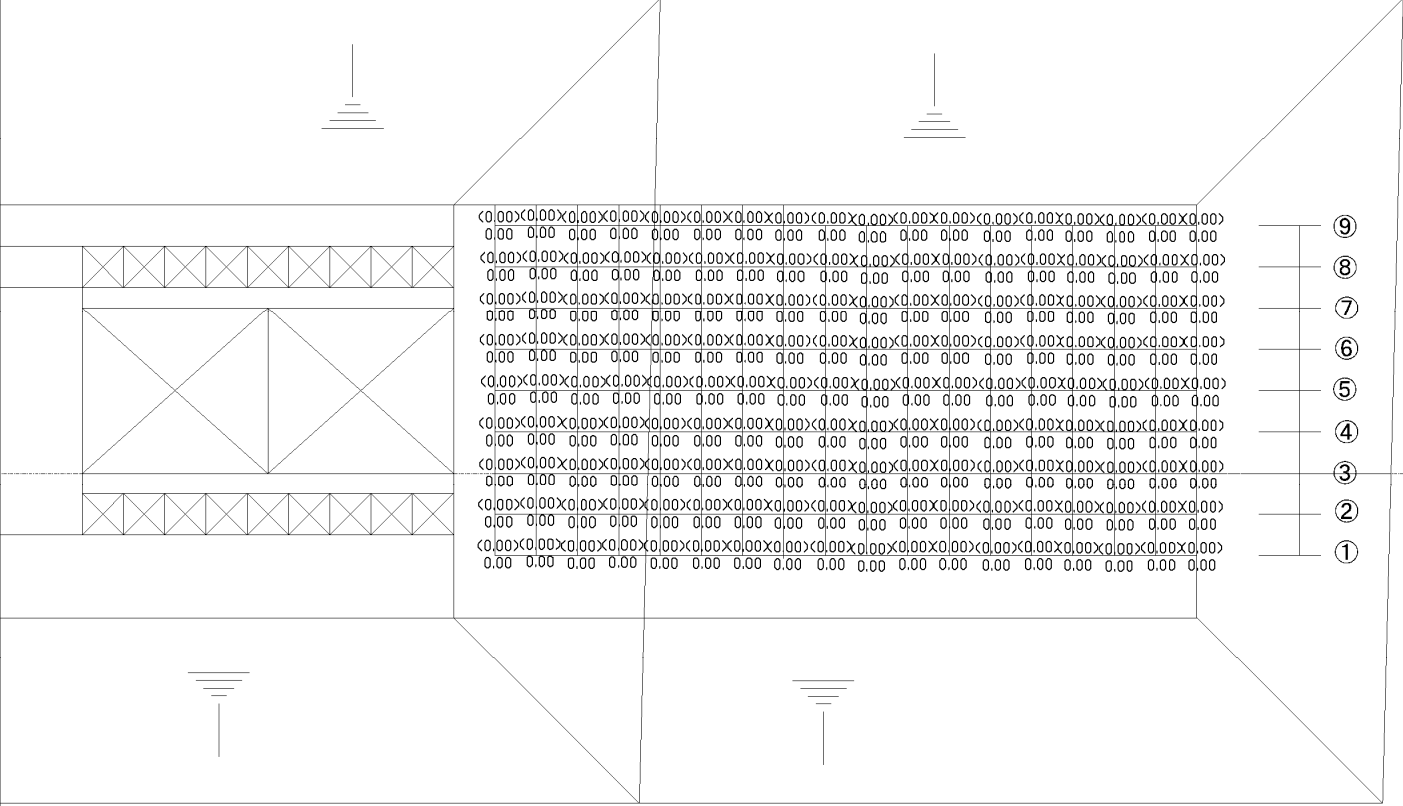
工事名: _____

基礎石均し出来形管理図(1)

様式・出来形4-3-2(1)

平面図

港内側



No. 00
No. 00
No. 00
No. 00
No. 00
No. 00
No. 00
No. 00
No. 00

港外側

⑨
⑧
⑦
⑥
⑤
④
③
②
①

(1:0)
(-0.0m)
(基礎捨石 00~00Kg/固程度)
(-0.0m)
(0:1)

凡例
():設計値
実数:実測値

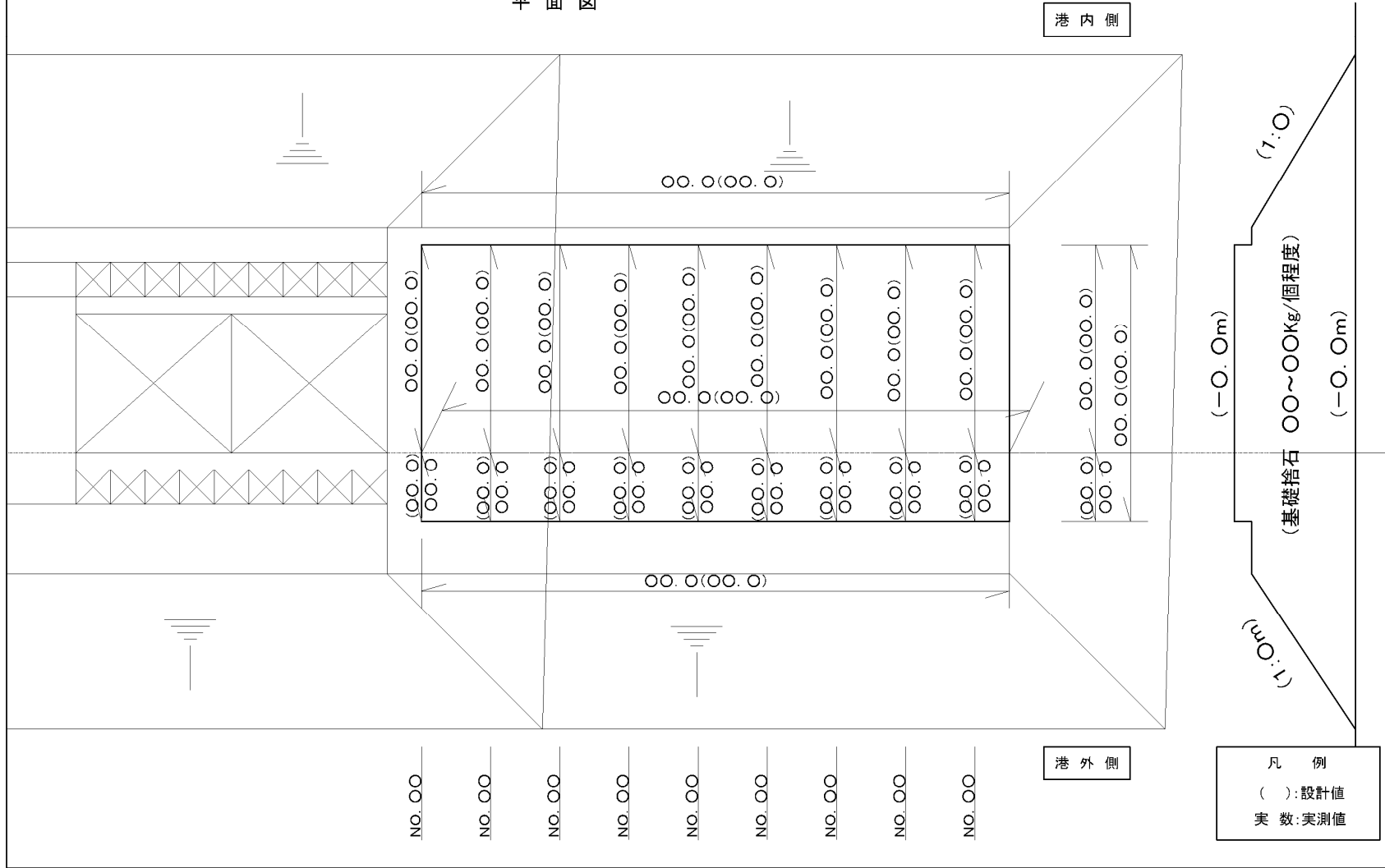
出来形管理基準-256

工事名: _____

基礎石均し出来形管理図(2)

様式・出来形4-3-2(2)

平面図

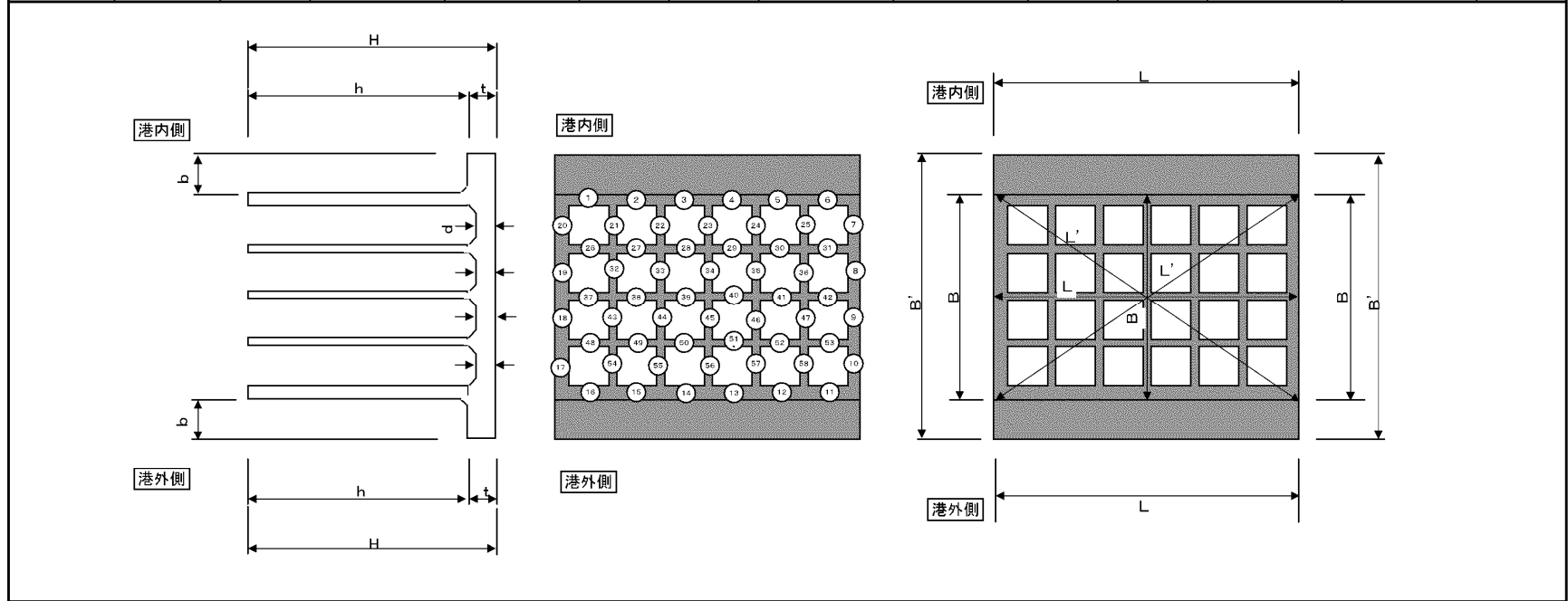


ケーソン製作出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

測定項目	規格	箇所	測定値	検査値	差	箇所	測定値	検査値	差	箇所	測定値	検査値	差
<壁厚> 側壁=〇〇 隔壁=〇〇	±〇〇												
<フチガ> B'=〇〇 L=〇〇 b=〇〇 t=〇〇	+〇〇 -〇〇												
<底版厚> d=〇〇	+〇〇 -〇〇												
<延長> L=〇〇	+〇〇 -〇〇												
<幅> B=〇〇	+〇〇 -〇〇												
<対角> L'=〇〇	±〇〇												
<高さ> H=〇〇	+〇〇 -〇〇												

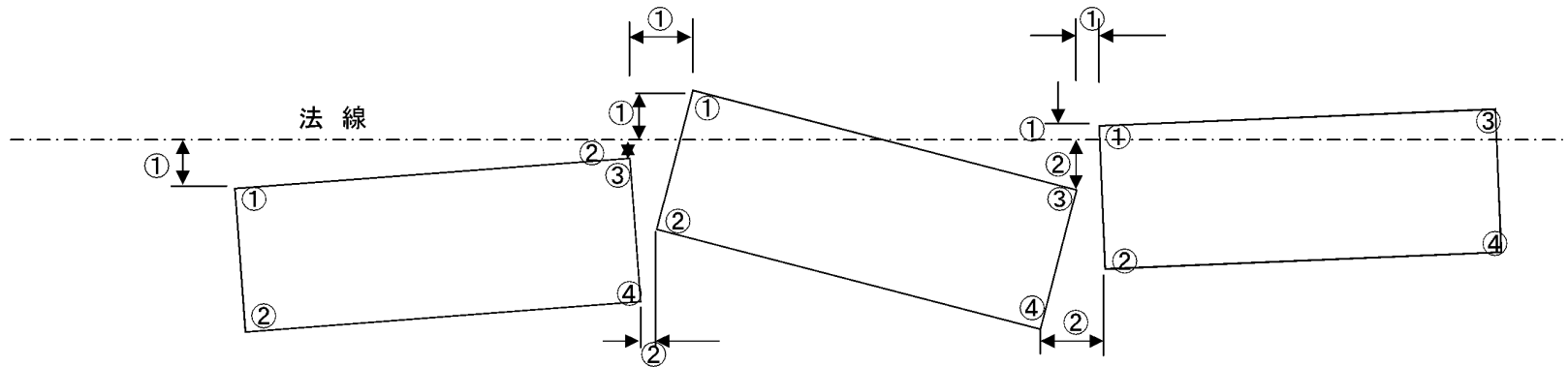


ケーソン据付出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

ケーソン 番号	法線に対する出入り					据付目地間隔					天端高さ				
	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差
NO. 1						-					①				
											②				
											③				
											④				



出来形管理基準-259

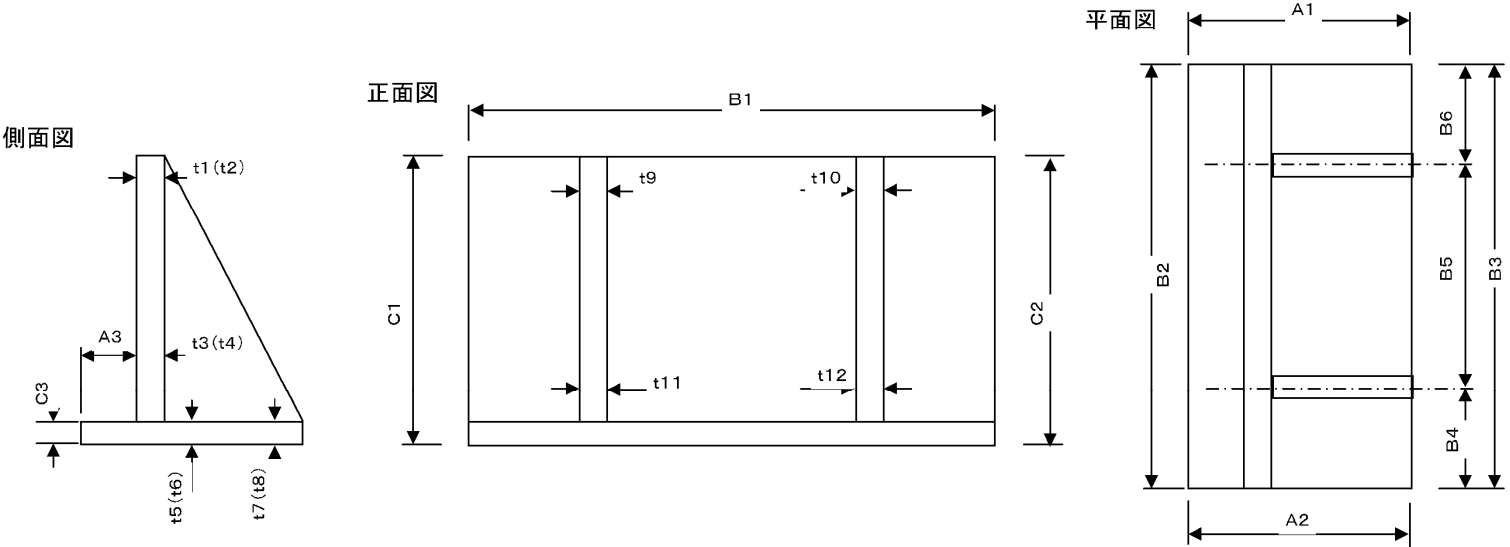
L型ブロック製作出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

製作番号	幅			長さ						高さ			各部分材厚さ												
	A1	A2	A3	B1	B2	B3	B4	B5	B6	C1	C2	C3	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	t9	t10	t11	t12	
	設計値																								
	実測値																								
	差																								

出来形管理基準-261



セルラーブロック製出来形管理表

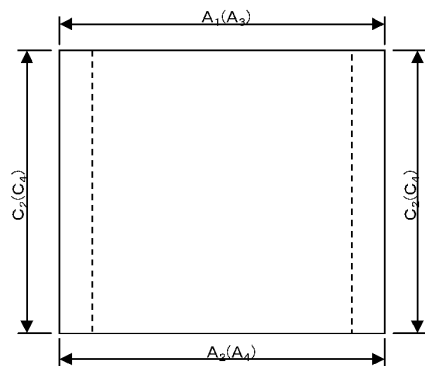
工事名: _____

現場代理人 _____

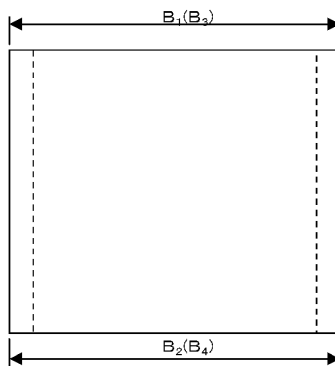
製作番号	幅				長さ				高さ				各 部 材 厚 さ								対角線		
	A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	ℓ1	ℓ2	
	設計値																						
	実測値																						
	差																						
	設計値																						
	実測値																						
	差																						
	設計値																						
	実測値																						
	差																						
	設計値																						
	実測値																						
	差																						
	設計値																						
	実測値																						
	差																						
	設計値																						
	実測値																						
	差																						

出来形管理基準-262

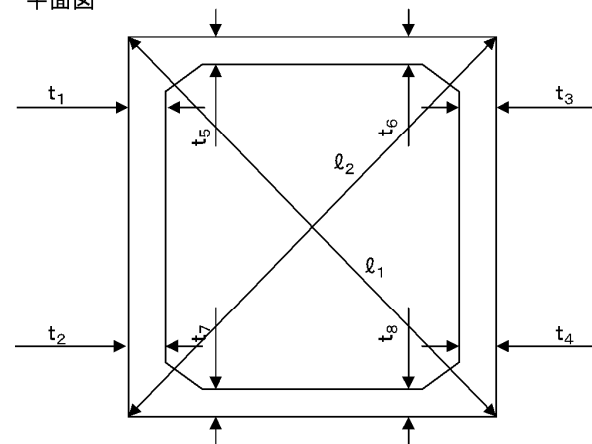
側面図



正面図



平面図



ブロック製作等 外見チェックリスト

工事名: _____

現場代理人 _____

チ ャ ッ ク 項 目

製作番号(ブロックNO)	
製作日	
検査日	
大きな気泡はないか	
ひびわれはないか	
豆板(ジャンカ)はないか	
ワイヤー傷はないか	
ブロックのカケはないか	
泥などの付着はないか	
ナンバリングに誤記はないか	
その他	
総 評	

略 図

工事名: _____

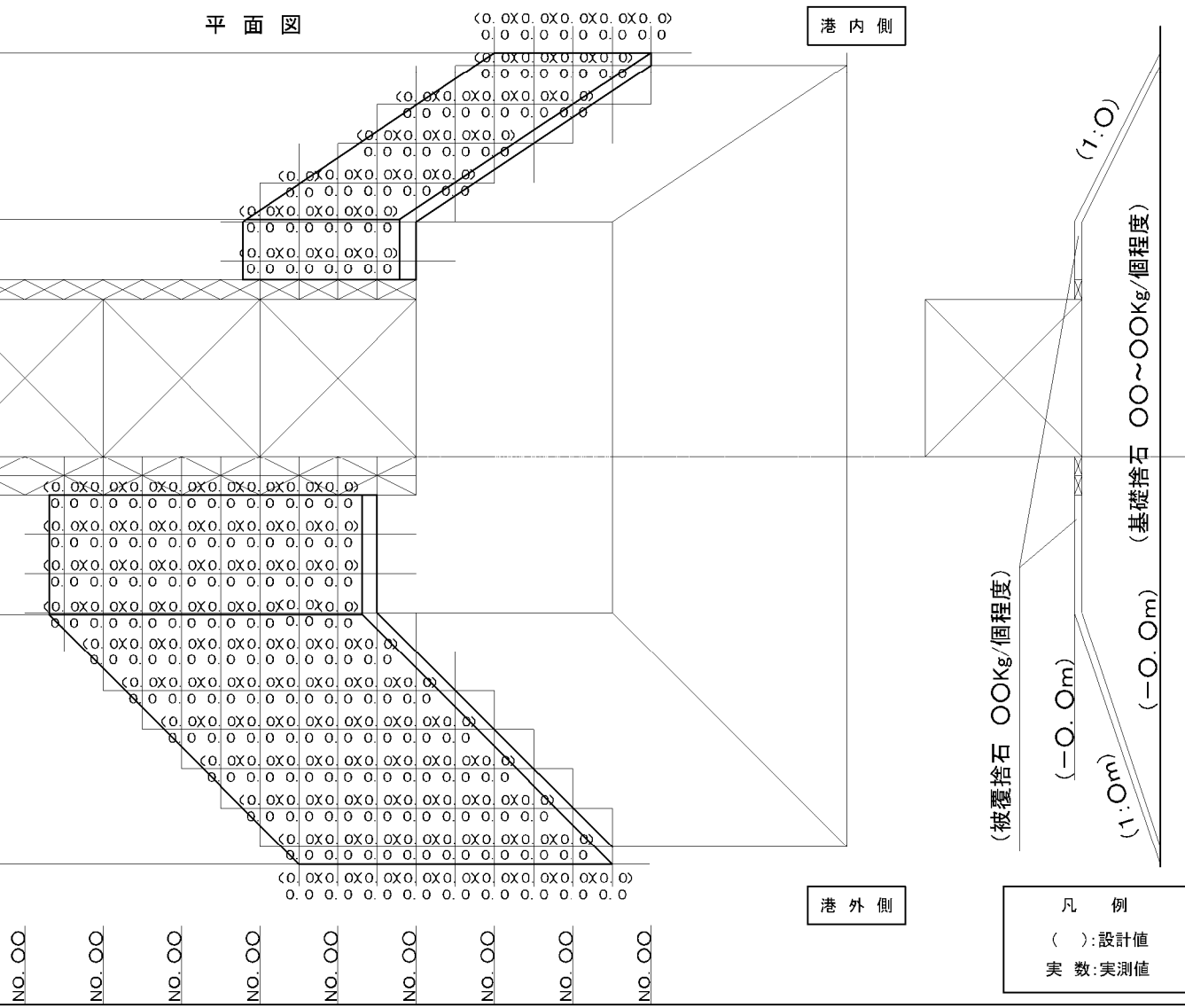
様式・出来形13-1-1(1)

被覆石均し出来形管理図(1)

平面図

港内側

港外側



出来形管理基準-264

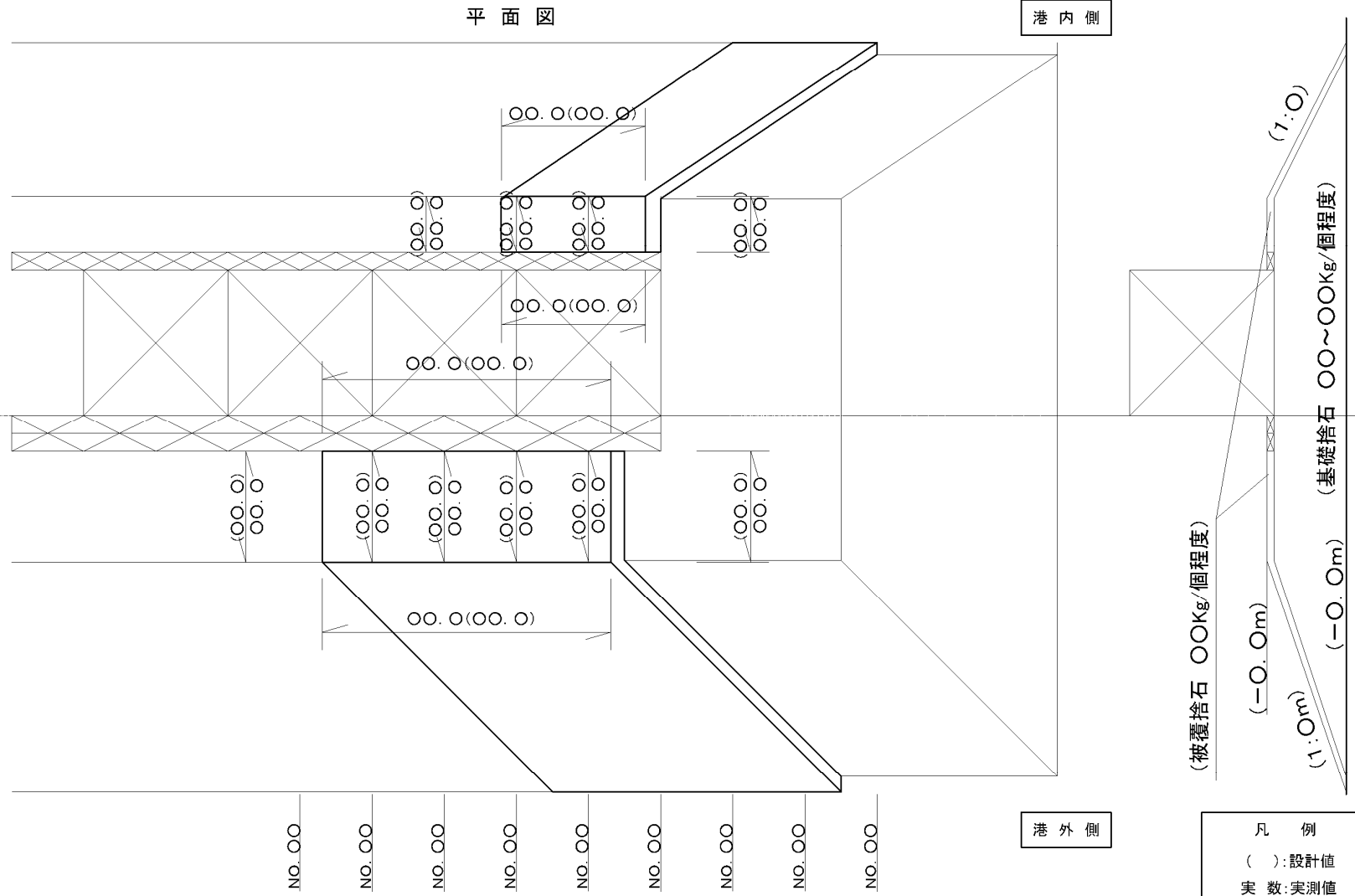
凡例
 (): 設計値
 実数: 実測値

工事名: _____

様式・出来形13-1-1(2)

被覆石均し出来形管理図(2)

平面図



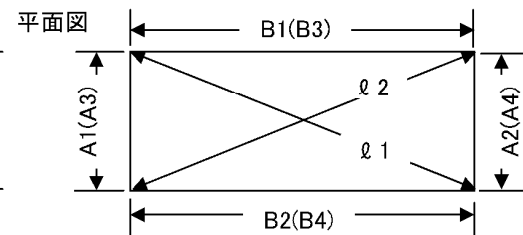
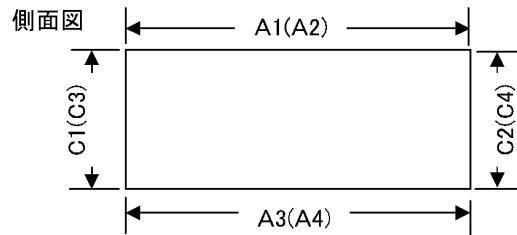
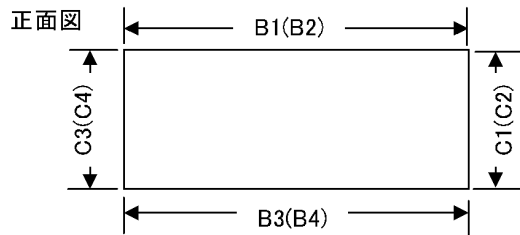
根固ブロック製作出来形管理表

平成 年 月 日

工事名: _____

現場代理人 _____

製作番号	長さ				幅				長さ				対角線		備考
	上側		下側		上側		下側		右側		左側		ℓ1	ℓ2	
	B1	B2	B3	B4	A1	A2	A3	A4	C1	C2	C3	C4			
設計値 実測値 差															



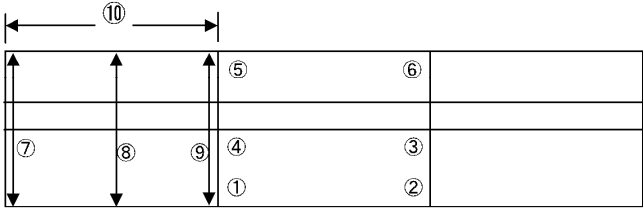
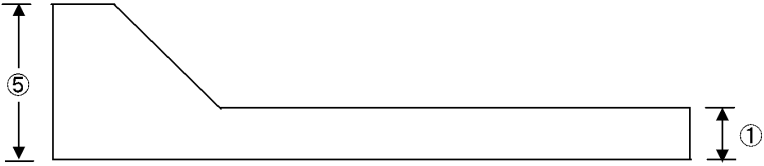
上部コンクリート(防波堤)出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

ケース等 NO.	測定月日	天 端 高 (厚 さ)				天 端 幅				延 長				法線に対する出入り			
		測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差
		①				⑦				⑩							
		②				⑧											
		③				⑨											
		④															
		⑤															
		⑥															

出来形管理基準-267



上部コンクリート(岸壁)出来形管理表

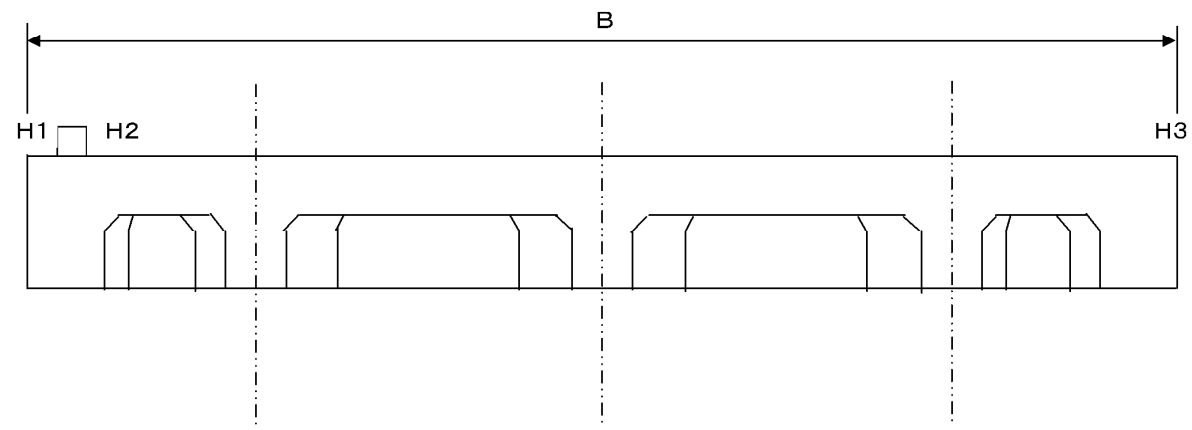
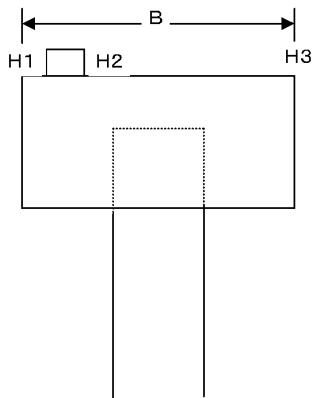
様式・出来形14-1(2)

平成 年 月 日

工事名: _____

現場代理人 _____

測点	天 端 高 (厚 さ)									天 端 幅			延 長			法線に対する 出 入 り		
	H1			H2			H3			B			L					
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差



出来形管理基準-268

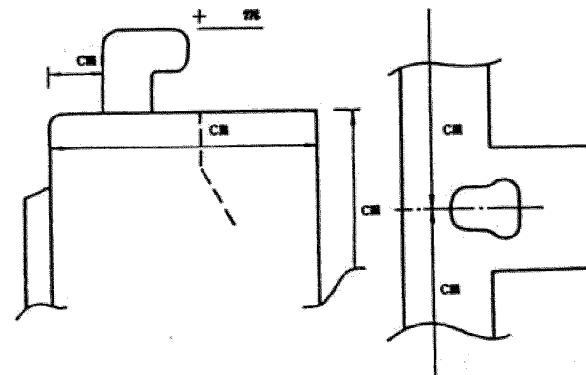
係船柱出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

番号	岸壁前面に対する出入り	天端高	中心間隔	基礎コンクリート(直柱)			備	考
				幅	長さ	高さ		
基点Oより	—	—	—	—	—	—		

係船柱測定位置図



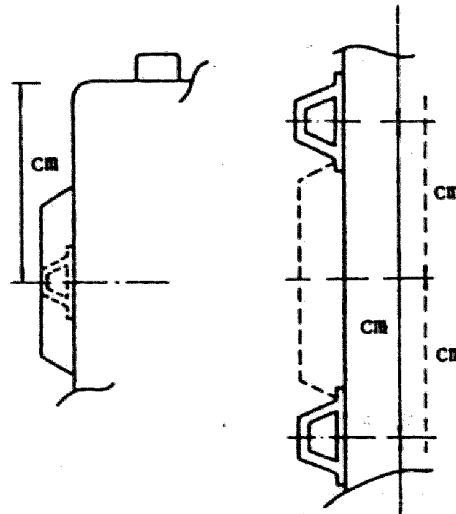
防舷材出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

番号	取付高さ	中心間隔	備	考
基点0より	—	—		

防舷材測定位置図



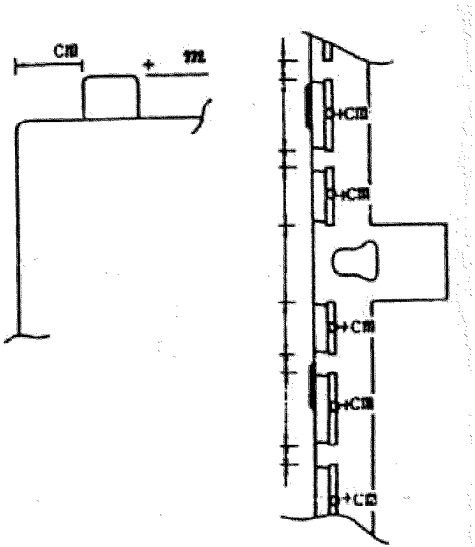
車止出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

番号	岸壁前面に対する出入り	天端高	取付間隔	備	考
基点0より	—	—	—		

車止測定位置図



出来形管理基準-271

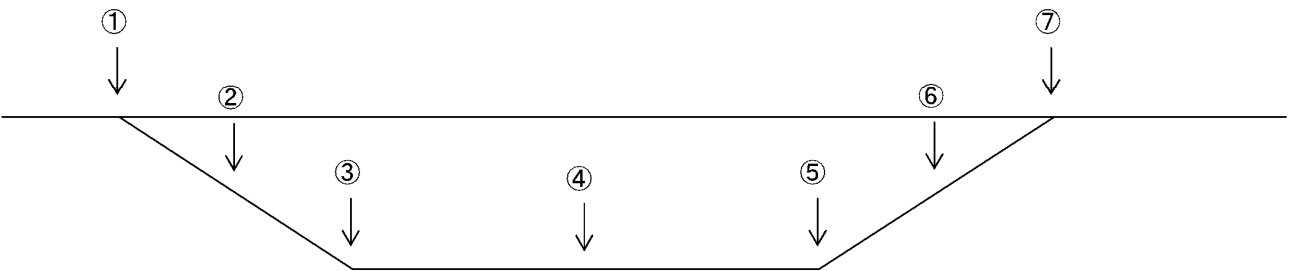
土砂掘削出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

測点	種別	高 さ							幅			延 長		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	○~○	○~○	○~○	○線上	法線上	○線上
No. 〇〇	設計値													
	測定値											No. 〇〇	No. 〇〇	No. 〇〇
	差											}	}	}
No. 〇〇														
No. 〇〇														

出来形管理基準-272



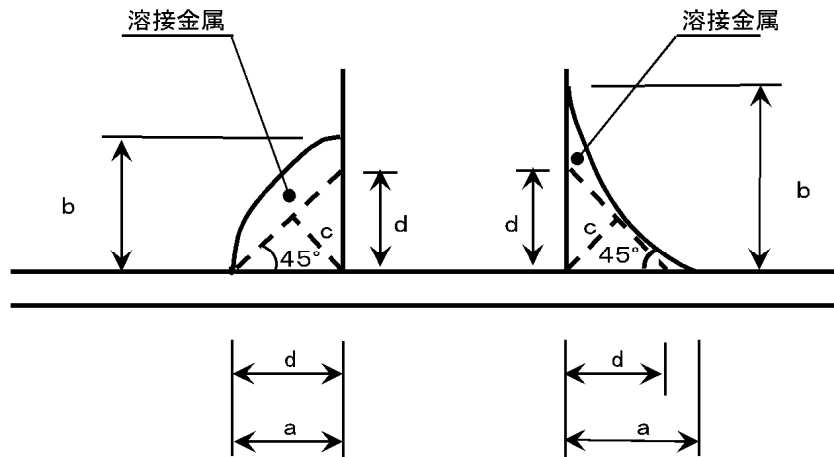
すみ肉溶接出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

測定箇所	溶接脚長		のど厚	サイズ	溶接長	測定箇所	溶接脚長		のど厚	サイズ	溶接長
	a	b					a	b			
	設計値						設計値				
	実測値						実測値				
	差						差				

出来形管理基準-273



※サイズdの算定について

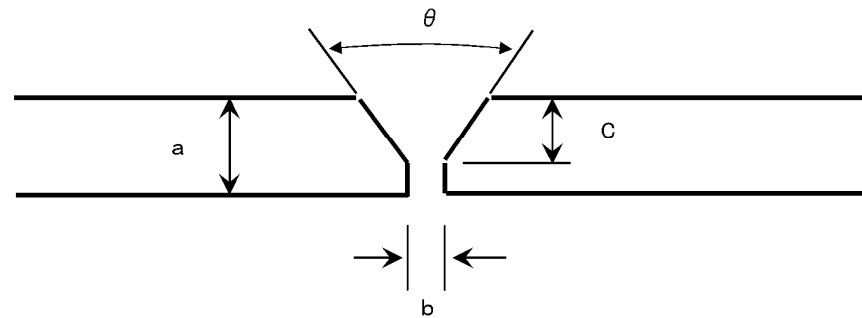
- 2つの脚長a, bの長さが異なる場合、サイズの算定には、短い脚長を基準に45°の線を引き、これをサイズとする。この場合45°の線はすべて熔融金属中にあること。
- 溶接ビード形状が凹型の場合(左図の右側)、溶接ゲージにより、直接のど厚を計測出来るため、サイズは計測しなくて良い。

突合せ溶接出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

測定箇所	のど厚	ルート間隔	開先深さ	開先角度	溶接長	測定箇所	のど厚	ルート間隔	開先深さ	開先角度	溶接長	
	a	b	c	θ			a	b	c	θ		
	設計値						設計値					
	実測値							実測値				
	差								差			



鉄筋フレア溶接出来形管理表

工事名: _____

現場代理人 _____

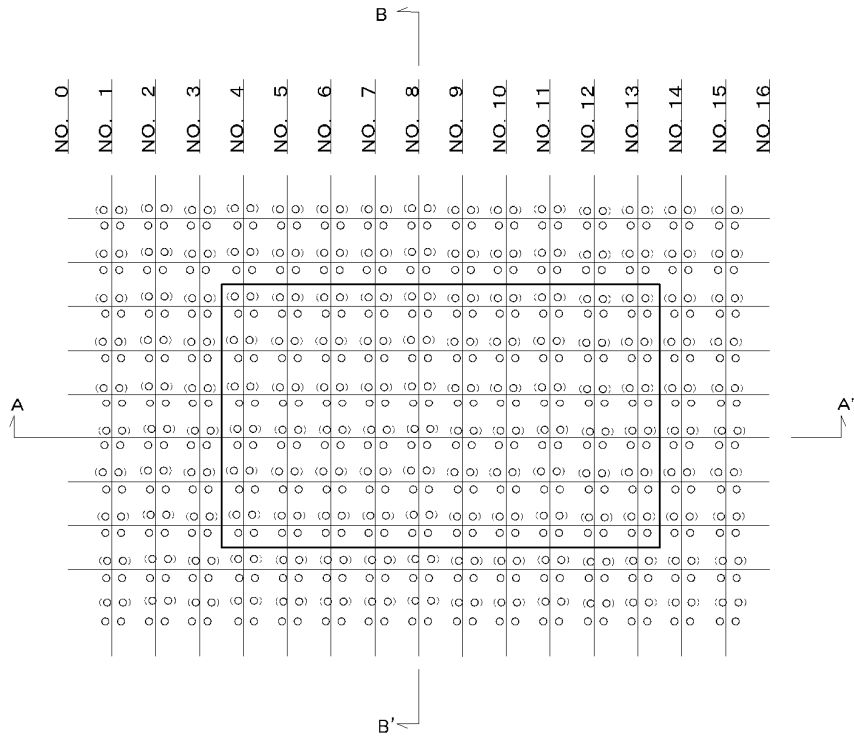
測定箇所		鉄筋径 D	のど厚 a	溶接長	測定箇所		鉄筋径 D	のど厚 a	溶接長
	設計値					設計値			
	実測値					実測値			
	差					差			

工事名: _____

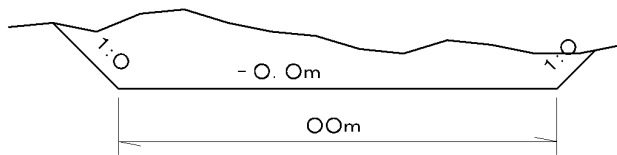
様式・出来形25-1(2)

浚渫出来形管理図

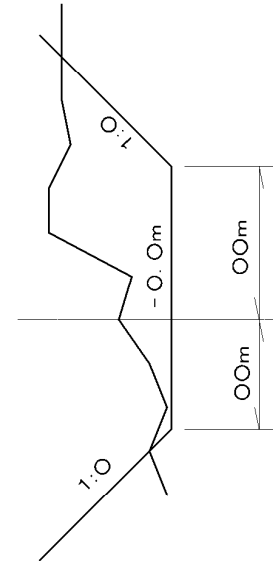
深 浅 図



A-A' 断面



B-B' 断面



凡 例
 (): 設計値
 実 数: 実測値